

第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン・
アクションプラン2023

パブリックコメント意見集

札幌市

目次

1	パブリックコメントの概要	1
2	パブリックコメントの内訳	2
3	意見に基づく当初案からの変更点	3
4	パブリックコメントの意見の概要とそれに対する札幌市の考え方	6
	第1章 計画の基本的考え方	6
	第2章 まちづくりの取組	9
	まちづくりの分野1:子ども・若者	9
	まちづくりの分野2:生活・暮らし	36
	まちづくりの分野3:地域	49
	まちづくりの分野4:安全・安心	52
	まちづくりの分野5:経済	58
	まちづくりの分野6:スポーツ・文化	64
	まちづくりの分野7:環境	71
	まちづくりの分野8:都市空間	80
	各区の取組	94
	第3章 行財政運営の取組:行政運営の取組	95
	行財政運営の取組:財政運営の取組	99
	その他	103
	分野横断プロジェクトに関する主な意見について	105

1 パブリックコメントの概要

(1)意見募集の概要

札幌市の10年間のまちづくりの基本的な指針である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」の中期実施計画として取りまとめた「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン 2023(案)」について、市民から意見を広く募集しました。いただいたご意見を参考に、当初案を一部変更しました。

(2)意見募集期間

令和5年(2023年)10月30日(月曜日)~11月28日(火曜日)まで(30日間)

(3)意見提出方法

FAX、札幌市公式ホームページ上の意見提出フォーム、電子メール、郵送、持参など

(4)資料の配布・閲覧場所

札幌市役所本庁舎

2階市政刊行物コーナー/5階まちづくり政策局政策企画部政策調整課

各区役所(総務企画課広聴係)

各まちづくりセンター

札幌市公式ホームページ など

(5)意見募集の周知方法

広報さっぽろ 11月号

札幌市公式ホームページへの掲載

(6)子ども出前講座

実施時期:令和5年(2023年)11月2日(木)~11月27日(月)

参加者 :札幌市内の小学生 232人(3校)、中学生 188人(2校)、
高校生 27人(1校)

実施手法:市職員が学校へ赴き、これからの札幌市が目指すべき都市像の実現に向け、札幌市が5年間で行う事業を取りまとめたアクションプラン 2023(案)について、子どもたちに説明を行った上で、質疑応答を行いました。

(7)北海道大学公共政策大学院でのセミナー開催

実施時期:令和5年(2023年)11月15日(水)

参加者 :北海道大学公共政策大学院生等

実施手法:北海道大学公共政策大学院生等を対象に、アクションプラン 2023(案)をテーマにセミナーを開催し、質疑応答を行いました。

2 パブリックコメントの内訳

(1)意見提出者数・意見数(年代別)

年代	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
人数	286	6	17	10	10	12	2	343
件数	460	8	31	16	22	62	4	603

(2)提出方法別内訳

提出方法	FAX	ホームページ	電子メール	郵送	出前講座※	合計
人数	2	40	5	6	290	343
構成比	0.6%	11.7%	1.5%	1.7%	84.5%	100.0%

※子ども出前講座、北海道大学公共政策大学院でのセミナーにていただいた意見

(3)意見内訳

分 類	パブリックコメント	
	件数	構成比
第1章 計画の基本的考え方	10	1.7%
第2章 まちづくりの取組	552	91.5%
1 子ども・若者	222	36.8%
2 生活・暮らし	70	11.6%
3 地域	15	2.5%
4 安全・安心	30	5.0%
5 経済	33	5.5%
6 スポーツ・文化	48	8.0%
7 環境	59	9.8%
8 都市空間	73	12.1%
各区の取組	2	0.3%
第3章 行財政運営の取組	34	5.7%
行政運営の取組	15	2.5%
財政運営の取組	19	3.2%
その他	7	1.0%
合 計	603	100.0%

3 意見に基づく当初案からの変更点

市民の皆様からいただいたご意見をもとに、アクションプラン 2023 の当初案から 4 項目修正しました。ご意見は趣旨が変わらない程度に要約しています。

修正内容①

修正箇所	P.2 第1章 1(1)計画策定の趣旨
修正前	これまで増加してきた札幌市の人口は減少局面を迎え、人口構造にも変化が生じることが見込まれています。また、 <u>地震や大雪など脅威を増している</u> 自然災害、感染症による人々の行動変容やデジタル化の進展など、今後も札幌市を取り巻く社会経済情勢は大きく揺れ動いていくことが見込まれます。
修正後	これまで増加してきた札幌市の人口は減少局面を迎え、人口構造にも変化が生じることが見込まれています。また、 <u>大規模地震や大雪などの</u> 自然災害、感染症による人々の行動変容やデジタル化の進展など、今後も札幌市を取り巻く社会経済情勢は大きく揺れ動いていくことが見込まれます。

修正の元となった意見

意見の概要	本書 P2 本文2行目について、2018 年の地震は記憶に新しいですが昔から大きな地震は発生しており、「脅威を増している」という表現は正しいのか疑問のため、確認してほしい。また、降雪量、積雪量についても「脅威を増している」という表現は正しいのか、事実と異なる表現は誤解を招くため避けるべき。
札幌市の考え方	「脅威を増している」という表現は誤解を招く可能性があるため、ご意見を踏まえ記載を修正します。

修正内容②

修正箇所	P.56 第2章 学校施設冷房設備整備事業
修正前	(事業内容) 子どもが夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境を確保するため、 <u>学校施設に冷房設備を整備します。</u>
修正後	(事業内容) 子どもが夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境を確保するため、 <u>2027年度までに市立幼稚園・学校の普通教室等にエアコンを整備します。また、2024年夏に間に合うよう保健室にエアコンを整備するほか、普通教室や特別支援学習室に移動式エアコンを導入します。</u>

修正の元となった意見

意見の概要	学校へのエアコンの設置はいつから始めるのか教えてほしい。
札幌市の考え方	夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境の確保は重要だと考えており、2027年度までに市立幼稚園・学校の普通教室等にエアコンを整備していきます。また、2024年夏に間に合うよう保健室にエアコンを整備するほか、普通教室や特別支援学習室に移動式エアコンを導入します。ご意見を踏まえ、事業内容の記載を修正します。

修正内容③

修正箇所	P.68 第2章 がん対策推進事業
修正前	(事業名) がん <u>対策推進</u> 事業 (事業内容) がんの1次予防・がん検診、がん患者の社会的な問題への対策などを図るため、札幌市がん対策推進プランを策定し、 <u>総合的ながん対策</u> を実施します。
修正後	(事業名) がん <u>患者の社会活動支援</u> 事業 (事業内容) がんの1次予防・がん検診、がん患者の社会的な問題への対応などを図るため、札幌市がん対策推進プランを策定するとともに、 <u>ウィッグの購入費助成等</u> を実施します。

修正の元となった意見

意見の概要	「がん対策推進事業」という事業名が分かりづらいので、再考してほしい。
札幌市の考え方	本事業は「自分らしい日常生活を送れていると感じるがん患者の割合の増加」を目標に掲げ、がん患者の就労支援やがん治療による外見の変化に対する支援などに取り組むこととしています。ご意見を踏まえ、事業内容がより伝わりやすくなるよう、事業名を「がん患者の社会活動支援事業」に修正するとともに、事業内容の記載を修正します。

修正内容④

修正箇所	P.134～P.173 第2章 4各区の取組
修正前	—
修正後	各区で実施予定の主にハード整備に係る事業を地図付きでまとめたページに各区のマスコットキャラクター等を掲載。

修正の元となった意見

意見の概要	区ごとのマスコットキャラクターについてよく分からないので、それぞれいるのかなど教えてほしい。
札幌市の考え方	各区で実施予定の主にハード整備に係る事業を地図付きでまとめたページに各区のマスコットキャラクター等を掲載します。

4 パブリックコメントの意見の概要とそれに対する札幌市の考え方

第1章 計画の基本的考え方

意見の概要	600 個の事業の中で実施することが難しいものはあるか。
札幌市の考え方	各事業には、それぞれに計画期間内の目標が設定されており、その達成に向けて取り組んでいきますが、進捗状況を適宜把握するとともに課題を洗い出し、より良くするための見直しなどを毎年度の予算編成において反映させていくことで、計画をしっかりと進めていきます。

意見の概要	まちを活気づけたり、利益を出したいというのは分かるが、再開発やオリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致などにお金を使うのであれば、少子高齢化対策などにもっと予算を割り振れないか。
札幌市の考え方	札幌市が担う行政分野は非常に幅広く、再開発などのまちのリニューアルも、少子高齢化対策も共に重要な市政課題であり、アクションプラン 2023 の策定に当たっては、いずれも優先度が高いものと判断し、計画に計上しています。

意見の概要	行政なので、ありとあらゆる市民サービスを提出する必要があると思うが、計画の実施に当たっては、どこに重点を置くのかといった事業の差別化が必要である。アクションプランで計上している事業の優先度が見えにくい。
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 では、子ども・子育て施策の更なる充実に加え、まちの魅力と活力の更なる向上に向けた取組などを積極的に計上しています。さらに、第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンに定める5つの分野横断プロジェクトに関連が深い事業を関連づけ、分野横断プロジェクトの取組を進めていくこととしており、この取組を通じて、施政方針に掲げる2つの「未来のさっぽろ」の実現を目指していきます。

意見の概要	北海道他都市の過疎化の原因として、札幌への人口集中が関係しているため改善すべき。
札幌市の考え方	札幌市の社会経済活動は道内各地域に支えられている一方、札幌市は大都市として各地域を支える役割を担っており、札幌市と北海道の発展は一体の関係にあります。今後は道内市町村と更に連携を深めるとともに、国内外から活力を呼び込んでいくことで、北海道全体の活性化に取り組んでいきます。

意見の概要	札幌市の1人当たりの平均所得が低い理由を教えてください。
札幌市の考え方	札幌市民の1人当たりの所得が低い理由については、様々な要因が考えられるため一概に言えませんが、2020年度社会・人口統計体系(総務省統計局)によると、札幌市の完全失業率は4.7%であり、20政令指定都市中2番目に高い数値です。また、2022年就業構造基本調査(総務省統計局)によると、札幌市内の非正規の職員・従業員の割合は39.9%であり、20政令指定都市中最も高い数値です。これらを始めとした様々な理由により、札幌市民の1人当たりの所得が他の政令指定都市よりも低くなっていると考えられます。

意見の概要	札幌の人口はどのように把握しているのか。
札幌市の考え方	札幌市の人口は5年に1度実施される国勢調査により把握しています。また、国勢調査以降の毎月の人口は、国勢調査で把握した人口に、住民基本台帳による毎月の人口の増減(出生、死亡、転入、転出)を加えて算出しています。

意見の概要	税金を有効に使ってほしい。
札幌市の考え方	アクションプラン2023では、限られた財源の中で市民サービスの充実などを進めていくために、数多くの事業の中からこの5年間に優先して取り組むものを厳選し、納めていただいた税金を含む財源を有効に活用しています。また、実際に事業を実施する際にも経費の節減に努め、財源の有効活用に努めます。

意見の概要	改修工事や学校照明のLED化などについては、物価上昇が続いているため現在の事業費では賄えないと思うが、その点はどのように考えているのか。
札幌市の考え方	今後、各年度の予算編成時に、その時点の物価上昇の状況を踏まえて対応を検討していきます。

意見の概要	分野横断プロジェクトマークが付いていないものは、分野横断的には行わないものなのか。マークが付いていないものについても、分野横断的に取り組むべき。
札幌市の考え方	札幌市では、「目指すべき都市像」の実現に向け、分野横断的に取り組む施策として、人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし持続的に成長していくために取り組む4つのプロジェクト(ユニバーサル(共生)、ウェルネス(健康)、スマート(快適・先端)1、スマート(快適・先端)2)と、人口減少の緩和を進めていくために取り組むプロジェクトの計5つの分野横断プロジェクトを設定しています。これらの分野横断プロジェクトには当てはまらず、マークが付いていないものについても、分野をまたがる課題が生じた場合には、関係部局と連携し適切に対応していきます。

第2章 まちづくりの取組

まちづくりの分野1:子ども・若者

意見の概要	移動式エアコン設置は、設置費用や電気代が掛かることから、不要であるとする。1教室に1つ設置で十分である。
札幌市の考え方	夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境の確保は重要だと考えており、学校に整備予定の壁掛けエアコンは、電気容量の改修など大掛かりな工事が必要であるため、全校整備には相当の時間が掛かることから、緊急的な対応として2024年夏に間に合うよう普通教室や特別支援学習室に移動式エアコンを導入します。壁掛けエアコンの整備後については、移動式エアコンを特別教室などの他の場所で活用することを想定しています。

意見の概要	移動式エアコンを整備した後に壁掛けエアコンを整備するのではなく、壁掛けエアコンを一気に整備した方がコストが減るのではないかと。
札幌市の考え方	学校に整備予定の壁掛けエアコンは、電気容量の改修など大掛かりな工事が必要であり、全校整備には相当の時間がかかりますので、緊急的な対応として2024年夏に間に合うよう普通教室や特別支援学習室に移動式エアコンを導入します。

意見の概要	エアコンの設置について、設置スペースをどのように確保していくのか知りたい。
札幌市の考え方	夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境の確保は重要だと考えており、2027年度までに市立幼稚園・学校の普通教室等にエアコンを整備していきます。エアコンの設置スペースについては、検討中です。

意見の概要	エアコン設置に取り組んでいることは聞いたことがなかったので、情報をもっと早く広めるべき。
札幌市の考え方	夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境の確保は重要だと考えており、2027年度までに市立幼稚園・学校の普通教室等にエアコンを整備していきます。また、2024年夏に間に合うよう保健室にエアコンを整備するほか、普通教室や特別支援学習室に移動式エアコンを導入します。各学校の具体的な整備時期や内容が決まった段階で、速やかに情報提供していきます。

意見の概要	学校に設置予定の壁掛けエアコン・移動式エアコンには暖房機能はついているのか知りたい。
札幌市の考え方	学校に設置予定の壁掛けエアコン・移動式エアコンは、暑さ対策が目的であるため、暖房機能の想定はなく既存の暖房設備を継続して使用する想定です。

意見の概要	エアコンに暖房をつけてほしい。
札幌市の考え方	学校に設置予定の壁掛けエアコン・移動式エアコンは、暑さ対策が目的であるため、暖房機能の想定はなく既存の暖房設備を継続して使用する想定です。

意見の概要	各教室へのエアコン設置はお金が掛かると思うが、設置により増えた電気代も市で負担するのか知りたい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境の確保は重要だと考えているため、市立幼稚園・学校のエアコン整備により増えた電気代については、札幌市で負担します。

意見の概要	少子化対策のため、エアコンの整備などの学校内環境を整えるより、結婚・出産・子育てを支える環境へのお金をかけて、親が子育てする費用を軽減させた方が良いのではないかと。
札幌市の考え方	札幌市が担う行政分野は非常に幅広く、子どもたちの健康を守る学校の暑さ対策も、少子化対策のための子育て支援も共に重要な市政課題であり、アクションプラン2023の策定に当たっては、いずれも優先度が高いものと判断し、計画に計上しています。

意見の概要	エアコンを設置するのであれば、夏休みを長くすることは改めて検討し直してほしい。
札幌市の考え方	学校の長期休業の考え方については、休業期間の長さや時期だけでなく、様々な観点から見直しが必要であると考えています。小学校の長期休業期間についても、引き続き教員や子どもの声なども聞きながら、検討を続けていきます。

意見の概要	人口減少が問題なのであれば、エアコン設置よりも医療費支援をより手厚くすべき。
札幌市の考え方	札幌市が担う行政分野は非常に幅広く、課題も様々であることから、分野や目的の異なる事業の事業費の多寡を比較することによって、どちらが有効かを判断することは困難です。一方で、子育て支援は、人口減少対策の一翼を担う非常に重要な分野であることから、子ども医療費助成のほか、第2子以降の保育料の無償化や、学校給食費の家計負担への支援など、様々な取組による切れ目ない支援を進めていきます。

意見の概要	エアコン設置するのではなく、1人1台小型扇風機を配布すればよいのではないか。
	エアコン設置もよいが、小型扇風機を1人1台配布してもよいのではないか。
札幌市の考え方	夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境の確保は重要だと考えており、小型扇風機では教室内の室温低下の効果が弱く、抜本的な熱中症対策にならないため、学校の普通教室等にエアコンを整備していきます。

意見の概要	学校のエアコン設備設置は、時間がかかっても、教室だけでなく、音楽室などの特別教室にも設置してほしい。(類似意見1件)
札幌市の考え方	夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境の確保は重要だと考えており、2027年度までに市立幼稚園・学校の普通教室等にエアコンを整備していきます。また、2024年夏に間に合うよう保健室にエアコンを整備します。このほかの整備については、今後検討していきます。

意見の概要	学校への冷房設備の整備は、廊下などに設置することで整備数を減らし効率化すべき。
札幌市の考え方	エアコンについては、各学校の教室の配置等を踏まえ、最も効率的な冷房効果が生じるよう整備を進めていきます。

意見の概要	エアコンを学校に早く設置してほしい。(類似意見43件)
	学校へのエアコン設置は、少しずつ行うべき。
札幌市の考え方	夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境の確保は重要だと考えており、2027年度までに市立幼稚園・学校の普通教室等にエアコンを整備していきます。また、2024年夏に間に合うよう保健室にエアコンを整備するほか、普通教室や特別支援学習室に移動式エアコンを導入します。

意見の概要	エアコンを学校に早く設置するか、夏の間、ジャージで登校できる日数を増やしてほしい。
札幌市の考え方	夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境の確保は重要だと考えており、2027年度までに市立幼稚園・学校の普通教室等にエアコンを整備していきます。また、2024年夏に間に合うよう保健室にエアコンを整備するほか、普通教室や特別支援学習室に移動式エアコンを導入します。ジャージ登校の期間等に関しては、教育活動の内容や熱中症対策等の健康面に配慮し、学校の実情に応じて柔軟に判断していきます。

意見の概要	私立学校にも冷房設備の設置をしてほしい。
札幌市の考え方	夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境の確保は重要だと考えており、2027年度までに市立幼稚園・学校の普通教室等にエアコンを整備していきます。私立学校については、各学校設置者へお問い合わせください。

意見の概要	学校施設冷房整備事業について、2024年度から292校にしてほしい。
札幌市の考え方	学校に整備予定の壁掛けエアコンは、電気容量の改修など大掛かりな工事が必要であり、全校整備には相当の時間がかかりますので、緊急的な対応として2024年夏に間に合うよう普通教室や特別支援学習室に移動式エアコンを導入します。

意見の概要	安心安全にスポーツに取り組むため、学校の体育館にエアコンをつけてほしい。
札幌市の考え方	夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境の確保は重要だと考えており、2027年度までに市立幼稚園・学校の普通教室等にエアコンを整備していきます。このほかの整備については、今後検討していきます。

意見の概要	保育園にエアコンを設置してほしい。(類似意見7件)
札幌市の考え方	夏の暑さへの対応にはエアコン設置が必要と認識しており、公立保育所等では「公立保育所冷房設備設置事業」にて、冷房設備設置を進めていきます。また、私立保育所等では「保育施設設備等導入補助金」にて、冷房設備の新規設置費用を支援することにより設置を進めていきます。

意見の概要	幼稚園にエアコンを設置してほしい。
札幌市の考え方	夏季期間においても安全かつ快適に学ぶことができる環境の確保は重要だと考えており、2027年度までに市立幼稚園の保育室等にエアコンを整備していきます。また、2024年夏に間に合うよう保健室にエアコンを整備するほか、保育室に移動式エアコンを導入します。なお、私立幼稚園については、各設置者へお問い合わせください。

意見の概要	子ども医療費助成の拡大について、一度に高校3年生まで拡大しないのはなぜか知りたい。
札幌市の考え方	子ども医療費助成については、現在の小学6年生への助成を途切れさせないよう、まずは2024年4月から中学3年生まで対象を拡大することとし、更に新たに対象となる中学3年生が、その後、高校1年生になった際も引き続き助成対象となるよう、2025年4月からは高校3年生まで拡大することとしました。この対象拡大の時期は、限られた準備期間の中で最大限早期の実施となるよう設定したものです。

意見の概要	子ども医療費助成制度の所得制限を撤廃してほしい。(類似意見 4 件)
札幌市の考え方	子ども医療費助成制度においては、政令指定都市の状況や他の医療費助成制度(重度心身障がい者医療費助成制度、ひとり親家庭等医療費助成制度)とのバランス、将来にわたる事業の持続可能性などを踏まえて検討を重ね、対象年齢を拡大することとしました。あわせて、他の2つの医療費助成制度の拡充も行い、障がいをお持ちの方、ひとり親家庭の方の負担もやわらげることとしたところです。子ども医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成、重度心身障がい者医療費助成の3つの医療費助成制度を合わせて、2023年度予算にはおよそ90億円を計上しているところですが、さらに、およそ20億円の財源を確保し、2024年度以降、3つの制度それぞれについて、順次対象を拡大していくこととしました。子ども医療費助成制度の所得制限の在り方につきましては、他の2つの医療費助成制度とのバランスや、札幌市の財政状況などを踏まえながら、今後検討を行っていきます。

意見の概要	子ども医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成などの事業について、医療機関側が本来実施していない医療行為を水増しして請求する等の不正が助長されるため、医療費を無料とすることに反対する。本来の負担額の一部を助成するといった方法ではいかがか。また、子どもに関する事業は世帯収入に関わらず一律で実施していただきたい。
札幌市の考え方	子ども医療費助成は、子育て世帯の医療費負担の軽減のため大変重要な制度と認識しており、子育て環境の一層の充実を図るため助成対象を拡大することとしました。また、医療機関からの請求内容については、各保険者において点検・精査が行われており、例えば札幌市国民健康保険では年間およそ7億円程度の医療費適正化効果を上げているところです。なお、所得制限の在り方などについては、ひとり親家庭等医療費助成制度など他の医療費助成制度とのバランスや、札幌市の財政状況などを踏まえながら、今後検討を行っていきます。

意見の概要	少子化を止めるため、風邪をひきやすい年代である幼児から中学生までは子ども医療費は全額無料にしてほしい。
札幌市の考え方	子どもの医療費助成については、2024年4月から中学生の通院医療費を新たに助成対象とすることとしています。現在は、助成を受ける方にも一定の負担を求める観点から初診時の一部負担金(医科 580円など)を設けています。この負担の在り方については、札幌市の財政状況などを踏まえながら、今後検討を行っていきます。

意見の概要	子ども医療費助成の対象を高校3年生まで拡大することに優先的に取組んでほしい。
札幌市の考え方	子どもの医療費助成については、2024年4月から中学生の通院医療費を新たに助成対象とし、2025年4月からは高校生の入通院医療費を新たに助成対象とするところです。

意見の概要	子ども医療費助成事業について、2024年度から高校3年生まで拡充してほしい。その際、初診時一部負担金や所得制限もなくしてほしい。
札幌市の考え方	子ども医療費助成については、現在の小学6年生の助成を途切れさせないよう、まずは2024年4月から中学3年生まで対象を拡大することとし、さらに新たに対象となる中学3年生が、その後、高校1年生になった際も引き続き助成対象となるよう、2025年4月からは高校3年生まで拡大することとしました。この対象拡大に当たっては、限られた準備期間の中で最大限早期の実施となるよう、その時期を設定したものです。子ども医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成、重度心身障がい者医療費助成の3つの医療費助成制度を合わせて、2023年度予算にはおよそ90億円を計上しているところですが、さらに、およそ20億円の財源を確保し、2024年度以降、3つの制度それぞれについて、順次対象を拡大していくこととしました。これら医療費助成制度のさらなる対象の拡大につきましては、他の政令指定都市の状況、3つの医療費助成制度間のバランス、事業の持続可能性などを踏まえ、今後検討を行っていきます。

意見の概要	ひとり親家庭等医療費助成について、2024年度から親の通院分について課税世帯も拡充してほしい。
札幌市の考え方	札幌市の医療費助成制度には、ひとり親家庭等医療費助成のほか、子ども医療費助成、重度心身障がい者医療費助成があり、これら3つの医療費助成制度を合わせて、2023年度予算にはおよそ90億円を計上しているところですが、さらに、およそ20億円の財源を確保し、2024年度以降、3つの制度それぞれについて、順次対象を拡大していくこととしました。これら医療費助成制度のさらなる対象の拡大につきましては、他の政令指定都市の状況、3つの医療費助成制度間のバランス、事業の持続可能性などを踏まえ、今後検討を行っていきます。

意見の概要	学校でお菓子を食べられるようにしてほしい。
札幌市の考え方	学校生活のきまりは各学校で決めるものですが、健康の保持増進には、1日の学校生活のリズムに合わせて運動に取り組み、食事をとることが必要なことから、休み時間はたくさん身体を動かし、お腹を空かせておいしく給食を食べてほしいと願っています。

意見の概要	給食費の負担軽減とは、具体的にどのような取組なのか知りたい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	これまで、札幌市では学校給食の提供に当たり、施設、設備、運営等の経費を公費で負担し、給食費については、食材費のみを保護者の皆様にご負担いただいていたところですが、そのような中、昨今の食材価格の高騰を踏まえ、食材費の一部を公費で負担することにより、保護者の給食費の負担を軽減するものです。

意見の概要	子どもたちが健やかで健康な日々を送れるよう、学校給食への補助を行ってほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	生活に困窮する世帯に対しては、これまでも、生活保護や就学援助制度で給食費を支援しているところですが、全世帯を対象とする無償化に関しては、国での検討の状況を注視していきたいと考えています。アクションプラン 2023 においては、昨今の物価高騰を踏まえ、子育て世帯への支援として、学校給食費の負担軽減を継続していきます。

意見の概要	給食費を安くすることを続けてほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 においては、食材価格が高騰するなかで、保護者の給食費の負担が大きくならないよう引き続き支援を実施します。

意見の概要	給食費の負担軽減については、地産地消の週を設けたりしながら、少しでも軽減につながるような取組をすべき。
札幌市の考え方	札幌市の学校給食費については、毎年保護者の代表者等を含めた附属機関の審議を経て、食材費のみを保護者の皆様にご負担いただいていたところですが、アクションプラン 2023 においては、昨今の食材価格の高騰を踏まえ、食材費の一部を公費で負担することにより、保護者の給食費の負担を軽減することとしています。なお、給食費につきましては、給食による栄養管理、使用する食材の安全性・衛生面・地産地消等の観点の他、保護者負担の面も考慮し、決定しているところです。

意見の概要	給食費の負担軽減も良いが、教科書や学費を半額するなどの負担軽減と行ってほしい。
札幌市の考え方	小中学生については国から教科書を無料で供与されており、札幌市では学ぶために必要な費用の一部を支援するため、就学援助及び特別支援教育就学奨励費といった制度を設けています。また、高等学校や大学、専門学校などについても国の制度で学費が軽減できるようになっているほか、札幌市独自の奨学金制度も行っています。

意見の概要	少子高齢化社会において、若者を増やすため、給食費の負担軽減や第2子以降の保育料無償化など、子育てがしやすい環境の整備を優先してほしい。
札幌市の考え方	安心して子どもを産み育てることができる、子育てに優しいまちづくりのための環境の整備は重要だと考えており、その取組の一つとして、第2子以降の保育料無償化を実施します。また、保育施設における給食費の負担軽減については、物価高騰への対策を行い保護者の負担軽減を図りながら、今後、国や他都市の動向を注視していきます。

意見の概要	学校給食費を無償化してほしい。(類似意見 7 件)
札幌市の考え方	生活に困窮する世帯に対しては、これまで、生活保護や就学援助制度で給食費を支援しているところですが、全世帯を対象とする無償化に関しては、国での検討の状況を注視していきたいと考えています。アクションプラン 2023 においては、昨今の物価高騰を踏まえ、子育て世帯への支援として、学校給食費の負担軽減を継続していきます。

意見の概要	多くの自治体が学校給食費の無償化に取り組んでいる中で、負担費用の軽減のみというのは、少子化に対する意識が低いと感じる。
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 においては、昨今の物価高騰を踏まえ、子育て世帯への支援として、学校給食費の負担軽減を継続していくこととしていますが、生活に困窮する世帯に対しては、これまで、生活保護や就学援助制度で給食費の支援を実施しており、全世帯を対象とする無償化に関しても、国での検討の状況を注視していきます。

意見の概要	物価高騰に伴い、給食費を値上げしてもいいから、給食の質と量を確保してほしい。
札幌市の考え方	昨今の物価高騰を踏まえ、公費による学校給食費の負担軽減を継続することにより、これまでどおりの質や量などを保った学校給食を提供していきます。

意見の概要	給食の質や量を改善してほしい。(類似意見 2 件)
札幌市の考え方	学校給食は、文部科学省が示す学校給食食事摂取基準に基づいて札幌市の基準を定め、栄養価、衛生管理、地産地消、安全安心な食材の選定など、総合的に判断した上で給食を実施しています。引き続き、児童生徒にとって、心身ともに健全な成長につながるような給食提供を行っていきます。

意見の概要	給食の残飯が出ないよう、セルフで盛り付ける方式にすべき。
札幌市の考え方	学校給食は、文部科学省が示す学校給食食事摂取基準に基づいて札幌市の基準を定め、成長期の児童生徒に必要なエネルギーやたんぱく質、ビタミン、ミネラル等の栄養素がしっかりととれるよう献立を立てているため、セルフで盛り付けることは想定していません。活動量や食欲は日々違いがあり、個人差もありますが、栄養バランスや地産地消、食文化等の食指導を通して、食の大切さを伝え、できる限り残飯が出ないよう、引き続き取り組んでいきます。

意見の概要	「オリンピック・パラリンピック教育推進事業」について、現状では、オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致は白紙状態なので、オリパラをあえて題材にしなくても札幌の伝統や歴史を学ぶことはできるのではないかと。この推進事業は不要ではないかと。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	1972 年冬季大会を開催した札幌市の歴史と伝統を踏まえた「ふるさと札幌」への思いを心にもつ学びを充実するとともに、オリンピック・パラリンピックの理念を基盤として、他者との共生の思いをもちながら生涯にわたって運動やスポーツに楽しむ態度の育成を図ることは教育上重要と考え、本事業を実施するものです。

意見の概要	「若者出会い創出事業」について、結婚しない人、子どもを産まない人、人それぞれの考えがある。この事業は、あくまでも結婚を希望する若者の支援としているが、結婚に行政が介入すると、結婚しないことをよしとしない風潮になることが懸念される。民間のアプリも多くなっている中、この事業は不要だと思う。
札幌市の考え方	若者出会い創出事業では、2022 年 11 月に市内及びさっぽろ連携中枢都市圏在住の 18 歳から 39 歳までの男女約 400 名にアンケート調査を行ったところ、6 割を超える若者が行政による結婚支援を希望していることが明らかとなっています。結婚を望まない方、結婚を望む方それぞれの選択を尊重した上で、若者の理想とするライフプランの実現に向けて取り組んでいきます。

意見の概要	健常児のクラスでも子どものケアができる先生がもっと増えてほしい。
札幌市の考え方	教職経験に応じた研修において、特別支援教育に関する講座を、通常の学級に所属する教員を含めた全対象者に向けて位置付け、基礎的知識や専門性に関する研修を行っています。今後も、こうした研修の内容の充実を図っていきます。

意見の概要	聴覚障がい・視覚障がい者のために支援学校をもっと作ってほしい。
札幌市の考え方	特別支援学校の設置については、学校教育法により都道府県に設置の義務が示されており、北海道においては、北海道教育委員会によって計画的に整備されているところです。したがって、札幌市としては、北海道と連携しつつ、今後も設置の必要性等を鑑みながら検討することになります。

意見の概要	医療的ケア児、障がい児の親が積極的に働けるように、子どもを預けられる受け皿の強化を行ってほしい。
札幌市の考え方	子育て世代が安心して子育てをしながら働くことができるよう、公立保育所において専任の看護師を配置して医療的ケア児の保育体制を整えるほか、私立保育所等に対して、障がい児や医療的ケア児を受け入れる施設に対する補助を行うこと等を通じて、札幌市全体での障がい児や医療的ケア児の受入体制の充実に努めていきます。

意見の概要	学校が寒いので暖房を整備してほしい。
札幌市の考え方	学校の暖房については、教室の室温を 22℃程度に設定できる設備を整備していますが、良好な教育環境を整備することは重要だと考えており、今後も、学校施設の整備内容について、様々なご意見に耳を傾けながら検討していきます。

意見の概要	学校の GIGA スクール化も引き続き行ってほしい。
札幌市の考え方	国が示す GIGA スクール構想に基づき、学校において1人1台端末を活用した学習ができるよう端末やネットワーク環境等の整備を行っていきます。

意見の概要	学校で使用している端末がおかしくなることがあるので、学力向上のためにも、クロームブック等の性能を向上させてほしい。
札幌市の考え方	札幌市のクロームブックは国が示す性能の基準を参考に整備しています。次回クロームブックの入れ替えを行う際にも、国が示す新たな性能の基準を参考に整備を行う予定です。ICT 機器はある程度の割合で不具合が発生してしまいます。端末の不具合が発生し、対応が難しい時は学校に相談してください。故障等の場合は端末の交換等の対応を行っていきます。

意見の概要	コミュニティスクール推進事業について、中学校には中学校区青少年健全育成推進会有るが、コロナの影響などでうまく機能していないのではないか。更に新たな事業が加わり、学校も戸惑っているのではないか。
札幌市の考え方	中学校区青少年健全育成推進会の活動については、コロナ禍では十分な活動が難しいこともありましたが、2023 年度より概ね従前の活動を計画しています。

意見の概要	札幌市で義務教育範囲内に対し実力テストを年に 2 回程度行うことを義務化することによって、学校や家庭で個々人の学習の理解度を把握してほしい。また、順位を出して中学受験や高校受験に生かしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市としては、「学んだ力」「活かす力」「学ぶ意欲」をバランスよく育む取組を進めており、それらはテストのみならず、多様な方法で捉えていくことが大切です。現在、学校では、他者との比較ではなく、児童生徒一人一人の学習の状況を捉えながら、それぞれのよさを生かし、可能性を引き出す教育を進めています。このことから、一律にテストを行うことやその順位を示すことは考えていません。

意見の概要	学校で PC 端末の導入が進んでいるので、経費削減のためにも、プリントを配るべきではない。
札幌市の考え方	学校では端末を積極的に活用し、デジタルの良さとアナログの良さを考えながらペーパーレス化を進めているところです。経費削減や環境に配慮することも大切ですが、プリントの配布がなくなることで戸惑う人もいるため、段階を踏んで進めていくことも大切と考えています。

意見の概要	公式イベントまたは学校にて、議論における言葉遣いや議論とはそもそも何なのか、理解を深める授業を行ってほしい。
札幌市の考え方	相手とのつながりをつくる働きのある言葉を適切に用いながら話し合いを進めていくことが大事だと考えます。話し手と聞き手の間に良好な関係を築きながら、自分の考えを広げたりまとめたりしていくことができるような機会の創出や、振り返りの場面などで、話し合いを通して話し手と聞き手の間に好ましい関係を築き、継続させる言葉の働きに気付いたりすることができるような授業を推進していきます。

意見の概要	校則のない学校を作るか、校則をもう少し緩めてほしい。そして、学校ごとに校則を統一してほしい。(類似意見 2 件)
札幌市の考え方	校則は、子どもが健全な学校生活を送り、よりよく成長・発達していくために設けられるものです。その内容については、児童会・生徒会において校則について話し合う機会を設けたり、保護者や地域の意見を聞き取ったりしながら、学校の実情に応じて見直していきます。

意見の概要	小学校の修学旅行は、飛行機を使って行きたい。
札幌市の考え方	市立小学校の見学旅行は1泊2日以内で行っており、時間や費用をかけて遠くに行くことよりも、様々な体験を通して多くの学びがあることを重視しているため、飛行機の利用については想定していません。

意見の概要	学校の休みを1日増やしてほしい。
札幌市の考え方	各学校においては、子どもたちの学びの時間を保障するため、国の標準的な授業時数を踏まえた教育活動を計画しています。これを計画的に実施していくため、現在の休業日については学校管理規則で設定していることから、休業日を増やすことは難しいと考えます。

意見の概要	冬や夏であっても学校生活を快適にするため、制服の作りを工夫してほしい。
札幌市の考え方	制服の見直しや選定に当たっては、経済的な負担が過度とならないことを前提に、生徒や保護者の意見を聴き取りながら、各学校において様々な要素を総合的に判断しています。

意見の概要	学校でのウインタースポーツ学習だが、やりたい人ややりたくない人がいる中で、なぜ学習の中に取り込んでいるのか知りたい。
札幌市の考え方	学習指導要領では「自然との関わりの深いスキー、スケートなどについては、地域や学校の実態に応じて積極的に行うこと」としており、札幌市でも札幌らしい特色ある教育の一つとして取り入れています。

意見の概要	体育の授業を増やしてほしい。(類似意見1件)
札幌市の考え方	学習指導要領に基づき、教科等の標準授業時数が定められており、体育の標準授業時数も定められています。札幌市では、「健やかな体」育成に関わる取組の最重点を、体育の授業以外で運動機会を創出する取組としており、ぜひ体育の授業以外でも体を動かす楽しさを味わってほしいです。

意見の概要	体育の実技が苦手な人が増えてきていると聞くので、体格や運動神経に合わせた実技の内容を考えて、体育嫌いの人が少なくなるようにしてほしい。(類似意見1件)
札幌市の考え方	現在、札幌市立の学校では、どの子どもも「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりに取り組んでいます。体育の授業についても、運動の得意・不得意や、体格の差、障がいの有無などに関わらず、どの子どもも運動の楽しさや喜びを味わえるように、今後も授業改善の取組を進めていきます。

意見の概要	学校の体育の時間を増やしてほしい。また、体力テストのレベルをちょうど良いものにしてほしい。
札幌市の考え方	体育科を始めとする各教科の年間授業時数は、国で定めている学習指導要領において決まっており、その時数を大幅に増減することはできません。現在、札幌市立の学校では、授業以外で運動機会を創出する取組を重点的に行っており、子どもが体を動かす機会を増やしていきたいと考えています。また、体力テストは、自分の体力・運動能力の状況を把握し、その結果をもとに自分の目標を立てて、それに向かって実践していけるようにすることが大切であると考えています。

意見の概要	小学校の夏休みを増やして冬休みを減らしてほしい。
札幌市の考え方	中学校より短い設定となっている小学校の夏休み期間については、様々な教育課題を勘案しながら、現在検討を進めているところです。

意見の概要	希望者の自転車通学を容認してほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	札幌市では、有識者・公募市民・学校関係者などに交通マナーの習得や基礎体力の向上、安全面など様々な観点から検討いただいた結果を踏まえて徒歩通学が望ましいと考えています。

意見の概要	バス通学の対象範囲を広げてほしい(学校から半径 1.5～2kmの範囲もバス通学の対象範囲としてほしい)。
札幌市の考え方	札幌市では、有識者・公募市民・学校関係者などに交通マナーの習得や基礎体力の向上など様々な観点から検討いただいた結果を踏まえて徒歩通学が望ましいと考え、その距離の目安を小学校は2km 以内、中学校は3km 以内としています。今後も、通学区域や通学距離に関して、様々な立場のご意見に耳を傾けながら検討していきます。

意見の概要	自習室や図書室など、家以外で勉強ができるような勉強場所をつくってほしい。
札幌市の考え方	中央図書館では、2 階読書室 72 席及び 2 階図書室の窓側カウンター34 席で自習でのご利用が可能です。また、生涯学習センターの交流学習コーナーにも、自習スペースを 32 席開放しています。

意見の概要	地元の大学や高校生と、地元の企業が連携できる機会を提供してほしい。
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 では、人口減少等の地域課題の解決に取り組むため、大学を起点とした、地元の企業等の多様な主体との連携を促進します。

意見の概要	「プレーパーク推進事業」について、遊びは、子どもにとってとても重要であり、特に、プレーパークは、いつでも自由にのびのび遊べる場として必要。雪国の特徴を生かした雪でも遊べる常設のプレーパークを市内中心部に設置するべき。例えば、ニトリホール跡や、北海道と連携し知事公館跡など。
札幌市の考え方	子どもが自由に遊ぶことで自主性・創造性・協調性を育むことは、子どもの豊かな育ちにとって重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、地域住民等が行うプレーパークを推進します。2022 年度は市内各所の公園で 10 団体が計 140 回のプレーパークを実施し、積雪期には雪でも遊べる場を提供しており、プレーパークが市内に広がり、より多くの子どもが体験できるよう引き続き取り組んでいきます。いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。

意見の概要	「子どもの居場所づくり支援」について、貧困対策の一環として市民が取り組んでいる子ども食堂をもっと増やすということに違和感がある。子どもの居場所が多様にあるということは大事。子どもたちに自分たちが安心して遊べる、過ごせる場について、どのようなことを望むのか、意見を聞くことが重要。子どもの視点の居場所を増やすべき。
札幌市の考え方	子どもが居場所に求めるものが、学びや交流、体験活動など、一人一人異なるため、地域において子どものニーズに応えた様々な子どもの居場所づくり活動が広がっているものと認識しています。このため、今後、食事の提供を伴わない様々な子どもの居場所に対しても支援を行うことを検討しています。

意見の概要	「子どもの居場所づくり支援事業」について、子ども食堂を 5 年後に 140 か所に増やすことを目標に掲げているが、そもそも子ども食堂に頼らない社会を目指すべき。今、子ども食堂を運営している人たちも、ボランティアの限界を感じている方もいるようなので、場所を増やすより、今ある子ども食堂への更なる支援をすべき。
札幌市の考え方	子どもにとって地域に様々な居場所が存在することが、健やかに成長していく上で大切と考えています。子ども食堂に対しては、新規開設にくわえて、既存の団体が活動の充実を図る際にも支援を行っており、地域の居場所づくり活動に対する支援については、今後も引き続き検討を行っていきます。

意見の概要	札幌市は公園が市内全域で充実している一方、室内で子どもたちが過ごすことのできる場所が不足しているため、特に冬季に体を動かしたり安心安全に過ごすことができるよう児童会館や室内で活動できる施設などを拡充してほしい。
札幌市の考え方	札幌市においては、全ての子どもたちが利用できるよう、市内に 110 か所児童会館を設置しています。年末年始及び祝日を除く月曜日から土曜日の 18:00 までご利用いただけますので是非ご活用ください。そのほか、引き続き、身近なスポーツ・運動の場として学校体育施設の開放にも取り組んでいきます。

意見の概要	子どもが使える公共施設を増やしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市においては、子どもが利用できる施設として、図書館や児童会館などを市内各地に設置しています。そのほかにも、川下公園、さとらんどなど、屋内に遊具スペースがある施設とともに円山動物園や札幌オリンピックミュージアム(中学生まで無料)、下水道科学館など体験型で学んだり遊んだりできる施設もあることから、今後も引き続きこれら施設を積極的に利用していただきたいと考えています。

意見の概要	天候や気温を問わず、子どもが遊べる施設を作してほしい。(類似意見 5 件)
札幌市の考え方	札幌市においては、市内に 110 か所児童会館を設置しており、幼児から高校生まで自由にご利用いただけます。また、市内には、滝野すずらん丘陵公園、川下公園、さとらんど、札幌ドームのキッズパーク(日程により無料)など、屋内に遊具スペースがある施設とともに、札幌オリンピックミュージアム(中学生まで無料)や下水道科学館など体験型で学んだり遊んだりできる屋内施設も多く立地しており、また、札幌ドームなど屋内施設を会場として、大型遊具を設置した民間イベントなども開催されてきたところです。今後も引き続き、市内全域の様々な資源を生かして、子どもたちに遊びの機会を提供していきたいと考えています。

意見の概要	「育児休業等取得助成事業」について、中小企業にはまだまだ周知がたりていないため、講習会を開くことなどを企業に義務付け、男女ともに安心して子育てができる環境をつくるべき。
札幌市の考え方	札幌市では、ワーク・ライフ・バランスや女性の活躍推進に取り組む企業を「札幌市ワーク・ライフ・バランス plus 認証企業」として認証しています。一定の条件を満たした認証企業に対し、育児休業取得者の代替要員を雇用した場合や男性社員が初めて育児休業を取得した場合に「育児休業等取得助成」等を実施し、ワーク・ライフ・バランスの実現や女性活躍に向けた環境づくりを支援しています。この助成事業に関する周知としては、札幌中小企業支援センター等にチラシ配架を依頼しているほか、育児休業やワーク・ライフ・バランス等をテーマとした企業向けのセミナー等での紹介を実施しています。今後も、助成制度を活用していただけるよう、周知に努めます。

意見の概要	子育てと仕事を両立できるような企業を増やしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、安心して子育てができるまち「さっぽろ」をめざして、思いやりの気持ちを宣言・実行する取組「さっぽろ市民子育て支援宣言」の普及啓発を行っています。宣言は個人・団体・企業の3種類あり、企業による宣言が普及することは、子育てに優しい企業が増えると考えます。また、子育てと両立して働ける環境を整備することは重要だと考えており、アクションプラン2023では、ワーク・ライフ・バランスや女性活躍の推進に積極的に取り組む企業を認証する「札幌市ワーク・ライフ・バランス plus 企業認証制度」を実施します。

意見の概要	少子化対応は、ひとりの母親に複数子どもを産むことを求めるのではなく、全ての人が一入子どもを産むように、一人目から経済支援を充実させるべき。
札幌市の考え方	「札幌市妊娠・出産寄り添い給付金」として、妊娠分 50,000 円、出産分 50,000 円を支給することで、経済的な支援を行っています。また、保健師等との面談を支給要件とすることで、妊娠期から出産・子育てまで一貫して身近で相談に応じる機会を作り、全ての妊婦・子育て世帯が安心して出産・子育てできる環境の整備を図っています。

意見の概要	学割をもっと増やしてほしい。
札幌市の考え方	区民プールや区体育館といった札幌市が運営している施設には、子ども料金が設定されているものも多数ありますのでご利用ください。今後も小中学生等が利用しやすい環境の整備に努めていきます。

意見の概要	減税して子どもを安心して産み育てることができるようにしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、子どもを安心して産み育てることができるよう、子ども医療費助成の拡大や第2子以降保育料無償化といった事業を実施していきます。納めていただいた市税については、こうした事業を行うための貴重な財源として活用していきます。

意見の概要	子育て世帯は必要なものが安く買えるようにしてほしい。
札幌市の考え方	子育てにやさしい環境づくりの推進のため、北海道では「どさんこ・子育て特典制度」を実施し、妊娠中の方若しくは小学生以下の子どもがいるご家庭が、子どもと同伴で買い物や施設などを利用する際に、特典カードを提示することで、協賛店舗(北海道公式子育て支援サイト「HAGUKUMU」に掲載)から様々なサービスを受けられるなど、子育て家庭の応援に取り組んでいます。札幌市では、各区の保健センターで母子手帳を交付する際に、特典カード及びリーフレットをお渡ししているほか、各区のちあふる、市内児童会館、まちなかキッズサロン～おおどりんこ～にて配布を行っており、対象となる子育て世帯の方がこの制度を活用できるよう取り組んでいます。今後も子育てに優しい環境づくりの推進に努めていきます。

意見の概要	子どもがいる家庭に、給付金を支給するなど支援してほしい。(類似意見 2 件)
札幌市の考え方	子育て世帯に対しては、児童手当、児童扶養手当などの既存の手当のほか、国が実施する臨時の給付金制度を実施しているところであり、今後も引き続き子育て世帯への支援に努めていきます。

意見の概要	少子高齢化が深刻になっているため、妊婦への補助金や子育てしている人への商品券の配布など、子育て世帯への生活支援を通じ、暮らしやすいまちをつくっていくべき。
札幌市の考え方	妊娠期の支援については、妊婦一般健康診査の助成を行うなど全ての妊婦が安心して出産を迎えられるよう取り組んでいるところです。また、「札幌市妊娠・出産寄り添い給付金」として、妊娠分 50,000 円、出産分 50,000 円を支給することで、経済的な支援を行っています。保健師等との面談を支給要件とすることで、妊娠期から出産・子育てまで一貫して身近で相談に応じる機会を作り、全ての妊婦・子育て世帯が安心して出産・子育てできる環境の整備を図っています。今後も環境整備を含め、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援の充実を図っていきます。さらに、プレミアム付き商品券を発行するなど、子育て世帯のみならず幅広い世帯への生活支援を行うことで、暮らしやすいまちの実現を目指していきます。

意見の概要	お金を寄付する仕組みを作って、上靴や筆箱を半額で購入できる、若しくは無料にしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、上靴や筆箱に限らず、小中学生が学ぶために必要な費用の一部を支援するため、就学援助及び特別支援教育就学奨励費といった制度を設けています。また高校生や大学生などに対しては、皆様からの寄付を基に、独自の奨学金を支給しています。

意見の概要	第2子以降の出産時に上の子どもを預けることができず、第2子以降の出産に躊躇している保護者がいる。上の子どもを気軽に預けることができるよう、例えば、託児にかかる費用を助成するなど、仕組みを作ってほしい。
札幌市の考え方	出産や病気、育児疲れなどにより、一時的に子どもを養育できなくなった時には、子どもを短期間、児童養護施設や乳児院等でお預りする子どもショートステイを利用することができます。所得の状況に応じた利用料の減免もあり、今後も全ての子育て世帯が安心して地域で子どもを育てることができるよう事業を継続していきます。また、札幌市には子どもの一時的な預かりサービスとして、事前登録が必要ですが、保育所・認定こども園・幼稚園の一時預かりやファミリー・サポート・センター事業があります。一時的な預かりを希望する方の利用につながるよう今後も事業周知に取り組んでいきます。

意見の概要	札幌市独自の子育て支援を充実してほしい。
札幌市の考え方	安心して子どもを生き育てることができる、子育てに優しいまちの実現を目指し、病児・病後児保育施設の拡大や、札幌市独自の取組として、子ども医療費助成の拡大、第2子以降の保育料無償化など、子育て支援環境の充実を図っていきます。

意見の概要	札幌に住む人が増えるよう、子育て支援を充実させてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では「安心して子どもを生き育てることができる、子育てに優しいまち」を目標に、子育て世帯への切れ目のない、息の長い支援とともに、ライフステージに応じた多様なニーズを受け止め、子育て支援事業に取り組んでいます。 今後も、札幌に住む人が増えるよう、病児・病後児保育施設の拡大や、子ども医療費助成の拡大、第2子以降の保育料無償化など、子育て支援環境の充実を図っていきます。

意見の概要	塾など、習い事に関する支援を行ってほしい。(類似意見 4 件)
札幌市の考え方	生活にお困りのご家庭等のお子さんに対し無償の学習支援に加えてスポーツなどの機会を提供する事業を行っているほか、児童手当などの給付を行っているところです。今後も、より効果的な取組・支援を進めていけるよう、様々な検討を行っていきます。

意見の概要	外部と提携して習い事が児童館や体育館などで行えるような取組があってほしい。
札幌市の考え方	児童会館における放課後児童クラブでは、子どもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるように、自主性、社会性、創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等により、子どもの健全な育成を図ることを基本としています。そのため、読書やおもちゃ遊び、体育室で身体を動かす活動など多様な放課後の過ごし方から好きな活動を子どもが選び、指導員のサポートのもと、自分で考え自分で実行できるようにしているところです。今後も子どもたちが楽しいと思える場づくりを、利用者目線で取り組んでいきます。

意見の概要	校外学習で宿泊する時は無料にしてほしい。
札幌市の考え方	宿泊を伴う行事を無料にすることはできませんが、旅行日数に応じ、保護者の経済的負担が必要最小限にとどまるよう十分配慮することとしています。

意見の概要	まちづくりに関する意見を募集するアプリを作り、意見した人にポイントを付与し、貯まったら学校で使うものに交換できるようにすべき。
札幌市の考え方	市民意見をしっかりと市政に反映することは重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、多くの市民が市政により意見を出しやすく、参加しやすい仕組みの構築などを進めます。

意見の概要	アンケートなどで小学生などの子どもの声を聞いて、まちづくりに生かしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では子どもの権利条例を定め、「子ども議会」や「子どもからの提案・意見募集ハガキ」など、子どもが市政やまちづくりについて考え、意見を表明する機会の取組を進めています。今後も全庁において子どもの声を聞く取組を進め、より一層子どもにやさしいまちを目指していきます。

意見の概要	医学部に通うには、多くのお金が掛かると聞いたので、もう少し医学生を支援できるようにすべき。
札幌市の考え方	医学部に限らず、大学の授業料等については国の補助制度が設けられています。なお、札幌市では、能力があるにもかかわらず経済的理由によって修学困難な大学生等を支援するため、返済の必要がない給付型の奨学金制度を独自に設けています。

意見の概要	学費を下げしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では小中学生が学ぶために必要な費用の一部を支援するため、就学援助及び特別支援教育就学奨励費といった制度を設けています。

意見の概要	大学の学費を減らしてほしい。
札幌市の考え方	大学の学費については、入学料や授業料に対する国の補助制度が設けられています。札幌市においても、能力があるにもかかわらず経済的理由によって修学困難な学生を支援するため、返済の必要がない給付型の奨学金制度を独自に設けています。

意見の概要	所得制限なく、高校、大学までの授業料の無償化や、中学高校など入学費用の負担などもしてほしい。
札幌市の考え方	高校・大学の授業料等については国の補助制度(高等学校等就学支援金、高等教育の修学支援新制度)が設けられています。なお、札幌市においては、能力があるにもかかわらず経済的理由によって修学困難な高校生・大学生等を支援するため、返済の必要がない給付型の奨学金制度を独自に設けています。

意見の概要	奨学金支給事業について、2024 年度から 100%にしてほしい。また、学業成績が優秀についての条件は緩和してほしい。
札幌市の考え方	札幌市奨学金は「能力があるにもかかわらず経済的理由で修学困難な学生・生徒を支援し、有用な人材を育成すること」を目的に資するものです。アクションプラン 2023 では採用者数を 1,900 人に拡大し、経済的な困窮度合いが高く、かつ特に学業成績が優秀な希望者について 100%採用することを目標としています。札幌市奨学金は応募者の中から、経済的な困窮度合いが高く、かつ学業成績が優秀な方から順に定員に達するまで採用を行っているもので、ある一定以上の成績であれば採用される、といった条件は設けていません。採用者数の拡大を行うことで、結果的に幅広い学業成績の方を採用できることが見込めます。

意見の概要	奨学金返還支援事業について、2024 年度から支援対象者を 150 人以上にしてほしい。
札幌市の考え方	奨学金返還に関しては、就職後に安定した生活を送るに当たり、重要な社会的課題として認識しています。アクションプラン 2023 では、認定企業の拡大と学生への周知を一層促進するとともに、事業効果の最大化を図るための検討を進めます。

意見の概要	子ども向けの職業体験などをたくさんやってほしい。
札幌市の考え方	札幌市教育委員会では、夏休みや冬休みの期間中に、中学生を対象として専門学校における職業体験を実施しています。毎年、中学校において周知するほか、札幌市教育委員会のホームページにおいても紹介していますので、多くの中学生に参加してほしいと思います。

意見の概要	様々な職場で人材不足が問題になっているので、実際に体験する機会を提供してもらい、将来目指すきっかけを作してほしい。(類似意見 4 件)
札幌市の考え方	子どもたちが働く大人や仕事の現場に触れることは、将来への夢を描く上で重要な体験になると考えており、アクションプラン 2023 では、子どもたちが実社会への関心を広げられるような職業体験事業を実施することとしています。いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。

意見の概要	キッズニアのような、職業体験ができる場所を作してほしい。 職業体験施設を設置してほしい。
札幌市の考え方	職業体験機会の提供は重要だと考えており、札幌市では子どもの発達段階に応じた職業体験事業を実施しているところですが、子どもが健やかに育つまちの実現に向けて引き続き取り組んでいきます。いただいたご意見は今後の参考とさせていただきます。

意見の概要	小学生が実際に職業体験をすることができる取組について、小学生から中学生までにしてほしい。
札幌市の考え方	中学生段階における職業体験も大切であると考えています。教育委員会においては、中学生対象の「進路探究学習オリエンテーリング」という職業体験を実施しており、今後も充実を図っていきたいと考えています。

意見の概要	職業体験について、週1回程度教科として取り入れるべき。様々な業界を体験することで、新しい発見がある。
札幌市の考え方	職場体験は、各学校の教育計画に基づき適切に実施しています。教育委員会では、中学生を対象とした「進路探究学習オリエンテーリング事業」を実施していますので、札幌市公式ホームページをご覧ください。

意見の概要	小学校5、6年生の子どもたちが職業体験をできる取組について、実際に小学校5、6年生で将来を真剣に考えるのは難しく、ただの体験で終わってしまうため、中学生や高校生を対象に職業体験を行った方が、より将来のことを考えてもらえ、札幌で働きたいと思う人が増えると思う。
札幌市の考え方	中学校や高等学校の各学校においても、子どもの発達の段階に応じて様々な職業体験の場を設定しています。しかしながら、コロナ禍で途絶えてしまった活動もあり、今後の職業体験の実施方法について考慮中の学校もあると思います。また、教育委員会では、中学生を対象とした「進路探究学習オリエンテーリング」という職業体験を実施しており、職業を体験することで得られる実感や経験を大切にしてほしいと考えています。

意見の概要	子育て世帯を補助するなどして、札幌市の人口減少を緩和する取組を進めてほしい。
札幌市の考え方	人口減少の緩和に向けた取組は重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、市外への転出者を抑制しつつ市外からの転入者を増やすための、質の高い雇用創出と魅力的な都市づくりや、結婚・出産・子育てを支える環境づくり等を進めていきます。

意見の概要	人口減少の課題について、若い人が子どもを生まない理由の1つに金銭的理由により子どもが育てられないというのがあるため、道外から転居してくる人に補助金を出したり、小学生の子ども一人当たり相当額を補助する等、皆が子どもを生みやすくなるような取組をすべき。
札幌市の考え方	人口減少の緩和に向けた取組は重要だと考えており、結婚・出産・子育てを支える環境づくりの取組として、結婚・出産・子育ての不安を緩和する支援や保育サービスを充実させるとともに、子育て世帯などの家計負担の軽減を拡充していきます。

意見の概要	図書館の本を増やしてほしい。
札幌市の考え方	図書館では、子どもから高齢者まで、あらゆる世代の読書活動や学習活動を支援するため、幅広い分野の図書や資料、情報を収集することは重要だと考えています。今後も、電子書籍等も含む幅広い分野の資料を収集するなど、市民の読書環境の充実を図っていきます。

意見の概要	大学を建設するに当たってのプロセスや条件を教えてください。
札幌市の考え方	札幌市が公立大学を設置する場合は、市議会の議決を経た上で、総務・文部科学大臣に認可を得る必要があります。大学設置の条件については文科省令「大学設置基準」により定められています。

意見の概要	学校に一時的に行けなくなった人や学校の授業について行けなくなった人が学校や塾以外に安く・楽しく学べるような場所がほしい。
札幌市の考え方	欠席理由や学習の困りは子ども一人一人異なりますので、それぞれの状況に応じた適切な対応が必要です。学校や教育相談室(学びの支援総合センター)では、子ども一人一人の困りやニーズを把握し、適切な学習方法や学べる場所等について相談することができます。

意見の概要	公立の不登校特例校を設置してほしい。
札幌市の考え方	不登校児童生徒の学びの場は大切であり、アクションプラン 2023 では、不登校児童生徒が、学びたいと思った時に学べるよう、教育支援センターの機能拡充や新たな学びの場の設置等に向けて、国の動向を踏まえ、適切に検討していきます。

意見の概要	不登校児童の受け皿であるフリースクールを大幅に支援してほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、フリースクール等民間施設の活動を支援するため、2012 年度から団体への補助を実施しています。不登校児の増加に伴う支援ニーズを受け、本計画においても5年間で120 百万円の計画事業費を計上したところです。

意見の概要	不登校問題を打開するため、民間のノウハウを活用するなど、官民協働の取組を展開してほしい。
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 では、不登校児童生徒が学びたいと思った時に学べるよう、教育支援センターの機能拡充や新たな学びの場の設置の検討を盛り込んでおり、民間のノウハウを活用することも検討していきます。

意見の概要	保育士の給料が低いと聞いたことがあり、子育て環境の改善のためにも、保育士は必要であるため、給料を考え直すべき。
札幌市の考え方	保育士の処遇改善については国において行われてきているところであり、一定の改善が進んでいますが、札幌市では更なる改善について国に要望してきました。今後も引き続き様々な機会を通じて国に要望していきます。

意見の概要	2人目以降の子どもの保育料無償化と聞いたが、1人目の子どもにはどのような対策を行っているのか。(類似意見 6 件)
札幌市の考え方	1人目の子どもについても、認可保育所等(認可保育所、認定こども園の保育所部分、地域型保育事業所)0～2歳児クラスに通うお子さまの保育料を国の基準より低く設定しています。また、認可保育所等の3歳児クラスからと、幼稚園や認定子ども園の幼稚園部分の満3歳からの保育料は、すでに国の幼児教育・保育の無償化の対象になっています(ただし、私学助成幼稚園では、一部自己負担が発生する場合があります)。

意見の概要	2人目以降の保育料無償化について、特定の人が2、3人子どもを生むだけでは子どもがいない家庭が50%近くある札幌においては出生率が2を超えることはあり得ないため、子どもがいる家庭の割合を増やすことの方が必要なのではないかと。
札幌市の考え方	アクションプラン2023では、子ども・子育て支援に特に力を入れており、第2子以降保育料無償化や、子ども医療費助成制度の中学生・高校生までの対象拡大など、子育て世帯における金銭的負担の軽減に資する取組を実施します。札幌市では、いただいた意見を参考にしながら、引き続き子育て世帯の支援の充実を図っていきます。

意見の概要	第2子以降の保育料無料化について、ぜひ、実現してほしい。
札幌市の考え方	安心して子どもを産み育てることができる、子育てに優しいまちづくりのための環境の整備は重要だと考えており、その取組の一つとして、当事業を実施します。

意見の概要	2人目以降の子どもの保育料無償化に加え、2人目以降の出産に関わる入院費及び通院費も少し負担するような政策は実施しないのか。
札幌市の考え方	安心して子どもを生み育てることができる、子育てに優しいまちづくりのための環境の整備は重要だと考えており、妊娠期の支援としては、子どもの数に関わらず、妊婦一般健康診査の助成をおこなうなど全ての妊婦が安心して出産を迎えられるよう取り組んでいるところです。また、全ての妊婦・子育て世帯が安心して出産・子育てできるよう、「札幌市妊娠・出産寄り添い給付金」として、妊娠分 50,000 円、出産分 50,000 円を支給することで、経済的な支援を行っています。保健師等との面談を支給要件とすることで、妊娠期から出産・子育てまで一貫して身近で相談できる環境の整備を図っています。

意見の概要	保育料の無償化について、2人目は保育園・幼稚園に入った際に何もお金がかからないということか。
札幌市の考え方	今回の無償化の対象となるのは、認可保育所等(認可保育所、認定こども園の保育所部分、地域型保育事業所)の0～2歳児クラスに通うお子さまの保育料です。また、認可保育所等の3歳児クラスからと、幼稚園や認定子ども園の幼稚園部分の満3歳からの保育料は、子順に関係なく、すでに国の幼児教育・保育の無償化の対象になっています(ただし、私学助成幼稚園では、一部自己負担が発生する場合があります)。なお、保育料に含まれないものとして、通園送迎費や行事費等の実費費用、時間外保育料等があり、こちらについては自己負担が発生する場合があります。

意見の概要	第2子保育料無償化より、住宅地への保育所移転などの隠れ待機児童対策を進めるべき。(類似意見3件)
札幌市の考え方	子育て世代が安心して子育てしながら働くことができるよう、私立保育所や認定こども園の整備等により、必要な保育の受け皿確保に向けて取り組んでいきます。

意見の概要	保育料を無償化してほしい。(類似意見1件)
札幌市の考え方	認可保育所等を利用している子どもが2人以上いる世帯の保育料の負担を軽減するため、2人目以降の保育料無償化を実施します。また、安心して子どもを産み育てることができる、子育てに優しいまちづくりを更に進めるための取組について、今後とも検討していきます。

意見の概要	事業費を縮小するため、保育料の無償化ではなく一部負担等にすべき。(類似意見1件)
札幌市の考え方	保育料については、これまでも国の基準より低く金額を設定したり、子どもが2人以上いる世帯の保育料の軽減を国の基準より拡充したりなど、利用者の負担の一部軽減のための取組を実施してきたところです。そして、この度、安心して子どもを産み育てることができる、子育てに優しいまちづくりを更に進めるために、2人目以降の保育料無償化を実施します。

意見の概要	<p>第2子保育料無償化は家計負担の軽減につながるが、それよりも保育定員の拡充や保育士の処遇改善による保育士確保に取り組むべき。</p> <p>2人目以降の子どもの保育料無償化の取組よりも保育士や保育園が不足していることの方が深刻である。SNS等を活用した調査を実施し、解決すべき課題については明らかにすべき。</p>
札幌市の考え方	<p>子育て世代が安心して子育てしながら働くことができるよう、私立保育所や認定こども園の整備等により、必要な保育の受け皿確保に向けて取り組むとともに、「保育人材支援センターさぽ笑み」の機能強化や就業継続のための一時金給付事業等の実施により、保育人材の確保支援に取り組んでいきます。また、保育士の処遇改善については国において行われてきているところであり、一定の改善が進んでいますが、札幌市では更なる改善について国に要望してきました。今後も引き続き様々な機会を通じて国に要望していきます。</p>

まちづくりの分野 2:生活・暮らし

意見の概要	除雪と排雪にどれくらいお金が必要か知りたい。
札幌市の考え方	2023年度の予算では、除雪で約81億、排雪費は約139億円となっています。

意見の概要	冬にゴミ収集車が雪に埋まらないように、除雪をしっかりとってほしい。
札幌市の考え方	ゴミ収集車が埋まらないように、除雪をしっかりとやることは重要だと考えており、アクションプラン2023では「大雪時の対応指針」に基づき、大雪時には全庁的に情報共有を図りながら、迅速かつ適切に対応するとともに、雪堆積場の確保も含め、大雪に備え関係機関等との連携も強化します。

意見の概要	道路を全体的にロードヒーティングしてほしい。
札幌市の考え方	ロードヒーティングを維持するためには電気代や修繕費が必要となりますが、電気代の高騰などにより、維持管理費が増大しているため、全ての路線にロードヒーティングを整備することは困難です。近年、スタッドレスタイヤの性能の向上により、凍結防止剤の散布と除排雪を併用することで、冬期の路面管理が可能となったため、ロードヒーティングは幹線道路のうち、急勾配な坂道のみで整備することとしています。

意見の概要	融雪槽の取組について、扱う水は汚いと思うが、問題ないのか。
札幌市の考え方	利用する水は下水処理場で処理したものであり、水質に問題がないことを確認した上で、河川に放流しています。

意見の概要	高齢者等に除雪機械を貸し出してほしい。
札幌市の考え方	高齢者宅前の除雪ボランティアを行う町内会等の団体を対象に、小型除雪機の貸出制度を実施しています。

意見の概要	冬季雪捨て場確保のため、融雪槽、除雪機購入などの補助制度を作してほしい。
札幌市の考え方	間口や宅地内の雪を処理するため、宅地内に固定式の融雪槽又はロードヒーティングを設置する場合に、融資限度額 300 万円、無利子で融資する「融雪施設設置資金融資あっせん制度」を実施しています。また、除雪ボランティアを行う町内会等の団体を対象に、小型除雪機の購入補助制度(購入費用の2分の1を補助、上限 50 万円)及び貸出制度を実施しています。

意見の概要	冬季の交通麻痺は札幌市の最も大きい問題である。除雪や公共交通機関の利便性などに重点を置くことが、冬季の札幌市民の生活を維持することにつながるのではないかと。
札幌市の考え方	安心・安全で持続可能な冬の道路環境を確保することは重要と考えており、アクションプラン 2023 では、幅員の狭いバス路線などを対象に除排雪強化を計画しています。また、大雪への対策として、大雪時における除排雪の体制や具体的な行動計画などを定めた「大雪時の対応指針」に基づき、大雪時は、全庁的に情報共有を図りながら、迅速かつ適切に対応します。

意見の概要	除排雪をした際の、雪山を何とかすべき。高く積もった雪山が原因で事故になりかけたこともあるので、そのようなことをなくすために、雪山を除雪後に早めに雪捨て場に運ぶべき。(類似意見1件)
	除雪について、道路脇に雪が寄せられ、降雪量が多い時は車の運転をしている際に歩行者が見にくく危険な状況。また、大量に雪が降った際の札幌市の対応について、課題認識・対策を聞きたい。
札幌市の考え方	自動車と歩行者の双方の安全を確保することが重要と考えており、アクションプラン 2023 では、見通し確保に向けた交差点の排雪を計画しています。また、除雪で寄せられた雪は排雪の際に頭落とし(雪山を低くする)を行っています。大雪への対策については、大雪時における除排雪の体制や具体的な行動計画などを定めた「大雪時の対応指針」に基づき、大雪時は、全庁的に情報共有を図りながら、迅速かつ適切に対応します。

意見の概要	冬季間の交通事故防止のため除雪を強化してほしい。
札幌市の考え方	冬期の安全な道路交通の確保は重要だと考えており、「札幌市冬のみちづくりプラン 2018」に基づき、安心・安全な冬期道路交通の確保のため、道路種別に応じて定めた作業水準により除排雪作業や凍結防止剤の散布などを実施しています。

意見の概要	除雪された雪が原因で歩道の幅がなくなってしまうので解消してほしい。また、雪解け時にもう一度路面が固まると路面が滑り危険なので、雪が大量に降った際の除雪だけではなく、一度溶けた際の除雪の回数も増やしてほしい。
札幌市の考え方	冬期の安全な道路交通の確保は重要だと考えており、「札幌市冬のみちづくりプラン2018」に基づき、安心・安全な冬期道路交通の確保のため、道路種別に応じて定めた作業水準により除排雪作業を実施しています。また、溶けた際にも路面整正ということで順次対応しています。なお、全ての歩道を確保することは困難であることから、歩道の有効幅員が2m 以上で機械除雪可能な路線、公共交通機関周辺や人通りの多い路線の除雪を実施しています。

意見の概要	効率的な除雪を行ってほしい。(類似意見 2 件)
	除雪時に、機械を増やして短時間で終わらせるなどの工夫をしてほしい。
	除雪をする道路の選び方の効率化を図るべき。住民などの話を良く聞いたり、カメラを設置するなど対策を考え、無駄に除雪車を動かすことないようにしてほしい。
札幌市の考え方	効率的に除雪作業を行うことは重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、計画的な除排雪作業を行い、安心・安全な冬期道路交通を確保するとともに、持続可能な除排雪体制の構築に向け ICT 活用などによる作業の効率化・省力化を推進します。また、除排雪体制の維持・安定化に向け、除雪事業者の除雪機械所有台数等を踏まえ、市所有の除雪機械の購入を進めていきます。

意見の概要	除雪について、1 人でも対応できるよう除雪機械にバックカメラやセンサーを搭載してほしい。
札幌市の考え方	除雪作業の効率化を行うことは重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、持続可能な除排雪体制の構築に向け、バックカメラやセンサーなどの安全補助装置を設置し1名乗車を可能とした除雪機械の導入を進めていきます。

意見の概要	これから温暖化で雪が減ってくるかもしれないので、お金をかけない除雪を心がけてほしい。
札幌市の考え方	大雪や少雪などの気象状況に応じて除雪作業を行うこと、また、除雪経費を効率化することは重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、計画的な除排雪作業を行い、安心・安全な冬期道路交通を確保するとともに、ICT 活用などによる除排雪作業の効率化・省力化を推進します。

意見の概要	除雪に費用をかけてきれいにしてほしい。
札幌市の考え方	安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現のため、必要な予算額を確保することは重要と考えています。一方で、労務単価等の高騰などによって、除雪予算が増大していることが課題となっていることから、アクションプラン 2023 では、除雪予算の増加を可能な限り抑えるとともに、ICTなどの先進技術を活用することなどにより、作業の効率化や省力化、労働環境の改善などにつながる取組を進め、安定的に除排雪体制を維持していきます。

意見の概要	少子高齢化に対する支援が最優先だと思うので、除排雪の費用を削減すべき。
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 では、安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現に必要な費用を計上しています。一方で、労務単価等の上昇等による除排雪費用の増大も課題であることから、ICT活用による作業の効率化や省力化など、除排雪費用の削減につながる取組を進めていきます。

意見の概要	除雪時の消音対策をしてほしい。
札幌市の考え方	除雪作業は夜間に作業することが多いため、騒音対策は重要と考えています。作業に当たっては、機械の稼動に伴うアイドリングは必要最小限に抑えるとともに、作業箇所周辺への騒音振動等に細心の注意を払うなど、より騒音を軽減できるよう努めていきます。

意見の概要	雪害に対する対策を強化してほしい。
札幌市の考え方	雪害に対する対策を強化することは重要だと考えています。アクションプラン 2023 では「大雪時の対応指針」に基づき、大雪時には全庁的に情報共有を図りながら、迅速かつ適切に対応するとともに、雪堆積場の確保も含め、大雪に備え関係機関等との連携も強化します。

意見の概要	歩道の除雪を優先して実施してほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	ほぼ連続した降雪で、積雪深が 10cm を超え、車両の走行が困難となることが予想される場合などに、道路種別に応じて定めた作業水準により新雪除雪(車道・歩道)を行っています。なお、全ての歩道を確保することは困難であることから、歩道の有効幅員が 2m 以上で機械除雪可能な路線、公共交通機関周辺や人通りの多い路線の除雪を実施しています。今後も、安心・安全な冬期道路交通の確保に努めていきます。

意見の概要	毎年除雪に関する問題が変わってきていると思うが、これまでで1番大変だった除雪に関する問題は何か。
札幌市の考え方	2021 年度は想定を大きく超える大雪に見舞われ、公共交通機関の運休や市内各所での渋滞発生、生活道路除排雪の大幅な遅れなど、市民生活に大きな影響が及びました。こうした大雪への対策が重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、大雪時における除排雪の体制や具体的な行動計画などを定めた「大雪時の対応指針」に基づき、大雪時は、全庁的に情報共有を図りながら、迅速かつ適切に対応します。

意見の概要	除雪の人材不足について、持続的に除雪体制を確保するためには、若い人たちを増やす政策を取る必要があるのではないかと。具体的には、給料を増やし会社の理念やビジョンを明確にし、社員に共感できるようにして、社員たちが自分たちの仕事に誇りを持てるような環境を整えるとともに、分かりやすい研修を行うことが大切である。
札幌市の考え方	安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現のため、持続的な除雪体制の確保は重要だと考えており、将来的な担い手確保につなげることを目的として、小学生や高校生などを対象としたイベントにおいて雪対策の情報発信を行うなど、除排雪事業及び除雪従事者の魅力向上を図る取組を実施しています。

意見の概要	除排雪の費用が高すぎるので、地域で協力して行えるような体制を整えるべき。
札幌市の考え方	地域レベルで除雪に取り組む地域団体やボランティア企業の活動を支援し、地域の除雪力の向上を目指します。

意見の概要	雪を捨てる場所を増やしてほしい。
札幌市の考え方	雪を捨てる場所を増やすことは重要だと考えています。しかしながら、広い土地が必要なことはもちろん、周辺への騒音の影響や雪解け水の放流先の確保など、様々な条件を考慮する必要があります。このように、雪を捨てる場所を増やすことは難しい状況ではありますが、今後も条件を満たす土地を探すなど、取組を続けていきます。

意見の概要	雪をただ排雪するのではなく、発電に活用するなどの効率化に取り組むべき。
札幌市の考え方	札幌市では、これまでモエレ沼公園のガラスのピラミッドへ雪による冷房システムを導入するなど、雪氷熱エネルギーの活用に取り組んでいます。今後も雪氷熱エネルギーの最新技術の情報を収集し、研究していきます。

意見の概要	重度心身障がい者医療費助成事業について、2024年度から精神障害1級の入院だけでなく、精神障害2級の通院入院の助成も行ってほしい。
札幌市の考え方	札幌市の医療費助成制度には、重度心身障がい者医療費助成のほか、子ども医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成があり、これら3つの医療費助成制度を合わせて、2023年度予算にはおよそ90億円を計上しているところですが、さらに、およそ20億円の財源を確保し、2024年度以降、3つの制度それぞれについて、順次対象を拡大していくこととしました。これら医療費助成制度のさらなる対象の拡大については、他の政令指定都市の状況、3つの医療費助成制度間のバランス、事業の持続可能性などを踏まえ、今後検討を行っていきます。

意見の概要	30代以下の人たちの病院代を安くしてほしい。
札幌市の考え方	医療費の算定基礎となる診療報酬については国が定めているものですが、札幌市では医療費を含めた生活費全般に困ったときは、札幌市生活就労支援センター「ステップ」で生活費のやりくりについての相談を受け付けているほか、各区役所の保護課で生活保護の相談を受け付けています。また、子ども医療費助成については、2024年4月から中学生の通院医療費を助成対象とし、2025年4月からは高校生の入通院医療費を助成対象とすることとしています。

意見の概要	医療費の支援を充実させてほしい。
札幌市の考え方	子どもの医療費助成については、2024年4月から中学生の通院医療費を新たに助成対象とし、2025年4月からは高校生の入通院医療費を新たに助成対象とします。また、2024年8月からは精神障害者保健福祉手帳1級の方の入院医療費、ひとり親家庭の住民税非課税世帯の親の通院医療費を新たに助成対象とします。

意見の概要	「地下鉄旅客用トイレ改修事業」「ユニバーサルデザインを取り入れた情報発信充実」について、バリアフリー化に関しては当事者の意見をしっかり聞き取り、計画してほしい。カラーユニバーサルについては糖尿病、高次脳機能障がいなどで色の識別ができない方にも分かるような表示をしてほしい。
札幌市の考え方	市有建築物や旅客施設等におけるバリアフリー化については、当事者の意見を踏まえた整備を行っていきます。また、各種情報発信については、カラーユニバーサルデザインを含むユニバーサルデザインにも配慮しながら取組を進めていきたいと考えています。

意見の概要	札幌のまちをバリアフリーにして、皆が安全安心に暮らせるまちにしてほしい。
札幌市の考え方	社会から障壁(バリア)を取り除くとともに、全ての人の利便性の向上に向けた取組として、誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる施設などの整備や、情報発信などのソフト面、心のバリアフリーの浸透などの意識の改革に向けた取組などを推進していきます。

意見の概要	バリアフリーなどの重要なことはしっかりやってほしい。
札幌市の考え方	人口減少・超高齢者社会を見据えて、移動経路や建築物のバリアフリー整備を進めるとともに、バリアフリー経路情報の発信や心のバリアフリーの浸透などといった取組を着実に推進していきます。

意見の概要	誰でも移動しやすいまちにしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、誰もが移動しやすいまちの実現に向け、移動経路や建築物のバリアフリー整備を進めるとともに、バリアフリー経路情報の発信や心のバリアフリーの浸透などといった取組を推進していきます。

意見の概要	「地下施設バリアフリー化推進事業」について、高齢者だけでなく、障がい者、階段の昇降が厳しい方はエレベーターが必須である。場所の表示も分かりにくいいため、工夫が必要。当事者の目線で考えてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、「札幌市バリアフリー基本構想」に基づき、旅客施設や道路、公園、建築物等のバリアフリー化を進めています。このうち、札幌市営地下鉄では、2011年度に全ての駅でバリアフリー化を完了しており、現在、バリアフリールート of 更なる充実に向け、必要性が高い駅を対象にエレベーターの設置を進めているところです。また、バリアフリー施設を必要とする方がより使いやすいものとなるよう、効果的な情報提供方法についても検討しているところです。

意見の概要	地下施設バリアフリー化推進事業にもう一案、エレベーター67機→76機、エスカレーターの増設120%という計画を追加してほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、「札幌市バリアフリー基本構想」に基づき、旅客施設や道路、公園、建築物等のバリアフリー化を進めており、このうち、札幌市営地下鉄では、2011年度に全ての駅でバリアフリー化を完了しています。国のガイドラインによると、バリアフリールートにはエレベーターを設置することとされていることから、現在、バリアフリールートの更なる充実に向け、必要性が高い駅を対象にエレベーターの設置を進めており、アクションプラン2023では、エレベーターの設置基数を目標値としているところです。引き続き、誰もが円滑に移動できる環境を目指し、バリアフリー化に取り組んでいきます。

意見の概要	「地下施設バリアフリー化推進事業」について、地下鉄のエレベーターで地上に上がると、降りた場所の歩道が狭かったり、バス降車場のためタクシーが停まれなかったりする場所がある。足の不自由な方や車いすを利用している方にとって、乗り継ぎができず不便である。エレベーターの地上出入口前は必ず、タクシー乗り場にすくらの改善が必要である。
札幌市の考え方	札幌市では、「札幌市バリアフリー基本構想」に基づき、旅客施設や道路、公園、建築物等のバリアフリー化を進めているところです。また、バス・タクシーとの乗継機能強化など、交通結節点の強化に向けた取組も併せて進めていきます。

意見の概要	スムーズに使えるスロープや車椅子の人のためのスペースを作るなど、公共交通機関のバリアフリー化を進めてほしい。また、障がい者が困らないよう、点字ブロックを増やしてほしい。(類似意見1件)
札幌市の考え方	札幌市では、旅客施設や道路、公園、建築物等のバリアフリー化を一体的に進めるために「札幌市バリアフリー基本構想」を定めています。今後も本構想に基づき、駅や車両など公共交通機関のバリアフリー化を行うとともに、各施設のバリアフリー化に合わせて必要な点字ブロックの整備を進めていきます。

意見の概要	札幌市において、強度行動障害に対する公的な医療機関が整備されていないことは大きな問題である。行政が強いリーダーシップを発揮して、精神科病院を含めた多機関による地域支援連携体制の充実や公的医療機関の整備を働きかけてほしい。
札幌市の考え方	厚労省による「強度行動障害を有する地域支援体制に関する検討会報告書」(2023年3月30日)において、強度行動障害を有する方の支援体制の在り方が整理され「医療との連携体制の構築」も、取り組むべき項目の一つと位置づけられています。強度行動障害の状況が悪化し、福祉サービスや在宅で支えきれない場合には、上記報告書でも触れている、集中的支援、中核的人材育成等の福祉分野での取組とあわせて、必要な精神科医療を受けられるよう地域支援体制を整備していくことは、札幌市としても重要と考えており、引き続き関係者と共に検討していきます。

意見の概要	札幌市で行っている健康寿命を延ばすための取組について教えてほしい。
札幌市の考え方	健康寿命の延伸に向けて、働く世代や高齢者といった各世代における身体的な健康行動を促すソフト面の取組や、その環境づくりを行うハード面の整備のほか、生きがいづくりなどの精神的・社会的な健康を向上させる取組を行っています。

意見の概要	高齢者という概念をなくしてほしい。
札幌市の考え方	国の定義においては65歳以上が「高齢者」とされていますが、従来のように65歳以上を一律に「高齢者」と見るのではなく、全ての年代が希望に応じて意欲・能力を生かして活躍できるエイジレス社会を目指す考え方が国から示されていることから、札幌市としても、誰もが生涯健康で、学び、自分らしく活躍できる社会の実現を目指していきます。

意見の概要	お年寄りでも暮らしやすく愛着の持てるまちにしてほしい。
札幌市の考え方	人口減少及び少子高齢化による超高齢社会を見据え、健康長寿のまちを目指す取組を推進し、高齢者が愛着を持っていつまでも安心して暮らすことができるようなまちづくりの実現に取り組んでいきます。

意見の概要	ウォーキングを促進するために、歩いてポイントを貯められるようなアプリを開発してほしい。
札幌市の考え方	現在運用している「さっぽろ圏スマートアプリ」では、まちなかを歩くことや、毎日の歩数に応じてポイントを取得できる機能がありますので、是非ご活用ください。

意見の概要	介護士等の福祉に携わる人の給料が低いと聞いたことがあり、高齢者が増えている現状を踏まえ、これらの職業の給料を考え直す必要がある。
札幌市の考え方	介護職員の給与をはじめとした介護報酬は、国が一括して決定しています。札幌市としては、国に対し、介護従事者の処遇改善を継続的に要望するとともに介護職員の職場環境改善や定着促進の支援に取り組んでいきます。

意見の概要	敬老パスについて、金額や利用可能な対象交通機関を拡大してほしい。
札幌市の考え方	現在、「敬老優待乗車証(敬老パス)制度」を「敬老健康パス制度」に発展させ、市民の健康づくりと社会参加のきっかけを後押しし、ひとりでも多くの市民の皆様が楽しみながら健康になっていただける仕組みとすることを検討しています。今後、市民の皆様からご意見をいただき、より良い制度となるよう検討を進めていきます。

意見の概要	運動など健康増進につながる行動をお金で誘導する敬老健康パスはやめてほしい。健康増進の施策は、別途検討してほしい。
札幌市の考え方	現在、「敬老優待乗車証(敬老パス)制度」を「敬老健康パス制度」に発展させ、市民の健康づくりと社会参加のきっかけを後押しし、ひとりでも多くの市民の皆様が楽しみながら健康になっていただける仕組みとすることを検討しています。今後、市民の皆様からご意見をいただき、より良い制度となるよう検討を進めていきます。

意見の概要	若者から高齢者まで暮らしやすいまちにするため、移動支援に取り組むべき。
札幌市の考え方	四季を通じて、誰もが快適に利用でき、環境にも優しい移動環境・手段が整備されることは重要だと考えます。また、障がいにより移動が困難な方に対しては、市内の公共交通機関で利用可能な福祉乗車証や、タクシー券・ガソリン券の交付といった支援を行っています。

意見の概要	高齢者の生活がより豊かになるように老人ホームに百円ショップなどを併設してほしい。
札幌市の考え方	高齢者の生活がより豊かになることは、札幌市が目指す“生活しやすく住みよいまち”の実現に大変重要です。ご意見をいただいた高齢者施設と日用品店等の併設は、入居者の希望を聞きながら、施設で決めることができます。札幌市としては高齢者施設に対し、入居者の声をよく聞き、より生活しやすい環境を整えるように呼びかけています。

意見の概要	老人ホームを増やしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市は、高齢者一人一人の状況にあった場所で生活できることが望ましいと考えています。高齢者施設には様々な種類がありますが、施設の設置については、これから増加すると見込まれる高齢者人口等と施設数のバランス等を見て検討していきます。

意見の概要	ひとり暮らしの高齢者が認知症にかからないようにしてほしい。
札幌市の考え方	認知症施策を進めるほか、地域包括ケアの中核を担う地域包括支援センターの機能強化を行い、引き続き介護予防に取り組んでいきます。

意見の概要	長い間、健康に働き続けることができれば、働き手が増えて、若者の負担を減らし、若者の流出を防いで、少子高齢化対策につながると思う。ウォーキングによって札幌市の健康寿命を延ばしてほしい(健康長寿都市にしてほしい)。
札幌市の考え方	人生 100 年時代を迎えるに当たり、札幌市にとって健康寿命の延伸はより一層重要になっています。年齢を問わず気軽に取り組むことができる「ウォーキング」の普及のほか、健康的な食生活の実践等の取組などを、地域の特性を生かしながら進めていきます。

意見の概要	「歯科口腔保健推進事業」について、小児のフッ素によるうがいはやめてほしい。非常に危険である。日常的な食生活習慣を分かりやすく広めていただきたい。
札幌市の考え方	フッ化物洗口は、安全で効果的なむし歯予防の方法として厚生労働省や日本歯科医学会等から推奨されています。札幌市歯科口腔保健推進条例においてもフッ化物応用の取組を安全かつ効果的に実施することが市の責務になっていることから、保護者の希望に基づいて実施していきます。

意見の概要	「介護人材確保促進事業」について、介護の現場の ICT 化は、施設型の事業者では可能だと思いますが、小規模な訪問型の業者には負担となっている。短期間でも、ICT 化に詳しい人材を行政が派遣するなど人材確保を支援するべき。また、民間から派遣する場合には係る費用を助成するべき。
札幌市の考え方	介護現場の負担軽減を目的に新たな取組として、介護ロボットやICT導入を始めとした介護現場の生産性向上(業務効率化)を目指す事業所に対して、専門家が支援する事業を行っていきます。

意見の概要	住宅購入の給付金をもっと出してほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、高断熱・高気密住宅の普及促進を目的とし、札幌独自の省エネ性能基準である「札幌版次世代住宅基準」に適合する新築戸建住宅に対して、建設費の補助を実施しています。その他の住宅購入に対する補助等はありませんが、プレミアム付き商品券を発行するなど、幅広い世帯への生活支援を行うことで、暮らしやすいまちの実現を目指していきます。

意見の概要	若者から高齢者まで暮らしやすいまちにするため、光熱費の軽減に取り組むべき。
札幌市の考え方	光熱費等のエネルギー価格高騰への支援については、国や北海道と連携しながら、適切な役割分担のもとで対策を行えるよう、引き続き検討していきます。

意見の概要	「入院者権利擁護推進事業」について、精神科の入院者には高次脳機能障がいの方も含まれているが、現状、退院後の相談先がほとんどない。報酬単価を上げ、事業として経営していけるよう、専門の相談室に助成してほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、障がいのある方の様々な相談に応じる障がい者相談支援事業所を 18 か所設置するとともに、札幌こころのセンターにおいて高次脳機能障がいの方の相談をお受けしています。現在、専門の相談室への助成については考えていませんが、障がい者相談支援事業所の体制強化のため相談員の増員を予定しており、高次脳機能障がいの方をはじめ、障がいのある方の相談支援体制の充実強化に引き続き努めていきます。

意見の概要	「入院者権利擁護推進事業」について、精神科病院入院者数は大変多いと認識しているが、地域移行の実績も目標も低い。本人の希望に寄り添って、地域生活の実現に積極的に取り組んでほしい。
札幌市の考え方	地域移行について目標値は設定していますが、この数値に捉われることなく、入院者ご本人の希望に寄り添い、積極的に取り組んでいきます。

意見の概要	ガソリン代を安くしてほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	札幌市としても国にガソリンなど石油製品の安定供給を要望しているところであり、国では燃料油価格激変緩和対策事業により石油元売り会社に補助金を支給することにより価格高騰を抑制する対策を実施しています。

意見の概要	牛乳や米の購入補助も持続的にやってほしい。
札幌市の考え方	お米・牛乳子育て応援事業は北海道による取組であるため、この事業の継続について札幌市からはお答えできませんが、札幌市ではプレミアム付き商品券の発行をはじめ、様々な物価高騰の対策を行っています。

意見の概要	電気代とガス代を無料にしてほしい。
札幌市の考え方	国は、電気・ガス料金について、利用者の負担軽減のため実施している激変緩和措置を 2024 年4月まで継続することとしています。引き続き、物価高騰による市民生活への影響の把握に努め、国や北海道とも連携し、適切な対策ができるよう検討していきます。

意見の概要	物価高騰で食糧費等が高騰し家計に影響しているため、対策してほしい。(類似意見 2件)
札幌市の考え方	札幌市では、物価高騰対策の一環として、今年度、保育所等の児童福祉施設や小中学校への給食費支援、高齢・障がい者施設等の社会福祉施設等や医療機関への食材費購入支援を実施しています。引き続き、物価高騰による市民生活への影響の把握に努め、国や道とも連携し、適切な対策ができるよう検討していきます。

意見の概要	物価高騰対策は、その時の状況に応じてスピード感を持って対応すべきで、計画に盛り込むことはそぐわない。
札幌市の考え方	物価高騰対策は原則計画事業費には計上しておらず、市民生活への影響を適時把握しながら、補正予算編成を中心に対応しています。

まちづくりの分野 3:地域

意見の概要	「アイヌ文化交流センターリフレッシュ事業」について、小金湯にある交流センターは、国道からの出入り口の表示が小さく見えない状況。目立つ表示を設置し、札幌市民や観光に来ている人が訪れやすくするべき。
札幌市の考え方	アイヌ文化交流センターにより多くの方に来館していただくことや施設の認知度向上に向けて、案内表示の見直しを含めて検討します。

意見の概要	「地域コミュニティ施設 Wi-Fi 機器導入事業」について、地区センターやまちづくりセンターなどの地域コミュニティ施設の利便性の向上として、Wi-Fi の他にコピー機の有料使用を行ってほしい。
札幌市の考え方	地区センターについては、コピー機の有料使用を行っています。地域コミュニティ施設については、必要性等を踏まえながら、引き続き利便性の向上に努めていきます。

意見の概要	コミュニティ施設を今よりも増やしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市には区民センターが各区(10か所)にあるほか、人口規模等を考慮して、コミュニティセンターを2か所、地区センターを24か所に設置しています。「市有建築物及びインフラ施設等の管理に関する基本的な方針」において、公共施設を将来の人口に見合った規模へ適正化する方針としており、将来人口推計では市の人口は減少することが見込まれていることから、現段階で新たな施設の整備は難しいものと考えています。

意見の概要	外側から気づきにくい怪我をしている人や体調が悪い人は優先席に座りにくいと感じるため、体調の悪い人も座りやすいような環境を作ってほしい。
札幌市の考え方	外見からは障がいなどがあることが分からなくても援助や配慮を必要としていることを周囲に知らせる「ヘルプマーク」、困ったときなどに周囲の援助や配慮を求めるための「ヘルプカード」といったツールの活用などを通して、引き続き、相互に理解し合おうと互いにコミュニケーションを取り、支え合う「心のバリアフリー」の普及啓発に取り組んでいきます。

意見の概要	生徒が安心・安全に学校生活を送れるよう、トイレの老朽化に伴うウォシュレットの導入やLGBTQ及び障がいのある生徒が使用しやすい多目的トイレの導入などを行ってほしい。
札幌市の考え方	全ての子どもが安心して学ぶことができる環境の整備は重要だと考えており、学校施設のバリアフリー化を推進し、2025年度までに市立幼稚園・学校全施設にバリアフリートイレを整備します。なお、バリアフリートイレについては、多目的トイレとしての機能を備えています。

意見の概要	ひきこもり対策推進事業について、アクションプラン 2023 ではバージョンアップされなかった理由を教えてください。
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 の策定においては、ひきこもり支援に関する事業のみならず、区役所の支援体制の在り方等も併せて議論が行われ、包括的・重層的な支援体制について目指すべき方向性は共有されたものの、その具体手法については、2025 年度に予定される実態調査の結果も踏まえるべきとの結論に至りました。なお、アクションプラン2023には反映できていませんが、当面の支援強化策について、現在、検討を進めており、2024 年度当初から実施したいと考えています。

意見の概要	外国人が安心・安全に住めるようなまちにしてほしい。
札幌市の考え方	外国人市民向けの相談窓口やコミュニケーション支援などにより不便・不安の解消に取り組むほか、様々な交流を通じて異文化理解を促進し、外国人市民も日本人市民も安心・安全に住めるまちを目指します。

意見の概要	外国から来た方や障がいをお持ちの方にも伝わるよう、外国語などで伝える・音声・分かりやすい文章など工夫してほしい。
札幌市の考え方	外国の方や障がいのある方なども含め、誰でも見やすく分かりやすい情報発信を充実させる観点から、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた取組を実施していきます。

意見の概要	外国人の移住に関する法整備は、市単位では難しく、都市圏での連帯が必要である。外国人集住都市会議に参加し、札幌市が主導的な立場をとることにより、外国人が住みやすいまちをつくってほしい。
札幌市の考え方	札幌市は政令指定都市の中でも総人口に占める外国人の割合が特に低いため、現時点で外国人集住都市会議に参加する予定はありませんが、他都市との連携は重要と考えており、政令指定都市市長会議などを通じて外国人施策の充実を国に働きかけています。今後も様々な関係機関と連携し、外国人が住みやすいまちづくりに取り組んでいきます。

意見の概要	障がいを持つ子とその保護者が生活しやすくなるよう、罰則を含んだ条例を制定し、共生社会を実現してほしい。共生社会の実現に向けて、札幌市職員については、市民のモデルとなるよう規則を制定し、罰則も設けてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、2024 年度末の(仮称)共生社会推進条例の制定を目指すなど、年齢、性別、国籍、民族、障がいの有無等を問わず、「誰もが互いにその個性や能力を認め合い、多様性が強みとなる社会」(共生社会)の実現に向けた取組を進めていく考えです。

意見の概要	「性的マイノリティ支援事業」について、当事者の方に困りごと等をしっかりと聞き取り実施すべき。もっと必要とされることを事業化してほしい。
札幌市の考え方	性的マイノリティの方々が安心して生活できる共生社会を実現していくことは重要であると考えており、性的マイノリティの方々は機会を捉えて意見交換などを行ってきたところです。ご意見のとおり、性的マイノリティの方々は日常生活において様々な困難を抱えていることから、引き続き、ご意見をいただきながら取組を進めていきます。

意見の概要	「市民参加手法の構築事業」について、子ども・障がいのある方、若者、子育て中の方等、どのような立場にある方でも参加しやすい手法を丁寧に話し合いながら作り上げてほしい。
札幌市の考え方	市民意見をしっかりと市政に反映することは重要だと考えており、アクションプラン2023では、多くの市民が市政により意見を出しやすく、参加しやすい仕組みの構築などを進めます。

意見の概要	南区の若者による主体的なまちづくり活動の支援を増額し、学生が頑張れるように応援してほしい。
札幌市の考え方	南区では若者向けの助成金事業について、2022年度から1事業当たりの助成金を15万円から20万円へと増額し、若者のまちづくり活動支援に取り組んでいます。

意見の概要	「市民参加手法の構築事業」について、市政への市民参加を進めるため、市民参加の具体的な方法を示す「市民参加条例」を制定すべき。
札幌市の考え方	市民意見をしっかりと市政に反映することは重要だと考えており、アクションプラン2023では、条例の検討を含む市民意向把握の仕組みの構築などを進めます。

意見の概要	「福祉除雪事業」について、町内によっては高齢化が進み、除雪協力の担い手が減っていると聞いた。家の前に除雪車が置いていく雪は重いため、人力に頼るだけではなく、地域ごとに小型除雪機を導入するなど、方法を考えるべき。マッチング率100%とは、そもそも協力員の成り手がいないからではないか。
札幌市の考え方	札幌市では町内会や除雪ボランティアを行う団体に対する小型除雪機の購入補助や無償の貸出し制度を実施しており、福祉除雪を行う団体もこれらの制度の対象としています。また、マッチング率は「利用対象世帯に対して」マッチングができた割合で算出しており、全ての利用対象世帯に協力員をマッチングできたときに、マッチング率が100%となります。この目標達成に向けて、協力員の成り手について地域に委ねるだけではなく、今年度から広報を拡充するなど幅広い層からの担い手の確保に取り組んでいるところです。

まちづくりの分野 4:安全・安心

意見の概要	住宅街に街路灯を増やしてほしい。(類似意見3件)
札幌市の考え方	街路灯は夜間における交通の安全、安心及び防犯のために重要な施設と考えています。街路灯の新規設置については、現地を確認した上で設置を検討していく必要があるため、詳細なご要望箇所について各区の土木センターへのご相談をお願いします。

意見の概要	看板の落下事故などの防止対策をしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、看板を適正に管理するよう事業者等に対して啓発活動を実施するとともに、強風が予測される場合には札幌市ホームページや X(旧ツイッター)にて注意喚起を行っています。また、屋外広告業団体との協定に基づいて「屋外広告物安全パトロール」を実施し、看板の落下事故防止に努めています。

意見の概要	災害時に速やかに避難できるよう、地面や壁等に避難を誘導するマークをつけてほしい。
札幌市の考え方	積雪時にも標識の確認ができるよう電柱に看板を設置するとともに、避難所の入口にはステッカーによる標示を行っていきます。

意見の概要	自転車の通行空間整備事業について、特に北 18 条周辺は通学のために急ぐ学生たちの自転車で、歩行者が危険を感じる人が多いので、学校周辺の整備を重点的に行うべき。
札幌市の考え方	自転車も歩行者も多く集まる駅周辺において、自転車乗入台数や駅利用者数、駅周辺における自転車事故件数などを勘案し、駅周辺の公共駐輪場にアクセスする主要な経路への矢羽根型路面表示の設置を進めていきます。いただいたご意見は、今後の自転車施策の検討の参考にさせていただきます。

意見の概要	自転車専用道のルールを市民に周知してほしい。
札幌市の考え方	さっぽろサイクリングマップや広報さっぽろなどで、自転車・歩行者専用道路の通行ルール等について周知しています。また、アクションプラン 2023 では、自転車安全教室や交通安全啓発活動などを実施して、自転車ルール徹底・マナー向上に努めます。

意見の概要	路側帯・車線外領域を自転車専用道として、交通量の多い幹線道路全てに整備してほしい。また、必要であれば歩道を狭くし、路側帯・車線外領域を広げることや、排水溝を自転車走行に支障のないように移動してほしい。
札幌市の考え方	自転車交通量が多い等、自転車と他の車両を分離し、車道上に自転車専用の走行空間を確保することは効果的な対策であることは認識していますが、この自転車専用通行帯等の整備を行うためには、道路交通法に基づく規制を行う必要があります。しかし、同法に基づく交通規制基準では、「積雪により普通自転車専用通行帯における自転車の通行に支障をきたす場合には本規制を実施しないこと」とされており、札幌市などの積雪地において自転車専用通行帯等の整備を行う場合には、その実現に向けた具体的な対策等を検討した上で、関係機関との協議により交通規制の取扱いを決定するため、整備までに相当期間が必要となります。このため、札幌市では、道路拡幅などの道路構造を変更することなく、時間や整備費を比較的かけずに早期に整備効果が発現しやすい「車道混在」(矢羽根型路面表示)を基本的な整備形態としています。

意見の概要	市内中心部の百貨店や大規模商業施設に駐輪場設置を義務付けてほしい。
札幌市の考え方	2002年に制定した「札幌市自転車等駐車場の設置等に関する条例」に基づき、都心の駐車場整備地区及びそれ以外の商業地域・近隣商業地域において、一定規模以上の施設(対象:小売店舗・銀行等・ぱちんこ屋を含む遊技場等)を新築及び増築する際に、駐輪場の設置を義務付けています。2002年以前に建築された既存の百貨店や大規模商業施設には、この条例は適用されないため、施設の建替え時(新築及び増築時)に駐輪場設置が義務付けられることとなります。なお、この条例は制定してから20年が経過していることから、2023年度末に現状の駐輪実態に合わせた改正を行う予定です。

意見の概要	大通付近の駐輪場が少なく放置自転車が多いので、無料の駐輪場を増やしてほしい。
札幌市の考え方	放置自転車対策は重要だと考えており、近年では、西2丁目線地下駐輪場や南2西3地下駐輪場を整備した上で、大通周辺を放置禁止区域に指定し、放置自転車対策に取り組んでいます。今後も、放置自転車の状況などを踏まえながら、必要に応じて駐輪場整備について検討していきます。なお、都心部に整備する公共駐輪場は、光熱費や設備保守などの維持管理費が掛かることから、継続的かつ安定的な運営のため、利用者に一定の負担をしていただくこととして有料としています。

意見の概要	「矢羽根」の設置について、高校や大学などの自転車通学が多い地域から行ってほしい。北18条のエルムトンネルにつながる道路では、歩道の自転車走行が多く、危険な状態であり、優先設置してほしい。また、「矢羽根」の表示について知らない市民が多いため、周知してほしい。
札幌市の考え方	自転車も歩行者も多く集まる駅周辺において、自転車乗入台数や駅利用者数、駅周辺における自転車事故件数などを勘案し、駅周辺の公共駐輪場にアクセスする主要な経路への矢羽根型路面表示の設置を進めていきます。いただいたご意見は、今後の自転車施策の検討の参考にさせていただきます。また、自転車のルールやマナーについては、今後も引き続き、警察等の関係機関と連携しながら、自転車の安全利用を広報する冊子等の配布(広報ツールの活用)や自転車安全教室の実施などを進めるとともに、ドライバーに対しては、運転免許取得時及び更新時講習において、矢羽根型路面表示の啓発チラシを配布するなど、周知・啓発に取り組んでいきます。

意見の概要	路面の矢羽根表示が消えないように、小まめに保守してほしい。
札幌市の考え方	自転車利用者に秩序ある通行を促すとともに、自転車は車道を通行することをドライバーに広く認識してもらうため、矢羽根型路面表示の保守は重要であると考えていますが、一般的な区画線(白線)と比べて保守費用が高額となることから、同等の機能保持と低コスト化を両立させた整備手法等の検討を行い、矢羽根型路面表示の効率的・効果的な維持管理を目指します。

意見の概要	信号をより歩行者・自転車優先にしてほしい。
札幌市の考え方	信号機の設置等交通規制に関しては警察の所管となりますが、交通安全教室や出前講座を実施して自動車の安全運転を呼びかけるなど、ドライバーの交通安全意識の向上に努めます。

意見の概要	欧州(特に、オランダ、ドイツ、デンマークなど)で自転車生活をしてきた人を、コンサルタントとして雇用してほしい。
	市の職員を欧州(特に、オランダ、ドイツ、デンマークなど)に派遣して、自転車に関する姿勢や行政を学ばせてほしい。
	自転車生活者数と自動車生活者数の統計を取り、移行状況を把握してほしい。
	ドライバーに、自動車生活から自転車生活に移行するように促してほしい。
	自転車を使って生活する人を優遇してほしい。
札幌市の考え方	近年、自転車の果たす役割は多様化しており、これまでの通勤や通学、買い物などの日常生活における身近な交通手段としての役割に加え、スポーツ・レジャーや健康増進、自転車観光、災害時の活用など様々な用途に広がりを見せています。そのため、札幌市では、自転車利用の更なる多様化を見据えた施策展開を行うこととしており、いただいた意見については、今後の施策や事業検討の際の参考とさせていただきます。

意見の概要	東白石小学校の数百メートル圏だけでも、スクールゾーンとして登下校時の車両通行を制限してほしい。
札幌市の考え方	東白石小学校付近の交通事故抑制のための取組としては、2021 年度に北海道警察白石警察署と共同で、東白石小学校を含む一定範囲に対し、最高速度 30km/h の速度規制を実施する「ゾーン 30」を指定し、これに関わる路面標示や規制看板などを設置したところです。今後、現地確認を行うとともに、スクールゾーン実行委員会などの場で、ゾーン 30 実施に関する地元の皆様のご意見をいただき、十分な効果が発揮されていないと判断した際には、関係機関と協力して交通規制を含めた追加対策の検討を行っていきます。

意見の概要	制限速度順守率を把握し、他の都府県と比較して公表してほしい。
札幌市の考え方	交通安全教室や出前講座を実施して自動車の安全運転を呼びかけるなど、ドライバーの交通安全意識の向上に努めます。なお、制限速度順守率の把握に関しては、その必要性について検討します。

意見の概要	自動車の制限速度を厳守するように啓蒙、指導、取締りをしてほしい。
札幌市の考え方	指導、取締りに関しては警察の所管となりますが、交通安全教室や出前講座を実施して自動車の安全運転を呼びかけるなど、ドライバーの交通安全意識の向上に努めます。

意見の概要	交通量の多い幹線道路の制限速度を下げしてほしい。
札幌市の考え方	速度規制に関しては警察の所管となりますが、交通安全教室や出前講座を実施して自動車の安全運転を呼びかけるなど、ドライバーの交通安全意識の向上に努めます。

意見の概要	交通事故を減らすため、車だけではなく道路に自動停止装置を付けるなどの取組をしてほしい。
札幌市の考え方	最近では、車の自動ブレーキ装置など、安全装置の普及が進んでいるところですが、ご提案にあるような道路安全設備の未来の姿にも期待したいと考えています。それまでの当面の対策としては、交通事故が発生しづらい道路の形状や表示・標識の工夫、さらには、警察や地域の方々とも協力しながら、運転者の意識啓発にも協力して取り組んでいきたいと考えています。

意見の概要	信号機がない道路を横断する人がいて危険を感じるため、信号機を増やしてほしい。
札幌市の考え方	信号機は、道路交通法第4条第1項の規定に基づき、都道府県公安委員会が設置し管理することになっており、実際には都道府県警察がその事務を行っています。信号機は横断歩行者数や交通量等を総合的に判断して公安委員会が設置することとなりますので、地域を管轄する警察署の交通課に相談してください。

意見の概要	冬道を走りやすくしたり、ガードレールや白線を分かりやすくして、交通事故を減らしてほしい。
札幌市の考え方	冬期の安全な道路交通の確保は重要だと考えており、「札幌市冬のみちづくりプラン2018」に基づき、安心・安全な冬期道路交通の確保のため、道路種別に応じて定めた作業水準により、除排雪作業や凍結防止剤の散布などを実施しています。

意見の概要	札幌市内の大通公園や札幌駅周辺の道路における整備は良くされているが、交差点の歩車分離式信号機の設置が少ないのではないかと。地元住民はもちろん、海外からの観光客に対して安心して安全に双方が通行できる道路環境を整えてほしい。
札幌市の考え方	「安全・安心な道路環境整備事業」では歩道のバリアフリー整備、幹線道路等の交通事故対策などを実施しています。信号機の設置に関する権限は公安委員会、除雪や凍結対策については各区土木センターでの対応となりますので、関係部署と情報共有を行うとともに、道路工事の際には交差点形状の改善など道路環境の改善について検討を進めていきます。

意見の概要	水道の水をもっとおいしくしてほしい。
札幌市の考え方	札幌の水道水源域の多くが国有林野など緑豊かな森林地帯に囲まれ、自然に恵まれた環境にあり、水源となる河川の水質が良好です。このような良質な河川の水を適切に浄水処理することで、札幌の水道水は 51 項目に及ぶ水質基準のほか、「水のおいしさ」に関わる水質目標値(硬度、遊離炭酸、有機物、残留塩素など)を全て満たしており、札幌市の水道水は全国的にもおいしい水と言われることがあります。いただいたご意見を踏まえ、より多くの方に水道水がおいしいと言ってもらえるよう、今後もおいしい水の供給に努めていきます。

意見の概要	札幌市の企業や飲食店などに対して、アレルギーの指標を作るなどアレルギー対策を考えてほしい。
札幌市の考え方	安全・安心な食のまちさっぽろ推進事業では、事業者の自主的な衛生管理の推進や、市民・事業者間の相互理解を促進するための事業を展開しています。その取組の一環として、札幌市では飲食店等の事業者がメニュー等にアレルギー表示を行うことができるよう、札幌市立大学の協力の下、2016 年に市独自のアレルギーピクトグラム(絵文字)を作成し、ホームページで公開しているほか、地下歩行空間で開催するイベントの商品説明に使用するなど、普及啓発に努めています。本制度の周知を含めて、今後とも飲食店等の事業者にアレルギー表示を推奨していきます。

意見の概要	鳥インフルエンザのワクチンをつくってほしい。
札幌市の考え方	鳥インフルエンザウイルスは、感染したトリに直接接触する機会が多かった場合などに、極めて稀に人に感染することがありますが、通常は人に感染しません。動物に触れた後や外出から帰宅した時などにしっかりと手洗い・うがいをすることが、感染予防対策として有効です。

まちづくりの分野 5:経済

意見の概要	新 MICE 施設整備事業は、財力のある国や地域に任せるべきと考えるため、作らないでほしい。
札幌市の考え方	MICEの開催は、地域産業の振興や海外・道外からの参加者による消費といった経済的な効果に加え、都市ブランドの向上やビジネス機会の創造など、様々な面で札幌のまちづくりに貢献するものと考えています。大規模な国際会議等の誘致が可能な新MICE施設の整備を検討していきます。

意見の概要	イベントを増やしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では現在、パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌やサッポロ・シティ・ジャズ、札幌国際芸術祭などの多様なジャンルの文化芸術イベントを実施しています。また、札幌マラソンや札幌国際スキーマラソン、北海道を歩こう、札幌市民スポーツ大会などの様々な種目のスポーツイベントや大会も実施しています。さらに、札幌市・北海道ならではの観光資源(食、自然、文化、夜間観光など)を活用したコンテンツの充実は重要だと考えており、イベントを含めた観光コンテンツの充実にも取り組みます。今後もこうしたイベントを始めとして、より多くの方が観光資源や文化芸術、スポーツに親しめる環境づくり、機会の創出を検討していきます。

意見の概要	デザイン経営の必要性と補助金に関する広報をしてほしい。
札幌市の考え方	ご意見のとおり、デザイン経営への取組を推し進めることは、札幌の企業の競争力をより高めるとともに、デザイン産業の活性化といった相乗効果をもたらすものと認識しています。現在、デザイン経営の概論や実践例を学べる講座の設置を進めているところであり、今後も企業のデザイン経営実践を支援できるよう、取組を進めていきます。

意見の概要	大通などの大きい広場などに、映像広告やプロジェクションマッピングなどを行って、魅力あるまちにしてほしい。
札幌市の考え方	雪まつりの際には、大通公園で雪像に映像を投影するプロジェクションマッピングを行っています。今後も魅力あるまちにするために様々な取組を実施します。

意見の概要	札幌にもっと気軽に泊まれるホテルを増やしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市を訪れる方にとって利用しやすい宿泊施設が整備されることは重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、宿泊施設に対し、多様な観光客にとって利用しやすい環境を整備するための経費の補助などを実施します。

意見の概要	国外・国内から人が集まるまちにしてほしい。
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 の取組を推進することで、魅力的な都市づくりや質の高い雇用創出により、国外・国内から人が集まるまちを目指します。また、様々な企業の立地や創業が進むことにより、産学官連携や、国内はもとより海外の企業などとの交流が活発に行われ、ビジネスチャンスや新たな価値を創出していきます。

意見の概要	札幌市民の雪まつりへの来場回数が少ないことを危惧している。チカホにプロジェクションマッピングなどを用いた広告活動を行い、雪まつりの市民来場者数を増やしてほしい。
札幌市の考え方	雪まつりは国際的なイベントとして定着していますが、より多くの市民に楽しんでもらうため、様々な手法や広報媒体を用いて、効果的に周知・啓発していくことは重要であると考えています。いただいたご意見を参考に、今後もより効果的な周知・啓発方法について検討の上、広報活動を行っていきます。

意見の概要	住民の安全に対する対策も大事だが、観光に対する政策も大事である。観光業の利益によって資金を得て、他の政策の足しにするという考え方もある。
札幌市の考え方	観光業が利益を上げることで市の税収が増え、その税収を様々な政策の財源として活用することは重要だと考えおり、アクションプラン 2023 では観光業への支援を充実・強化します。

意見の概要	北海道と言えば冬であるため、冬を生かせば観光客が増えると思うが、その点はどのように取組を考えているのか。
札幌市の考え方	雪まつり、スキー、雪遊びなど「雪のまちの魅力」を観光客の誘客に最大限に活用するとともに、充実した都市機能や観光スポットを備えた「国際観光都市の魅力」との融合により、札幌でしか実現できない、まち全体で冬を楽しむ「都市型スノーリゾートシティ」としてPRを行い、国内外からの誘客に取り組んでいます。

意見の概要	産後であっても働きやすいよう、再雇用やリモートワーク、短時間労働等、様々な働き方を推進するような取組を進めるべき。
札幌市の考え方	産後であっても働きやすいよう様々な働き方を推進することは重要だと考えています。アクションプラン 2023 では、企業に対してリモートワークなどの様々な働き方の推進に向けた支援を実施するとともに、女性の多様な働き方支援窓口「ここシェルジュ SAPPORO」において女性の再就職・リモートワークに向けたスキル習得を支援します。

意見の概要	若者から高齢者まで暮らしやすいまちにするため、賃金の引上げ等に取り組むべき。 「働き方改革推進事業」について、「札幌ではみんな働きやすい」と思えるような改革を目指してほしい。
札幌市の考え方	若者から高齢者まで暮らしやすいまちにするため、誰もが働きやすい職場環境が整備されるとともに、多様で柔軟な働き方や、仕事と生活の調和の取れた生き方を実現することは重要だと考えています。アクションプラン 2023 では、企業の働き方改革を推進するとともに、「働きやすいまち」となるように、労働者の雇用環境の向上への対応方針について検討を進めます。

意見の概要	人口が少ない地域に観光スポットを増やしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市・北海道ならではの観光資源(食、自然、文化、夜間観光など)を活用したコンテンツの充実が重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、観光スポットを含めた観光コンテンツの充実に取り組みます。

意見の概要	少子高齢化や人口減少が課題である中、観光分野や地域活性化に資源を集中すべき。
札幌市の考え方	札幌市が担う行政分野は非常に幅広く、市民の皆様の生活を支えるインフラも多く含まれることから、特定分野にだけ資源を集中することは市民生活全般に影響が及ぶため難しいことですが、一方で、観光分野や地域活性化は市政における重要分野であり、様々な事業により充実を図っていきます。

意見の概要	人口減少対策として、子どもを増やすこと以外に今できることがないか考えてほしい。
札幌市の考え方	人口を増やす取組は重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、市外への転出者を抑制しつつ市外からの転入者を増やすための、質の高い雇用創出や魅力的な都市づくり等を進めていきます。

意見の概要	道内の人口減少がより進行することを考えると、道内における札幌市の役割がより大きくなっていくため、周辺の自治体との連携強化が強くなっていく。今後の首都直下型地震・南海トラフなどを想定し、首都機能や東京の本社機能の札幌移転の推進が今後必要なのではないか。
札幌市の考え方	雇用創出や経済の活性化、産業基盤の強化を図るため、札幌への本社機能移転を推進することは重要と考えています。アクションプラン 2023 では、補助制度の活用や魅力的な都市環境のPRなど、積極的な誘致活動を通じ周辺自治体と連携した企業の立地や設備投資を促進します。

意見の概要	観光スポットやおいしい食べ物、住みやすい家を作っていくことで、若者の人口を増やして欲しい。
札幌市の考え方	若者の人口を増やしていくことは重要と考えており、アクションプラン 2023 では、札幌市・北海道の強みである食や観光分野の産業を支援し、若者の道外流出の抑制や市民所得の増加につなげていきます。また、誰もが住み慣れた地域で、生活しやすく住みよいまちの実現を目指します。

意見の概要	人口を増やすための取組を行ってほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	人口を増やす取組は重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、市外への転出者を抑制しつつ市外からの転入者を増やすための質の高い雇用創出と魅力的な都市づくりや、結婚・出産・子育てを支える環境づくり等を進めていきます。

意見の概要	若者を呼び込んだり、イベントを開催したりするなどして、札幌市の人口減少を緩和する取組を進めてほしい。(類似意見 3 件)
札幌市の考え方	人口減少の緩和に向けた取組は重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、市外への転出者を抑制しつつ市外からの転入者を増やすための質の高い雇用創出と魅力的な都市づくりや、結婚・出産・子育てを支える環境づくり等を進めていきます。

意見の概要	北海道の長期的な経済対策に宇宙開発が挙げられている。現在、大樹町にアジア初の宇宙港を作ろうという取組が行われており、その取組に対して資金提供をするのが良いのではないか。
札幌市の考え方	札幌市では、2023 年 9 月に北海道と北海道経産局と共に「STARTUP HOKKAIDO」を立ち上げ、北海道全体でのスタートアップ支援の取組を推進しています。その中の重点産業の一つとして「宇宙産業」を掲げており、大樹町の宇宙産業関連団体などと連携しながら、人材育成や中央省庁との意見交換などを実施しています。引き続き、宇宙産業を始めとした北海道や札幌市が持つ強みを生かした産業振興に取り組んでいきます。

意見の概要	人材確保について、若者を定着させるのも 1 つの考えかと思うが、高齢者の再就職の方が有効ではないか。マッチングを支援している機関から話を聞くと、高齢者の成約率が高く、実績があるとのこと。ただし、様々な方法を組み合わせるべきということであるため、若者対策も続けてほしい。
札幌市の考え方	人材確保について、若者の定着や高齢者の再就職は重要だと考えています。アクションプラン 2023 では、若い世代を含む就業率の向上に向けて、求職者の地元企業への就業を支援するほか、高齢者の活躍機会の確保に向けて、マッチングを支援するなど、多様な人材の就業を支援します。

意見の概要	人口減少等、これからの時代に合わせてオートメーション化してほしい。 人口減少に対応できるように、機械の活用をより推進してほしい。
札幌市の考え方	デジタル技術を活用したオートメーション化は重要だと考えており、アクションプラン2023では、デジタルの活用による行政サービスの効率化・高度化を進め、市民生活の質の向上させていきます。また、人口減少局面において持続的な経済成長を遂げていくためには、自動化(オートメーション化)なども含めたデジタル技術等を活用した生産性の向上が重要だと考えており、アクションプラン2023では、中小企業におけるDX推進支援やIT人材の育成などに取り組んでいきます。

意見の概要	札幌で働く人が増えるような支援をしてほしい。(類似意見1件)
札幌市の考え方	働き手の減少などに伴う人材不足の現状は、課題と認識しています。アクションプラン2023では、「働きやすいまち」となるように、労働者の雇用環境の向上への対応方針について検討を進めます。

意見の概要	自分の知識や技術、努力が自身の給料や生活にきちんと反映されるようなまちにしてほしい。
札幌市の考え方	人口減少局面に差し掛かった札幌市では、今後様々な分野で人手不足が見込まれます。このため、多様な人材が自身の持つ能力を発揮し、誰もがやりがいや充実感を得ながら、活躍できるようなまちづくりを目指します。

意見の概要	市民が札幌産野菜を身近なスーパーなどで買えるシステムを構築してほしい。
札幌市の考え方	現在、さとらんど内の販売所、農協販売所、一部のスーパーマーケット内の販売コーナーのほか、農家の直売所などで札幌産野菜を買うことができます。今後、販売している場所の広報に努めていきます。

意見の概要	イベントや観光一本やりではなく農業の魅力を発信すべく市民参加型での農園併設などを行ってほしい。
札幌市の考え方	農業の魅力を発信については、さとらんどにおいて、農業体験を中心に農に係るイベントも実施しています。今後も、農業体験を拡充するとともに情報発信にも力を入れていく予定です。

意見の概要	「農業担い手育成・支援事業」、「(仮称)さっぽろ都市農業振興基本計画策定」について、子どもが成長する上で、農業に関わることが大変有意義であるとのことから、学校教育に「農業科」を導入する自治体があることに注目している。そのような視点から、子どもや若者が多く関わることのできる取組にしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では現在、さとらんどにおいて小中学校等と連携し、収穫体験等、子どもたちの農業への理解と食への関心が高まるような体験学習を実施しています。こうした取組のほか、都市農業振興基本計画の中で市民農園や体験農園の充実など、子どもや若者を含めた多くの方に農業を体験・理解していただけるような施策の検討を行うとともに、新たな担い手として札幌の農業を支えていただく方々に対する支援に取り組んでいきます。

まちづくりの分野 6:スポーツ・文化

意見の概要	パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)事業として、以前行われていた「芸森を利用する環境」を復活し、「昼食にビュッフェサービス」を追加してほしい。
札幌市の考え方	現状においては、パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌における札幌芸術の森を利用した取組として、札幌芸術の森野外ステージにおいて開放的な環境で鑑賞いただける「ピクニックコンサート」を例年、実施しています。パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌における取組については、より一層、市民の皆様にお楽しみいただけるものとなるよう検討を重ねていきます。

意見の概要	オリンピックを開催してほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致に向けた取組は札幌市のまちづくりにおいて重要だと考え、これまで招致を進めてきました。しかしながら、2023年11月29日に開催されたIOC(国際オリンピック委員会)理事会で、2030年大会及び2034年大会の開催地が他都市に内定したことにより、現時点で招致活動を具体的に進めていける状況にあるとは言えなくなったところです。こうした状況及びアクションプラン2023の実施計画期間が今後5年間であることを踏まえ、冬季オリンピック・パラリンピック関係事業にかかる掲載を削除することとしました。

意見の概要	オリンピックは札幌でやらないでほしい。(類似意見 3 件)
札幌市の考え方	オリンピック・パラリンピック冬季競技大会の招致に向けた取組は札幌市のまちづくりにおいて重要だと考え、これまで招致を進めてきました。しかしながら、2023年11月29日に開催されたIOC(国際オリンピック委員会)理事会で、2030年大会及び2034年大会の開催地が他都市に内定したことにより、現時点で招致活動を具体的に進めていける状況にあるとは言えなくなったところです。こうした状況及びアクションプラン2023の実施計画期間が今後5年間であることを踏まえ、冬季オリンピック・パラリンピック関係事業にかかる掲載を削除することとしました。

意見の概要	コンサドーレ札幌を強くしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市では北海道コンサドーレ札幌のチーム強化に直接携わっていませんが、ホームタウンである札幌市として今後も支援を続けていきます。

意見の概要	学校のスキー学習について、遠方のスキー場に行けるようにしてほしい。
札幌市の考え方	スキー学習で利用するスキー場については、各学校において、学校からスキー場までの距離や保護者が負担する費用をはじめ、コースの形状やリフト等の設備など、安全・安心に学習できるかどうか、総合的に考慮して決定しています。

意見の概要	学校のスキー学習の回数を増やしてほしい。
札幌市の考え方	授業時数を含む学校の教育計画は、各学校において学校教育の全体像を勘案しながら決定しており、スキー学習の回数についても、各学校において体育科、保健体育科の全体計画はもとより、様々な教育活動を総合的に考慮して決定しています。

意見の概要	スケート靴のレンタル料などはそこまで負担にならないため、支援は不要である。
札幌市の考え方	子どもたちがスケートに親しむ機会を増やすため、小中学生を対象にスケート場を利用する際の貸靴料金を軽減し、より多くの児童生徒がスケートを楽しむことができるようにしていきたいと考えています。現在も数多くの児童が料金軽減を利用しており、「スケートをするきっかけとなった」という声も多数あることから、支援の継続が必要と考えています。

意見の概要	子どもたちがスポーツや文化芸術に親しむために札幌市が支援することのことだが、そんなことをしなくても学校の教育活動だけで十分であるため、支援は不要である。
札幌市の考え方	札幌市では、健康な身体を育む重要な時期に、効果的なスポーツ指導を受けることにより体力・身体機能の向上につながることから、学校への指導者等の派遣を行ってきました。こうした支援は、家庭環境等にかかわらず多くの児童生徒に機会を提供できるよう、学校教育の一環として鑑賞や体験、スポーツ活動を行うものが中心となっています。スポーツ活動に対する支援については、学校からの要望やニーズに基づいて実施しているものもあり、継続していきたいと考えています。また、感受性が最も豊かな時期に文化芸術に触れることが人間の創造性を育む上で効果的と考え、児童生徒が多様な文化芸術に触れることができる機会を数多く提供してきました。文化芸術活動に対する支援についても、ご指摘のような学校における機会提供を担うものであることから、今後も継続してこうした支援を行う必要があると考えています。

意見の概要	子どもがスポーツや文化芸術を楽しめるように様々なことを実施してほしい。
札幌市の考え方	誰もがスポーツを楽しむことができることは重要だと考えており、アクションプラン2023では、タグラグビーやスキー、カーリングなどの様々な種目のスポーツ体験会や、ボッチャを始めとした障がい者スポーツ体験会を開催することとしているほか、プロスポーツチームとの連携やパブリックビューイングの実施等によるスポーツを観る機会の創出に取り組めます。また、子どもたちの創造性を育むため、小学生を対象として様々な文化芸術の鑑賞・体験機会を提供するほか、そのほかの事業においても子どもを対象とした取組を検討していきます。

意見の概要	地区センターのような運動する場所を借りられる施設を増やしてほしい。
札幌市の考え方	日常的な運動・健康づくりの場として、地区センター等の既存コミュニティ施設の更なる利用拡大や、小学校を改築する際、児童会館等との複合化と併せて整備を進めている多目的ホールの有効活用等について検討していきます。

意見の概要	札幌にもっとスキー場を増やして、ウインタースポーツで有名になってほしい。
札幌市の考え方	札幌市による新たなスキー場整備の予定はありませんが、ウインタースポーツのすそ野の拡大や、アスリートの発掘・育成、国際大会の誘致・開催に取り組むことで、世界屈指のウインタースポーツシティを目指していきます。

意見の概要	中島公園で観光客向けに貸し出しているような初級者用のクロスカントリー板にくわえて、レース用の板で本当の楽しさを体験できるような機会を増やしてほしい。また、市内の公園で、クロスカントリースキー用コースと、スノーシューツアー用コースを一体型で整備してほしい。
札幌市の考え方	札幌市では歩くスキーの普及振興のため、初心者向けの中島公園コースから上級者向けの白旗山競技場コースまで整備しており、引き続き個々のレベルに応じた楽しさを体験できる環境を整えていきます。都市公園では、スポーツ施設を整備する場合、多くの市民利用が想定されること、また、冬季間の利用のみならず、夏季における利用と両立できることが必要と考えています。クロスカントリースキー用コース等のスポーツ施設についても同様の考えの中で、検討することになります。

意見の概要	バスケットボールなどのスポーツができる体育館をつくってほしい。 四季を通じたスポーツ機会確保のために様々な施設を増やしてほしい。(類似意見 8件)
札幌市の考え方	札幌市所管のスポーツ施設については、人口減少・超高齢化社会の進展等、様々な社会情勢の変化に対応するため、効率的・効果的な施設配置により施設総量を抑制し、持続可能な施設環境を整えていくこととしています。なお、新たなニーズや不足している機能などについては、その必要性を踏まえ、慎重に対応を検討していきます。

意見の概要	白旗山スキー場の休憩所をリノベーションしてほしい。また、地下鉄駅からのアクセスを向上してほしい。
札幌市の考え方	施設の改修は、老朽化の状況など他の施設との優先順位を踏まえて検討していきます。また、白旗山競技場へは既存の公共交通機関又は車でのお来場をご案内しています。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。

意見の概要	冬季に円山公園陸上競技場を全面的に活用できるようにしてほしい。
札幌市の考え方	円山競技場におきましては、冬季はスケート場として開放しています。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。

意見の概要	現在よりも、働き盛りの世代が運動をしやすくなるような環境づくりを推進してほしい。
札幌市の考え方	四季を通じて誰もがスポーツを楽しむことができる環境を整えることは重要だと考えており、アクションプラン 2023 では多様化するニーズやライフスタイルに対応するため、スポーツ施設の利用環境向上に向けた調査検討を実施するとともに、身近なスポーツ活動の場として学校体育施設の開放などに引き続き取り組みます。

意見の概要	スポーツへの支援を行ってほしい。
札幌市の考え方	スポーツへの支援を行うことで、誰もがスポーツ活動に参加し、楽しむことができることは重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、スキー場のリフト料金(全小学生)・スケート貸靴料金(全小中学生)・スキー用具レンタル料金(4~6歳の未就学児)の助成や学校のスキー学習へのインストラクター・指導者の派遣などの「する」スポーツの支援や、トップレベルの試合開催時の親子の無料招待や国際大会等の開催支援などの「みる」スポーツの支援、スポーツボランティアの養成などの「ささえる」スポーツの支援に取り組みます。

意見の概要	明るく、元気なまちづくりの実現に向けて、サンバなどで使用する大きな音の出る打楽器が演奏・練習できるよう、学校開放の拡充を進めてほしい。また、区民センターなどにも練習場所を増やしてほしい。
札幌市の考え方	学校開放や区民センターの貸室実施に当たっては、学校に通う子どもの放課後活動、教員の校務、近隣住民への影響等に配慮して運用を決めています。打楽器の演奏についてはそれぞれの施設の状況に応じて決めているため、不可としている施設も多くありますが、ご理解ください。今後も文化芸術活動を行う方の充実に資するよう、引き続き取り組んでいきます。

意見の概要	国際スポーツ大会誘致事業については、財力のある国や地域に任せるべきであると考えため、中止してほしい。
札幌市の考え方	国際スポーツ大会の誘致はスポーツに対する市民の関心を高め、スポーツのまち・札幌の魅力を世界に発信する上で重要だと考えています。また、アクションプラン 2023 ではパラスポーツの国際大会誘致にも取り組み、心のバリアフリーを市民に広く浸透させ、共生社会の実現につなげていきます。

意見の概要	札幌ドームで、もっと展示などのイベントや自分の推しのアーティストが気軽にライブをできるようにしてほしい。
札幌市の考え方	札幌ドームでは、今年度から 1.5～2万人規模のイベント開催も可能な新モードを整備しました。いただいたご意見を参考に今後も多様なイベントが開催できるよう、(株)札幌ドームとともに取り組んでいきます。

意見の概要	札幌ドームの 2 万人規模のイベントに対応する新モードの効果について教えてほしい。
札幌市の考え方	札幌ドームの収容人数は4～5万人ですが、新モードを整備したことで、1.5～2万人規模のイベント開催が容易となり、様々な規模、多様なイベントの開催が可能となります。

意見の概要	札幌ドームで、日本ハムファイターズの凱旋試合などは予定しているのか。
札幌市の考え方	札幌ドームでの日本ハムファイターズの試合の開催については、現時点では未定ですが、いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。

意見の概要	札幌ドームの赤字問題に対して、今後はどのように対応していくつもりなのか。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	新たなイベント誘致や多様なイベント開催など、様々な検討を行い、収益確保・経費削減に努め、経営安定化に向けて引き続き(株)札幌ドームとともに取り組んでいきます。

意見の概要	札幌ドームについて、今年からプロ野球チームの移転や広告収入の減少があり、2023年度は赤字で終了する見込みとのこと。新モードも導入したが、結局予約は埋まらなかったという。今年は下水道展や秋季高校野球の開催等があったが、札幌ドームはフィールドの床がアスファルトで野球やサッカーの試合には体の負担が大きく、怪我の原因となるので札幌ドームの在り方を見直すべき。
札幌市の考え方	全天候型多目的施設としての特徴を生かした様々な活用方法を(株)札幌ドームとともに引き続き検討していきます。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。

意見の概要	札幌ドームをなんとかしてほしい。
札幌市の考え方	全天候型多目的施設としての特徴を生かし、今後も多様なイベントの開催を実現させ、収益確保に努めるとともに、市民の皆様にご利用いただける機会を創出できるよう取り組んでいきます。

意見の概要	野球の国際試合を札幌ドームでやってほしい。また、そのために、ドーム芝の整備を進めてほしい。
札幌市の考え方	今年度は、札幌ドームで高校野球秋季全道大会を初開催しており、今後もアマチュア大会の開催促進を進めて行く予定です。いただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。

意見の概要	体を動かすことにより身体的にも精神的にも良い効果が持たせられるとされている雪中サッカーの大会を開催してほしい。また、大会の観戦者も参加できるようなアクティビティも同時に用意してほしい。さらに、体を温めるような食べ物を提供する店なども出店してほしい。
札幌市の考え方	降雪量が豊富な札幌市においては、その環境を生かしたウインタースポーツ振興が重要であると考えており、いただいた意見を参考にしながら、身近なところでウインタースポーツを楽しむことができる環境の充実に取り組んでいきます。

意見の概要	博物館ができるのを楽しみにしています。
札幌市の考え方	博物館を整備することで市民や観光客の札幌への理解・認識を深め、札幌の魅力をより高めることができると考えており、アクションプラン 2023 では、資料の収集保存、調査研究、普及交流などの取組を継続するとともに、(仮称)札幌自然史博物館の整備に関する調査検討を進めます。

意見の概要	札幌で生まれた文化芸術に関して、後継者がいないため失われていくことを危惧している。劇場なども減少しているので、札幌市で文化芸術に関する取組にもっと力を入れてほしい。
札幌市の考え方	札幌市ではこれまでも文化芸術の担い手創出に向けた取組や、文化芸術活動への支援、活動環境整備などを進めてきました。いただいたご意見を参考に、より一層の進展に向けて検討していきます。

意見の概要	KPOP やマンガ、小説が好きなので、関連するグッズなどが買えるお店がほしい。
札幌市の考え方	マンガ等のポップカルチャーを活用したまちづくりの推進については、企画展等を開催する中でニーズや効果等について調査を進め、今後の具体的な取組について検討していきます。

意見の概要	アイドルがライブできるような野外ライブ会場を札幌市につくってほしい。
札幌市の考え方	現状、野外での音楽公演等が可能な施設としては札幌芸術の森野外ステージなどがあります。市内文化施設の在り方については、現状の施設状況を勘案しながら、市民の皆様にとって利便性の高いものとなるよう検討していきます。

意見の概要	文化芸術への支援を行ってほしい。
札幌市の考え方	札幌市ではこれまで、文化芸術活動を支える施設等の環境整備や、文化芸術活動を行う方々への助成などを行っており、2022 年度には、アーティスト等の実状により即した支援を行うための新しい仕組みを試験的に運営しました。今後も、文化芸術活動をより効果的に支援することができるよう、検討を進めていきます。

意見の概要	文化芸術に関するイベントを増やしてほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	札幌市では現在、パシフィック・ミュージック・フェスティバル札幌やサッポロ・シティ・ジャズ、札幌国際芸術祭、さっぽろアートステージなどの多様なジャンルの文化芸術イベントを実施しています。今後もこうしたイベントを始めとして、より多くの方々が文化芸術に親しむことができる環境づくりを検討していきます。

まちづくりの分野 7:環境

意見の概要	市民向け再エネ省エネ補助金は、事業費を増額し、利用しやすくしてほしい。
札幌市の考え方	太陽光など再生可能エネルギーの導入拡大は脱炭素社会の早期実現に向け重要だと考えており、今後も多くの方にご利用いただけるよう、補助金制度を運用していきます。

意見の概要	札幌市の電力は、現在4分の3を火力発電に頼っているが、二酸化炭素排出量の抑制が可能な再生可能エネルギーを導入してほしい。
札幌市の考え方	再生可能エネルギーの導入拡大は重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、市民や企業へ太陽光発電などの再エネ機器の導入に対する補助を行うとともに、市有施設においても太陽光発電設備の設置を進めます。

意見の概要	照明器具のLED化に取り組んでほしい。
札幌市の考え方	各市有施設では、照明や空調といった設備機器の更新計画に合わせて、照明器具をLED化しており、計画的な取組を進めています。建物の新築時など、照明器具を新たに設置する場合は、LEDが一般的に導入されていることや、蛍光灯への法規制なども行われることから、LED照明への置き換えは今後進むと考えられます。

意見の概要	エアコンの代わりに、扇風機と氷袋を使用するなど、電気代を節約できる取組なども考えてほしい。
札幌市の考え方	省エネルギー化に関する取組は重要だと考えており、学校の照明のLED化を進めるほか、学校の建替えに合わせて高効率な設備を導入していきます。

意見の概要	脱炭素社会を実現とあるが、電気自動車はバッテリー制作時や走行用の給電時に二酸化炭素を排出するため、走行中にCO ₂ を排出しないから脱炭素に貢献するという考えは間違っているのではないかと。燃料電池自動車(FCV)は脱炭素に寄与する推進すべき技術なので支援してほしい。
札幌市の考え方	脱炭素社会の実現に向けては、自動車や太陽光パネルなどの製造、廃棄の過程を含めたライフサイクルコスト全体での二酸化炭素排出量の低減が重要であり、これらの製造業界全体で取り組んでいるものと認識しています。アクションプラン 2023 では、走行中に二酸化炭素を排出しない電気自動車や燃料電池自動車の普及にあわせ、充電時に再生可能エネルギー電力を活用する「ゼロカーボン・ドライブ」についても普及を進めていきます。また、燃料電池自動車(FCV)の普及に向けた取組は重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、導入する市民・企業への一部補助のほか、水素ステーションの整備など、FCVを利用しやすい環境づくりに向けた取組を実施します。

意見の概要	水素を燃料に使った除雪車両を考えてほしい。
札幌市の考え方	脱炭素社会の実現に向け、燃料電池自動車(FCV)の普及に向けた取組は重要だと考えています。いただいたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。

意見の概要	電気自動車生産時の二酸化炭素排出を考慮すると、二酸化炭素排出量は既存のガソリン車と大差ないことが分かっているが、どのように考えているのか。
札幌市の考え方	脱炭素社会の実現に向けては、車両製造、廃棄の過程を含めたライフサイクルコスト全体での二酸化炭素排出量の低減が重要であり、自動車製造業界全体で取り組んでいるものと認識しています。アクションプラン 2023 では、走行中に二酸化炭素を排出しない電気自動車や燃料電池自動車の普及にあわせ、充電時に再生可能エネルギー電力を活用する「ゼロカーボン・ドライブ」についても普及を進めていきます。

意見の概要	太陽光エネルギーなどの再生可能エネルギーを増やしていく際は、土砂災害などを引き起こしかねないため、山には設置するべきではない。
札幌市の考え方	太陽光や風力を含めた再生可能エネルギーの導入とともに環境保全への取組は重要だと考えており、今後も関係法令及び条例に基づき、災害防止等に必要な対策を確認した上で、適切な場所への再生可能エネルギー発電設備の導入を実施していきます。

意見の概要	ヒグマだけではなく、キツネのエキノコックス症や、シカが山から下りてこないようにするフェンスや監視カメラの設置などの対策を取るべき。
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 では「さっぽろヒグマ基本計画 2023」に掲げた人とヒグマのすみ分けを実現するために取組を進めることとしており、家庭菜園用の電気柵の助成制度の充実を図るとともに、必要に応じて、ヒグマの出没した森と市街地の境界付近に電気柵を緊急で設置するほか、カメラによる監視を強化するなどの対策をしていきます。エキノコックス症については、感染したキツネの糞から排泄されるエキノコックスの卵が人の口に入ることによって感染する可能性があるため、キツネに近づいたり触れたりしないことや、外出から帰宅した時などにしっかりと手洗い・うがいをすることが、感染予防対策として有効であることを、引き続き市民の皆さまにお知らせしていきます。エゾシカ対策としては、農業被害を防ぎ、森林の生態系を守るため、増えすぎたエゾシカの捕獲事業を進めていくほか、市街地へ出没したエゾシカに関しては、山や川へ誘導するなど人身事故が起きないように努めます。

意見の概要	クマの被害が拡大してきているため、電気柵を設けるなど、早急な対策が必要である。
	ヒグマの生息地をこれ以上狭めず、広げず、市民や旅行者及びヒグマにとってもよい取組を行ってほしい。
	クマの出没が増えてきているので、その対策をしてほしい。
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 では「さっぽろヒグマ基本計画 2023」に掲げた人とヒグマのすみ分けを実現するために、ヒグマの有害性や出没場所に応じて捕獲を含めた対応を取るほか、電気柵や草刈りなどヒグマが市街地に出てこないような対策を強化するとともに、ヒグマ対策への市民一人一人の意識を向上させる取組などを実施していきます。

意見の概要	ヒグマの人身事故等をテレビで見たが、野生動物のすみかを奪ったのは我々であるため、うまく共存できる対策法を見つける必要がある。もし、クマを撃って少なくなってしまうたら、小さな動物が増え続け、生態系が崩れてしまうのではないか。
	クマを駆除せず共存を目指してほしい。
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 では「さっぽろヒグマ基本計画 2023」に掲げた人とヒグマのすみ分けを実現するための取組を行うこととしており、このすみ分けにより生態系の保全を目指しています。なお、ヒグマの有害性や出没場所によっては、市民の安全・安心を確保するため、捕獲を含めた対応を取ることとしています。

意見の概要	ヒグマなどの野生動物への正しい対応方法について知りたい。
札幌市の考え方	野生動物への正しい対応方法を知っていただくためには、ヒグマやエゾシカなどがどのような動物か、どのように生活しているのかを知っていただくことが大切と考えます。このため、札幌市公式ホームページやパネル展、出前講座などを活用して、より分かりやすく多くの皆さまにヒグマ等野生動物の生態や対策についてお伝えできるよう工夫していきます。

意見の概要	ヒグマ対策について市民に伝わっていないので、啓発に力を入れるべき。
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 では「さっぽろヒグマ基本計画 2023」に掲げた人とヒグマのすみ分けを実現するための取組を進めることとしていますが、札幌市公式ホームページやパネル展、出前講座などを活用して、より分かりやすく市民の皆さまにヒグマの生態や市の取組についてお伝えできるよう工夫していきます。

意見の概要	クマやシカなどの野生動物への対策は考えているのか。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 では「さっぽろヒグマ基本計画 2023」に掲げた人とヒグマのすみ分けを実現するために、ヒグマの有害性や出没場所に応じて捕獲を含めた対応を取るほか、電気柵や草刈りなどヒグマが市街地に出てこないような対策を強化するとともに、ヒグマ対策への市民一人一人の意識を向上させる取組などを実施していきます。また、農業被害を防ぎ、森林の生態系を守るため、増えすぎたエゾシカの捕獲事業を進めていくほか、市街地へ出没したエゾシカに関しては、山や川へ誘導するなど人身事故が起きないように努めていきます。

意見の概要	ごみ袋の値段を安くしてほしい。
札幌市の考え方	ごみ袋の価格設定については、市民のごみ減量への動機付けが働くこと、近隣市との均衡という観点から 2 円/L としています。現在、2 円/L の価格設定により、ごみの減量が進み、その状況を維持できていることから、ごみ袋の価格設定は妥当であると考えています。

意見の概要	食べ残しや食品の余りを改善してほしい。またそれにより、給食費を減らしてほしい。
札幌市の考え方	食べ残しや不要な食品が廃棄されて生じる「食品ロス」を減らすことは重要と考えており、出前講座による普及啓発やフードドライブの実施支援に加え、市民がより実践的に食品ロスの削減に取り組めるような事業を今後も実施していきます。また、学校給食では、無駄のない食材の発注を行い、調理過程においては調理くずを最小限に抑えるよう調理の工夫をしているほか、児童生徒には様々な機会を通じて食育を行い、食べ残しを減らすことができるよう取り組んでいるところです。給食費についても、引き続き、適正な管理に努めます。

意見の概要	ポイ捨ての禁止について、啓発のみではなく少額の罰金を設けるべき。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	札幌市では「札幌市たばこの吸い殻及び空き缶等の散乱の防止等に関する条例」を施行し、市内全域でポイ捨てを禁止しており、違反者からは過料を徴収しています。今後も条例の周知啓発に努めます。

意見の概要	まち全体でエコに取り組むために、できる限りごみを減らせるような取組を進めてほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	ごみの減量対策を進めることは重要と考えており、「新スリムシティさっぽろ計画」では、3R(リデュース・リユース・リサイクル)のうち、天然資源の消費を抑制する上で特に重要な2R(リデュース・リユース)について、優先的に取り組むこととしています。「新スリムシティさっぽろ計画」の目標に掲げる「ごみのいちばん少ないまち」を達成するために、市民・事業者の皆様と協力しながら、ごみ減量・リサイクルの取組を進めます。

意見の概要	ペットが幸せに暮らせるようにしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市動物愛護管理センターでは、「人と動物が幸せに暮らせるまち・さっぽろ」を目指して、動物を適切に飼養するために必要な知識等の普及啓発に努めています。

意見の概要	犬や猫などの動物を保護してくれる施設がほしい。
札幌市の考え方	札幌市動物愛護管理センターでは迷子の犬・猫の引取り、飼い主が飼えなくなってしまった犬・猫の引取り、公共の場所で負傷しているペットの収容を行っているほか、収容された動物の新しい飼い主への譲渡を行っています。

意見の概要	学校で、家庭で出た牛乳パックの回収をしてほしい。
札幌市の考え方	牛乳パックの回収などの資源回収については教育課程に基づくものではないため、学校において一律で実施することは困難と考えています。学校の PTA などが実施する集団回収では、回収品目や回収方法など具体的な内容は各実施団体や回収業者で異なりますが、自宅前や学校を指定場所として牛乳パックの回収を行っている団体もありますので、ぜひご活用ください。なお、教育課程上においては、環境教育の一環として環境問題について考える態度などを育てていきます。

意見の概要	環境破壊につなげないためにも、学校で配布する資料も紙ではなく、端末で配布する形にすべき。
札幌市の考え方	学校では端末を積極的に活用し、デジタルの良さとアナログの良さを考えながらペーパーレス化を進めているところです。経費削減や環境に配慮することも大切ですが、プリントの配布がなくなることで戸惑う人もいるため、段階を踏んで進めていくことも大切と考えています。

意見の概要	環境に関する取組を進めてほしい。
札幌市の考え方	温暖化対策として二酸化炭素などの温室効果ガスを削減することが重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入拡大に向けた取組を進めます。

意見の概要	公園の遊具を増やしてほしい。また、安全な遊具や、公園の横にボール遊びができるコートのようなものを作ってほしい。(類似意見 5 件)
	澄川のきよすみ公園の遊具を大きくしてほしい。
札幌市の考え方	公園に係る施設については、公園の種類や規模、周辺の状況、利用量、老朽化の状況などから、設置の可否を個別に判断していきます。

意見の概要	公園を増やしてほしい。
	遊ぶ場所(公園など)を増やして快適なまちにしてほしい。(類似意見 2 件)
札幌市の考え方	札幌市では、市内全体の都市公園の数は充実していることから、都心周辺などの公園の必要性が高い地域での整備を進めていきます。

意見の概要	自然について知る機会を増やしてほしい。もっと札幌の自然を PR してほしい。
札幌市の考え方	公園や森林内の自然歩道などの多様なみどりを介して様々な世代が自然を学び、自然に触れ合えるよう進めていきます。

意見の概要	廃止された施設等を撤去し、自然を大切にす場所を増やしてほしい。
札幌市の考え方	廃止された施設等の跡地は、規模や立地など様々な条件を踏まえて活用方法を検討します。自然と親しむ施設の一つである公園については、市内全体の都市公園の数が充実していることから、都心周辺などの公園の必要性が高い地域での整備を進めていきます。

意見の概要	大きな公園の整備など、派手な事業もありがたいが、「栄通はまなす公園」のように、毎日子どもたちが集まってきて賑やかに遊んでいる公園もあることから、地味ながらも地域にとって必要と思われる公園も整備してほしい。
札幌市の考え方	地域に身近な公園(街区公園)の再整備は重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、老朽化した公園を対象に、多面的機能を確保する『地域の核となる公園』や、遊具等に頼らない新たな機能に特化する『機能特化公園』などメリハリをつけながら、効果的な整備を進めることとしています。

意見の概要	札幌の顔である大通公園の3丁目に喫煙施設があるが、外に漏れる空気は完全に脱臭される装置を追加するか、喫煙施設自体撤去すべきである。
札幌市の考え方	喫煙施設の使用に当たっては、煙等が外へ漏れないように配慮いただくことなどを記載した張り紙を掲示し、注意喚起を行っています。また、喫煙施設を含む公園施設の改修や撤去については、様々な意見を踏まえながら、より良い公園利用が図られるよう慎重に検討していきます。

意見の概要	大通公園を東西につなげるよりも、駐輪場の設置やチカホの拡張(すすきのと豊水すすきのをつなげるなど)に税金を使用してほしい。
札幌市の考え方	大通公園の公園区画をつなげることについては、大通公園の魅力向上を検討する中で、周辺への影響把握や議論を踏まえながら、その可否も含めて慎重かつ丁寧に議論をしていきます。駐輪場については、放置自転車の状況などを踏まえながら、必要に応じて整備について検討します。また、地下歩行ネットワークについては、官民連携により充実を図ることとしており、歩行者環境の改善や回遊性向上等のため、都心の現状や課題、取組の方向性を整理し、居心地が良く歩きやすく・滞留したくなる空間の形成に向けた検討等を進めます。

意見の概要	大通公園を東西につなげる案について、南北の移動が非常に面倒になるので絶対に止めてほしい。
札幌市の考え方	大通の道路機能及び大通公園の公園機能にはともに役割があり、いずれも都心における重要な都市基盤であると考えています。大通公園の公園区画をつなげることについては、大通公園の魅力向上を検討する中で、周辺への影響把握や議論を踏まえながら、その可否も含めて慎重かつ丁寧に議論をしていきます。

意見の概要	公園にゴミ箱を設置してほしい。
札幌市の考え方	札幌市の公園では、家庭ゴミの持ち込みなどによりゴミが散乱し、公園の利用環境が悪化するなどの問題が生じたため、大通公園など一部の公園を除きゴミ箱を撤去しています。これからも誰もが気持ちよく過ごすことができるような公園づくりを推進していきます。

意見の概要	車での移動がなくても農業の魅力に触れることができるよう、小さくてもいいので「都市農地」を公園のように「点在」する形にしてほしい。
札幌市の考え方	札幌市の農地は、市街化調整区域内の農地と市街化区域内の農地に区分され、これらは全て「都市農地」に位置づけられます。ご意見で記載されている「都市農地」とは、市民が農地を利用する「市民農園」のことかと思われます。現在、札幌市が認定している認定市民農園は市内に 23 箇所あり、各地域に点在していますが、今後とも、市公式ホームページなどでの広報に努めるほか、交通便利の良い場所への開設を促していきたいと考えています。

意見の概要	札幌市の外来種に対する対応を積極的にやってほしい。また、プロジェクト化するなど、固有種の保護も積極的にやってほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	生物多様性の保全の観点から、外来種対策は重要と考えており、改定を予定している「生物多様性さっぽろビジョン」では、市民理解の促進として普及啓発を継続するほか、外来種の捕獲対応を進めることとしています。また、固有種の保護等の観点では、札幌市版レッドリストの見直し及び掲載種の保全事業について検討を進めます。

意見の概要	シマフクロウなどの絶滅危惧種の保護に取り組んでほしい。
札幌市の考え方	シマフクロウなどの絶滅危惧種に関しては、動物園での飼育により生態の解明を進めるとともに、野生動物の保全を目的とした研究を専門機関と共同で取り組みます。アクションプラン 2023 では、北海道に生息する動物の総合展示・保全施設の整備に向けた調査研究を実施します。

意見の概要	生物多様性さっぽろビジョンの生物多様性保全の施策について、国と連携するなど篠路福移湿地が今以上に失われないように守ってほしい。
札幌市の考え方	生物多様性の保全の観点から、篠路福移湿原の重要性については認識しています。改定を予定している「生物多様性さっぽろビジョン」では、保全すべき生態系の一例として紹介しており、その重要性について普及啓発を進めることとしています。

意見の概要	環境への配慮及び精神衛生の向上のため植樹イベントを実施してほしい。
札幌市の考え方	札幌が持つ多様な自然環境を保全するためには、市民一人一人が、自然環境について親しみと興味を持ち、理解を深め守り育み活かすことが重要だと考えており、引き続き、市民が緑と触れ合う機会の創出等協働によるみどりづくりを進めていきます。

意見の概要	まちの魅力向上のため、花を増やしてほしい。
札幌市の考え方	色彩豊かな花でまちを彩ることは、まちの魅力向上に重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、市民や企業が取り組む花植えに対して、花苗の配布などの支援を実施します。

意見の概要	森をできるだけ残して、札幌を空気がおいしく、楽しめるまちにしてほしい。
札幌市の考え方	豊かな森林を保全していくことは大切であると考えています。アクションプラン 2023 では、健全な森づくりを進めるため、手入れ不足の森林の整備を中心に実施します。

意見の概要	ドライバーに、自動車生活が公害を生み、人々の QOL を低下させていることを周知してほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、脱炭素社会の実現とともに環境保全に向けた取組は重要だと考えており、走行中に二酸化炭素や大気汚染物質を排出しない電気自動車や燃料電池自動車などのゼロエミッション自動車の導入とともに公共交通の利用を促進しています。

意見の概要	「高断熱・高気密住宅普及促進事業」に、既存住宅の高断熱化工事の「コンサルタント派遣」にくわえて「工事費補助」を追加してほしい。
札幌市の考え方	高断熱・高気密住宅の普及促進を図るため、既存集合住宅の高断熱化に係る改修工事費等の補助についても検討を進めていきます。

意見の概要	雪虫対策をしてほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	札幌市では、「衛生害虫(ダニ、ノミ、シロアリ等基本的に、住まいを起因とするもの)」の駆除にかかる相談対応は行っています。一方で、雪虫などの「不快害虫(カメムシ、ユキムシ、ガ等)」については、根本的な対策は困難であることから、駆除に関する対応はしていません。雪虫の発生期間は短いため、雪虫の多い日は屋外への外出を控えるなどの対応をお願いします。

まちづくりの分野 8:都市空間

意見の概要	公共施設にエアコンを設置してほしい。
札幌市の考え方	札幌はこれまで、夏季は比較的冷涼で過ごしやすい地域とされてきましたが、近年では真夏日が増加してきており、とりわけ 2023 年度は記録的な猛暑となりました。こうした状況を踏まえ、アクションプラン 2023 には、夏季期間においても子どもたちが安全かつ快適に学ぶことができるよう、全ての市立学校等への冷房設備の整備を盛り込みました。学校以外の公共施設についても、今後検討していきます。

意見の概要	学校のグラウンドを芝にしてほしい。
札幌市の考え方	グラウンドの芝生化については、費用や維持管理の観点から全校一律で導入することは困難ですが、良好な教育環境を整備することは重要だと考えており、今後も、学校施設の整備内容について、様々なご意見に耳を傾けながら検討していきます。

意見の概要	学校のグラウンドに遊具を増やしてほしい。
札幌市の考え方	グラウンドの遊具については、各学校に設置する標準的な遊具を定めた教育委員会の指針に基づき整備を進めていますが、良好な教育環境を整備することは重要だと考えており、今後も、学校施設の整備内容について、様々なご意見に耳を傾けながら検討していきます。

意見の概要	学校にサッカーゴールと人工芝がほしい。
札幌市の考え方	サッカーゴールと人工芝の整備については、費用や維持管理の観点から全校一律で導入することは困難ですが、良好な教育環境を整備することは重要だと考えており、今後も、学校施設の整備内容について、様々なご意見に耳を傾けながら検討していきます。

意見の概要	エレベーターを学校につけてほしい。
札幌市の考え方	全ての子どもが安心して学ぶことができる環境の整備は重要だと考えており、エレベーターについては、学校の建替えやリニューアル改修時のほか、個別の必要性に応じて整備を進めていきます。

意見の概要	学校のトイレ改修を早く進めてほしい。
札幌市の考え方	学校のトイレについては、計画的に改修を進めていますが、良好な教育環境を整備することは重要だと考えており、今後も、学校施設の整備内容について、様々なご意見に耳を傾けながら検討していきます。

意見の概要	学校の外にバスケットゴールを作してほしい。
札幌市の考え方	学校の外にバスケットゴールを設置することについては、費用や維持管理の観点から全校一律で導入することは困難ですが、良好な教育環境を整備することは重要だと考えており、今後も、学校施設の整備内容について、様々なご意見に耳を傾けながら検討していきます。

意見の概要	様々な競技を行えるように、学校の体育館を広くしてほしい。
札幌市の考え方	学校の体育館については、国の補助金制度の上限面積を目安に整備を進めていますが、良好な教育環境を整備することは重要だと考えており、今後も、学校施設の整備内容について、様々なご意見に耳を傾けながら検討していきます。

意見の概要	事業費を縮小するため、老朽化が進んだ学校の統合に取り組むべき。
札幌市の考え方	子どもたちがたくましく育ち、社会性や協調性のほか、向上心、創造性、多面的思考や公正な判断力などを身に付けるためには、「集団による学びの力」が非常に大きな役割を果たすと考えており、学校や保護者、地域の意見を伺いながら学校規模の適正化を図ってきています。今後も、様々な声に耳を傾け、取組を進めていきます。

意見の概要	学校のグラウンドを人工芝にしてほしい。
札幌市の考え方	人工芝への変更は費用や維持管理の観点から困難ですが、良好な教育環境を整備することは重要だと考えており、学校の建替えを行う場合は、グラウンドを新しく整備していきます。

意見の概要	統合によって残された学校は、どうなってしまうのか。壊されてしまうのか。有効な使い方をしてほしい。
札幌市の考え方	アクションプラン 2023 では、学校統合により生じる跡地・跡施設について、地域の活性化に向け民間活力の導入も視野に入れながら、地域とともに有効な活用方法を検討します。

意見の概要	少子高齢化・人口減少に伴い小学校もどんどん不要になっていくのか知りたい。
札幌市の考え方	札幌市においても、少子化の影響により児童生徒数の減少とともに1校当たりの学級数が減少する「学校の小規模化」が進んでいます。子どもたちがたくましく育ち、社会性や協調性のほか、向上心、創造性、多面的思考や公正な判断力などを身に付けるためには、「集団による学びの力」が非常に大きな役割を果たすと考えており、今後も学校や保護者、地域の意見を伺いながら学校規模の適正化を図っていきます。

意見の概要	老朽化している小中学校の改修工事について、アクションプラン 2023 の内容から更なる推進をしてほしい。特に水回りについては、古い汚い環境だと、治安や精神面への影響もあると考えられるため、重点的に推し進めてほしい。
札幌市の考え方	良好な教育環境の確保は重要だと考えており、老朽化している小中学校については、計画的に改修工事を行っていくほか、学校の建替えやリニューアル改修工事を行うなど、様々な手法を組み合わせることで老朽化対策に取り組んでいきます。

意見の概要	丘珠空港について、交通アクセスに不便を感じるが、その点について何か取組はあるのか。また、その取組が新たな公共交通と関連があるのであればその点を教えてほしい。
札幌市の考え方	2022年11月に策定した「丘珠空港の将来像」において、空港へのアクセス充実の取組として、航空便の発着時間に対応したバス運行の確保や空港連絡バスの通年運航化等、バスアクセスの充実を図っていく考えです。新たな公共交通については、事業採算性も踏まえながら、将来的な利用者数の増加に応じて、必要なアクセスの充実について検討していきます。

意見の概要	丘珠空港利活用推進事業について、滑走路の延伸により冬でもジェット機が飛んだり、航空機が増便したりすることでますます住環境が悪くなるため、滑走路延伸・増便に反対。
札幌市の考え方	2022年11月に策定した「丘珠空港の将来像」においては、滑走路の延伸により運航便数が増加しても、毎年騒音調査を行いながら、航空機騒音の環境基準内での運用とする考えです。引き続き、空港周辺的生活環境の保全を図ることについて、地域住民へしっかりと説明していくとともに、今後の増便に向けた騒音調査の方法等について、地域と協議しながら検討していきます。

意見の概要	丘珠空港の滑走路延長により、夏だけでも東京、大阪、福岡などへ直接行けるようにしてほしい。
札幌市の考え方	2022年11月に策定した「丘珠空港の将来像」において、路線の拡充の取組として、北海道と直行便がない道外各地との路線就航により道内への集客に貢献するほか、新たな需要を創出し、札幌を始めとした北海道の経済活性化につなげていく考えです。具体的な就航路線については、皆様からのご意見等も踏まえながら、今後、関係機関と情報共有を行い、必要に応じて航空会社に働きかけを行ってまいります。

意見の概要	バスがもっと快適に利用できるよう、バスの時刻を生徒の登下校の時間に合わせた運行をしてほしい。
札幌市の考え方	通勤・通学時間帯の需要など、利便性に配慮したバス運行が行われるよう、バス事業者と連携し取り組んでいきます。

意見の概要	バス運転手が減っているのだから、新しいバスターミナルを増やしても意味がないのではないかと。
札幌市の考え方	新しいバスターミナルを整備し、都心のバス乗降機能の集約化を図ることで、交通結節機能の向上や都心部の交通円滑化を図ります。バスの運転手不足等に伴う路線や便数の動向も踏まえながら、引き続き、関係者と協議を重ね、検討を進めてまいります。

意見の概要	交通の便を増やしてほしい。
札幌市の考え方	地下鉄、JR、路面電車、バス、タクシーなどの公共交通機関が持つ個々の特性や役割を生かし、持続可能な公共交通ネットワークの構築に向けて、公共交通事業者と連携しながら取り組んでいきます。特にバスについては、需要と供給に応じたサービス水準の確保を目指してまいります。

意見の概要	地下鉄に自転車を乗せられるようにしてほしい(自転車専用車両をつくってほしい)。
札幌市の考え方	札幌市では、2005年度にサイクルトレイン実施に向けた社会実験を地下鉄駅で実施しましたが、他のお客様への安全対策の継続的な実施が困難であることなどを理由に、本格実施は見送っています。なお、札幌市営地下鉄では、輪行袋に収納した自転車はお手荷物として持込み可能です。

意見の概要	丘珠空港から地下鉄栄町駅まで、都市型ロープウェイか、地下鉄など設けてほしい。更に栄町駅から周辺商業施設などまで地下鉄か都市型ロープウェイを通してほしい。
札幌市の考え方	2022年11月に策定した「丘珠空港の将来像」において、空港へのアクセス充実の取組として、航空便の発着時間に対応したバス運行の確保や空港連絡バスの通年運航化等、バスアクセスの充実を図っていくこととしています。新たな二次交通の整備については、事業採算性に課題はありますが、将来的な利用者数の増加に応じて、必要なアクセスの充実について検討していきます。

意見の概要	近場に駅を作ってほしい。 地下鉄を延伸してほしい。バスも減ったので、まちの移動手段を改善してほしい。(類似意見2件)
札幌市の考え方	四季を通じて、誰もが快適に利用でき、環境にもやさしい移動環境・手段が整備されることは重要だと考えています。アクションプラン2023では、将来的な交通の在り方の検討や札幌市総合交通計画の見直しに向けた、総合的な交通体系の調査を実施します。

意見の概要	公共交通機関利用が優れていることを周知してほしい。
札幌市の考え方	引き続き、環境に優しく、持続可能な都市を支える交通環境を実現するため、分かりやすく効果的な情報発信や啓発、教育に取り組んでいきます。

意見の概要	環境に配慮するため、地下鉄の料金も100円など気軽に利用できる金額にして、車の利用を減らすように促してほしい。
札幌市の考え方	地下鉄事業において、乗車料収入は収益の大部分を占めており、経営に必要となる経費などは乗車料収入などにより賄われています。このため、運賃の引下げについては、経営に与える影響が相当に大きいものとなることから、実施に当たっては慎重な判断が必要となります。一方で、より地下鉄をご利用いただけるよう、お得に地下鉄にご乗車いただける各種1日乗車券を販売しているところであり、これについては今後も引き続き継続していきたいと考えています。自動車から公共交通機関への転換を促し、環境負荷の低減につなげることは重要だと考えており、こうしたサービス向上に向けた乗車券の企画・発行などを通じて、公共交通の利用促進の取組を進めています。

意見の概要	バスの運賃を下げしてほしい。また、混雑時にバスの押しボタンを押さなくても停まってくれるような方法を考えてほしい。
	バスの乗車が遠距離になる時には無料にしてほしい。
札幌市の考え方	全国的な傾向と同様に、札幌においてもバス運転手不足が深刻化していることから、運賃設定については、バス運転手の確保に向け、待遇や労働環境の改善の実現といった視点を踏まえる必要があると考えています。また、公共交通の維持や環境への配慮の観点からバスの利用促進を図ることも重要と考えているため、バス事業者と連携しながら多様な観点での利便性向上に取り組んでいきます。

意見の概要	北海道新幹線の札幌延伸に合わせて、札幌駅周辺で多くのビルが建て替えられるが、既存のものを利用せず新しく建てるのはなぜか。
札幌市の考え方	札幌の都心部のビルの多くは1972年の冬季オリンピック競技大会の開催を契機に建てられましたが、そこから約50年が経過した現在では、ビルの老朽化が進んでいます。こうした中、北海道新幹線の札幌駅までの延伸・開業によって、経済圏域や交流人口の拡大などを通じて人の流れが大きく変化していくことが見込まれていることから、民間開発の動きが活発化しています。このような機会を最大限活用した都市のリニューアルを推進するため、アクションプラン2023では、札幌駅の周辺において、民間活力を活用し、道都札幌の玄関口にふさわしい空間形成、都市の競争力を高める業務・観光・宿泊などの機能や交通結節機能の強化を推進する市街地再開発事業を支援します。

意見の概要	新幹線がくることはよいが、駅周辺に大きな建物を建てても、一時的に人が集まるだけで意味があまりないのではないか。
札幌市の考え方	北海道新幹線の札幌駅までの延伸・開業によって、経済圏域や交流人口の拡大などを通じて人の流れが大きく変化していくことが見込まれています。こうした新幹線の開業効果を生かして札幌・北海道の活性化を図るため、アクションプラン2023では、札幌駅の周辺において、民間活力を活用し、道都札幌の玄関口にふさわしい空間形成や、都市の競争力を高める業務・観光・宿泊などの機能や交通結節機能の強化を推進する市街地再開発事業を支援します。

意見の概要	新幹線の札幌開通は良いが、それに伴いビルの建築に掛ける予算が多いのだとしたら、ビルを3つも建てる意味をしっかりと市民に伝えた上でお金を使ってほしい。
札幌市の考え方	北海道新幹線の札幌駅までの延伸・開業によって、経済圏域や交流人口の拡大などを通じて人の流れが大きく変化していくことが見込まれています。こうした新幹線の開業効果を生かして札幌・北海道の活性化を図るため、アクションプラン 2023 では、民間活力を活用し土地の高度利用や都市機能の更新を図るため市街地再開発事業を支援します。こうした事業の内容は、市のホームページで公表しているほか、各種計画の策定におけるパブリックコメントの実施や、市議会・都市計画審議会における審議等において市民や専門家の方々のご意見をお伺いしながら進めています。

意見の概要	北海道新幹線の延伸は、利用者が増えるので良い取組だと思うが、大型の高層ビルを色々建てるのは、多額の費用が掛かってしまったり、開発する際に環境への影響が大きかったりするのではないかな。
札幌市の考え方	北海道新幹線の札幌駅までの延伸・開業によって、経済圏域や交流人口の拡大などを通じて人の流れが大きく変化していくことが見込まれています。こうした新幹線の開業効果を生かして札幌・北海道の活性化を図るため、アクションプラン 2023 では、民間活力を活用し土地の高度利用や都市機能の更新を図るため市街地再開発事業を支援します。事業者が大規模な開発事業を行う際は、あらかじめその事業が環境に与える影響について調査・予測・評価を行い、その結果を公表し、市民や行政の意見を参考にして、事業を環境保全上より望ましいものとしていく仕組みである環境アセスメント(環境影響評価)等の手続きを経ることにより、環境の保全に向けて適切に対応しています。

意見の概要	北海道新幹線ができることで、無くなる公共施設はあるのか。
札幌市の考え方	北海道新幹線は、小樽方面から札幌駅の直前(石山通付近)まで地下トンネルで整備され、札幌駅周辺では高架橋で整備されます。札幌駅周辺では、既存の道路敷地に新幹線を整備することになるため、一部の道路は、道路幅を狭めたり、廃止したりするところがあります。

意見の概要	北海道新幹線の札幌延伸について、2030 年度から延期になるという報道も出ているが、それに伴い札幌のまちづくりに影響が出るのか。
札幌市の考え方	国や鉄道・運輸機構において、開業目標を変更したという事実はありません。現在、札幌市内では 2030 年度末の札幌延伸を見据えたまちづくりを進めていることから、建設工事を円滑に進めていただくよう、北海道や沿線自治体とも連携しながら、国や鉄道・運輸機構に強く求めています。

意見の概要	新幹線が開通することで、建物や交通機関に悪影響はないのか。
札幌市の考え方	北海道新幹線は、小樽方面から札幌駅の直前(石山通付近)まで地下トンネルで整備され、札幌駅周辺では高架橋で整備されます。整備に当たっては、周辺の建物に影響が出ていないかどうかを調査しながら、慎重に工事が進められています。また、札幌駅構内においては、1番線の廃止及び11番ホームの新設が行われています。

意見の概要	新幹線は札幌の他の地域にも延伸するのか。
札幌市の考え方	現在整備を行っている北海道新幹線の札幌延伸については、JR 札幌駅の東側に新幹線札幌駅を整備しているところであり、終点となります。なお、国が定める整備新幹線の基本計画路線としては、札幌～旭川間や長万部～室蘭～札幌間がありますが、事業化はされていません。

意見の概要	旭川まで新幹線を延伸してほしい。
札幌市の考え方	国が定める整備新幹線の基本計画路線としては、札幌～旭川間がありますが、現在のところ事業化はされておらず、今後、国において事業化の判断をするものと考えています。

意見の概要	新幹線の延伸について、小樽方面ではなく千歳方面にすれば2030年よりも前倒し可能なのではないかと。
札幌市の考え方	北海道新幹線(新函館北斗～札幌間)については、整備主体である鉄道・運輸機構が、小樽方面から札幌に延伸するルートで国の認可を受け、工事が進められています。なお、国が定める整備新幹線の基本計画路線として、長万部～室蘭～札幌間がありますが、事業化はされていません。

意見の概要	新幹線の札幌延伸を楽しみにしている。
札幌市の考え方	新幹線の札幌延伸により移動時間が短くなり、仕事や旅行などで札幌に来る人が増えることが見込まれます。これにより、札幌市内に宿泊したり食事をしたりする人が増え、働く機会や収入の増加にもつながり、札幌市が元気で豊かなまちになることが期待されます。

意見の概要	少子高齢化に対する支援が最優先であるため、中央区役所の建替え費用を削減すべき。
札幌市の考え方	ご意見のとおり少子高齢化に対する施策を実施することや、公共施設の建築費用を抑制することは重要なことと考えています。中央区役所の建替えに当たっては、施設整備はもちろんのこと、市民サービス、維持管理などの観点において、効率的かつ効果的な手法となるよう検討し、PFI手法を採用しています。 (PFI手法:民間の資金、経営力、技術力を活用した整備手法)

意見の概要	他にも建て替えたほうがよい建物があるかと思うが、なぜ中央区役所を建て替える必要があるのか。
札幌市の考え方	中央区役所は耐震性能不足や老朽化等の課題を解消するため、建て替えることとしました。

意見の概要	中心部や地下に気軽に休めるところを作ってほしい。
札幌市の考え方	快適な交流・滞留空間やみどりの創出、移動環境の充実により、魅力的でうるおいのある歩きたくなる都心が形成されることは重要だと考えています。民間の開発に対して滞留空間の整備を誘導するとともに、公共空間においても居心地が良く歩きやすく・滞留したくなる空間の形成に向けた検討等を進めます。

意見の概要	札幌駅前・大通周辺エリアは再開発によりどのように生まれ変わるのか。
札幌市の考え方	札幌駅の周辺においては、新幹線の開業を見据え、北海道・札幌の国際競争力をけん引し、その活力を展開する拠点を形成するため、道都札幌の玄関口にふさわしい空間形成や、都市の競争力を高める業務・観光・宿泊などの機能や交通結節機能の強化などを行っていきます。また、大通とその周辺では、札幌の象徴性を継承し、新たな都心の魅力と活力を育てていくため、大通公園等の地域資源を生かした再開発の誘導・調整などを通じて公園・道路・建物を一体的に感じられる街並みを形成していくとともに、大通と創成川通の交点周辺における象徴的な空間の創出などを進めます。

意見の概要	人口が減少するにも関わらず、工事をしたり施設を建てるのはなぜか。
札幌市の考え方	札幌市には多くの公共施設があり、計画的な建替えを進める必要があります。将来の人口減少に対応するため、建物の更新時期が重ならないように、長寿命化・平準化を行いながら施設総量規模を適正化していきます。

意見の概要	市内に大きな建物が続々と建設されているが、なぜ建てる必要があるのか。
札幌市の考え方	市内のビルの多くは、1972年の冬季オリンピック競技大会の開催時期に合わせて整備されたものであり、約50年が経過しています。そのため、都心部を中心にビルの建替えが多く進められています。

意見の概要	まちの発展のために人口を増やす施策を実施してほしい。
札幌市の考え方	人口を増やす取組は重要だと考えており、アクションプラン2023では、市外への転出者を抑制しつつ市外からの転入者を増やすための、質の高い雇用創出と魅力的な都市づくりや、結婚・出産・子育てを支える環境づくり等を進めていきます。

意見の概要	人口減少の課題への対応として、札幌市内の魅力を外部に伝えるべき。
札幌市の考え方	人口減少の緩和に向けた取組は重要だと考えており、より多くの人に選ばれるまちとなるために、観光・スポーツ・文化芸術やまちづくり活動といった様々な側面から、札幌市ならではの魅力を一層高めていくとともに、これらの魅力を広く発信していきます。

意見の概要	人口減少の対策などを行って、札幌が魅力ある充実したまちになってほしい。また、北海道の豊かな自然のイメージが壊れないまま、より良いまちになってほしい。
札幌市の考え方	人口減少を緩和していくことは重要だと考えており、より多くの人に選ばれるまちとなるために、観光・スポーツ・文化芸術やまちづくり活動といった様々な側面から、札幌市ならではの魅力を一層高めていきます。

意見の概要	札幌駅周辺や新さっぽろ以外に開発を進めようとしている場所があれば教えてほしい。
札幌市の考え方	大通西4地区などの都心部の再開発を進めていくとともに、真駒内駅周辺地区、篠路駅周辺地区などの地域交流拠点のまちづくりを進めていきます。また、高次機能交流拠点などにおいては、民間活力を生かしながら、必要な都市基盤・施設の整備などを進めていきます。

意見の概要	車を用いず、徒歩・自転車での生活が優れていることを周知し、徒歩・自転車を使って生活する者(全年齢対象)への優遇措置をとってほしい。
札幌市の考え方	歩行者にとって歩きたくなる環境をつくることは重要だと考えており、アクションプラン2023では、その実現に向けた効果的な手法等について記載した「(仮称)歩きたくなるまちづくりガイドライン」を策定予定です。

意見の概要	どの世代の人でも楽しく利用できる公共の場所をたくさん作ってほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	老朽化した区役所などの公共施設の更新に合わせて、施設の集約化・複合化を行うほか、既存施設を含め、効果的な整備による空間活用の最適化を行っていきます。

意見の概要	若者の流出を減らすため、新さっぽろに大都市をつくり、札幌の若者の選択の幅を広げてほしい。
札幌市の考え方	魅力的な都市づくりを進めることで若者の流出を減少させることは重要だと考えています。新さっぽろ駅周辺地区においては、新たに大学や病院、商業施設などが整備され、多様な都市機能の集積が図られているところです。アクションプラン 2023 では、新たなにぎわいを創出し地区の魅力を向上させるため、引き続き多様な機能集積を目指すとともに、官民連携によるエリアマネジメントを推進していきます。

意見の概要	屯田公園横の空き地を有効に活用して図書館を作ってほしい。
札幌市の考え方	現時点でご意見のあった地域への図書館の設置は考えていませんが、人生 100 年時代の学びと社会参加を促進するために、図書館の役割・機能強化はますます重要になると考えていますので、今後も、利用者の利便性向上を図るとともに、地域の学びの拠点としての機能をさらに高めるための取組を進めていきます。

意見の概要	札幌市の土地の値段を下げてほしい。
札幌市の考え方	一般的に、土地を含め物の価格は、その需要と供給の関係で決まりますので、現在、土地の価格が上がっているのは、土地の需要が発生していることによるものと認識しています。現在地価は上がっているものの、全国の他の大都市と比べると札幌市の地価は人口規模に対して安いこと、地価の下落による土地所有者の資産価値が下がることなど、市民生活に及ぶ影響を考慮の上、今後適切に対応していく必要があると考えています。

意見の概要	道路は必要最低限の整備にしてほしい。
札幌市の考え方	安全・安心な道路を提供するために、道路点検を実施し、効率的で効果的な補修を実施していきます。

意見の概要	信号機のタイミングを全部そろえてほしい。
札幌市の考え方	信号機の制御等交通規制に関しては警察が所管しており、信号機の変わるタイミングは、できるだけ交通渋滞を起こさないよう警察が調整しています。なお、札幌市では交通安全教室や出前講座を実施し、市民の交通安全意識の向上に努めています。

意見の概要	デコボコな道が車酔いの原因となるので、舗装をきれいにしてほしい。
札幌市の考え方	安全・安心な道路を提供するために、道路点検を実施し、効率的で効果的な補修を実施していきます。

意見の概要	春に向けて、雪と一緒に道路も削られてしまい道路がでこぼこになり事故につながっているのではないかと。影響を受けた道路の補修を早めに行い、夏・秋に向けて事故を減らせるよう対策を取った方が良いのではないかと。
札幌市の考え方	融雪期につきまちは、通常以上にこまめな道路パトロールを行うとともに、市民の皆様からの情報などを基に、道路状況を的確に把握し、作業体制を強化するなどして、迅速な補修を行うよう努めていきます。また、予防保全として降雪前までに路面のひび割れ箇所などの補修を行い、春先の損傷を抑制しています。

意見の概要	信号待ちの時間が掛かるため、歩道橋を増やしてほしい。
札幌市の考え方	道路を横断する上で大事なことは信号待ちで一定程度時間を要しても、子どもからお年寄りまで安全に、そして渡りやすいことです。横断歩道のご利用にご理解ください。

意見の概要	都心部に開発が集中しているので、南区にも大きな駅や遊び場をつくってほしい。(類似意見1件)
札幌市の考え方	地域交流拠点に位置付けられる真駒内では、駅前地区において、滞留・交流空間の充実や様々な機能の誘導など駅の拠点性を生かしたまちづくりを進めることとしており、まちのにぎわいや交流の創出に向け、検討していきます。

意見の概要	南区でも都心部と同様に再開発を行ってほしい。
札幌市の考え方	南区に限らず、地域特性に合わせた開発の誘導を図ることは重要と考えており、都市の健全な機能更新とエリアの価値及び持続性の向上を図るため、民間事業者が再開発等の検討を進めるための調査研究などを支援するとともに、官民連携でまちづくりを進めていきます。

意見の概要	新しい南区役所ができるのを楽しみにしている。
札幌市の考え方	市民の皆様が利用しやすく親しみを持っていただける施設を整備します。

意見の概要	老朽化した南区役所は他の公共施設と複合化するだけでなく、商業施設も入れてほしい。
札幌市の考え方	南区役所の複合化に合わせて市民の利便性が高まるような機能を導入することは重要と考えています。アクションプラン2023では、南区役所庁舎に南区民センターや南保健センター等を複合化した庁舎を整備することとしていますが、こうした行政機能に加え、商業施設等の市民の利便性向上につながる機能の導入についても検討していきます。なお、真駒内駅前地区まちづくり計画では、駅直近の街区において、商業を始めとして南区民の生活を支える多様な都市機能の導入を目指すこととしています。

意見の概要	札幌駅周辺の再開発は、今後数十年後にまた老朽化するのでやめるべき。
札幌市の考え方	札幌駅周辺を始めとした都心部の建物の多くは、1972年の冬季オリンピック競技大会の開催時期に合わせて整備されたものであり、約50年が経過した現在、これらの老朽化が進んでいます。建物の更新に当たっては、環境や防災等に配慮した上で、札幌駅周辺にふさわしい施設として整備される予定です。

意見の概要	公共建築物等の長寿命化に係る取組を更に進めてほしい。(類似意見1件)
	老朽化した市有施設の更新は優先順位を付けて進めるべき。
札幌市の考え方	札幌市には多くの公共施設があり、計画的な建替えを進める必要があります。将来の人口減少に対応するため、建物の更新時期が重ならないように、長寿命化・平準化を行いながら施設総量規模を適正化していきます。

意見の概要	公共施設の老朽化が長期的な課題として挙げられていたが、水道管や電柱等のインフラも老朽化しているため、インフラ整備の点検や交換等も行っていくべき。
札幌市の考え方	市有建築物、インフラ施設の管理に関して、点検・診断などの履歴を集積・蓄積し、維持管理・修繕・更新を含む老朽化対策に生かしていきます。

意見の概要	新しい建物を建てる際は、使われていない古い建物を活用できないのか。
札幌市の考え方	新しい建物の整備の際には、既存の施設の用途転用など市民ニーズに合わせて施設の規模や機能を柔軟に見直すことで対応可能かどうか検討していきます。

意見の概要	多額の費用を要する市役所本庁舎の更新は行わず、改修で対応すべき。
札幌市の考え方	本庁舎は、平時そして災害時にも安定的に業務を継続する必要がある、その整備の検討に当たっては、現庁舎の物理的な制約や劣化の状況の側面、危機管理上の機能など社会的側面、整備手法による経済的負担の側面などを考慮する必要があります。アクションプラン 2023 においては、機能面なども含めた現状と課題や整備手法毎の概算費用などを調査し、更に有識者などのご意見を聞きながら、改修で済むのか建替えを要するのか、検討を進めていきます。

各区の取組

意見の概要	新しいマスコットキャラクターの追加をしたり、グッズの全国販売をしてほしい。(南区)
札幌市の考え方	南区では、全道的にも知名度の高い「定山溪温泉 PR 隊長かっぼん」が、「南区応援キャラクター」としても活躍し、南区を PR しています。さらに、南区子育て支援キャラクター「さくらんぼちゃん」というマスコットキャラクターが 2015 年度に誕生し、2022 年 5 月には南区長より特別住民票が交付されました。南区のホームページ「さくらんぼちゃん HOUSE」には、さくらんぼちゃんのお出かけの様子や大学と連携して作成した動画、使用可能なイラストが掲載されていますので、ぜひ一度ご覧ください。さくらんぼちゃんグッズの販売予定は今のところありませんが、様々な場面でボールペンなどの啓発品を作成し、PR 活動を行っています。

第3章 行財政運営の取組

行政運営の取組

意見の概要	教員の働き方改革を進めて教員を魅力ある職業にしたり手を増やしたり、外部の資源を投入するなどして教育の質を上げてほしい。
札幌市の考え方	これまで働き方改革につながる様々な取組を進めているところですが、ICTを活用した業務負担の軽減等、引き続き教員が働きやすい職場環境の整備に努めていきます。

意見の概要	教員の給与を引き上げてほしい。(類似意見 1 件)
札幌市の考え方	教員などの公務員の給与は、民間企業との均衡を保つため、人事委員会が民間企業の給与を調査して行う人事委員会勧告に基づいて決める仕組みとなっていますので、今後も勧告を尊重した改定を行っていきます。

意見の概要	学校の先生などの公務員の賃金を上げたり、残業代をつけるなど働く大人が生活しやすいまちづくりをしてほしい。
札幌市の考え方	教員などの公務員の給与は、民間企業との均衡を保つため、人事委員会勧告に基づいて決まっていますので、今後も勧告を尊重した改定を行っていきます。また、アクションプラン2023では、働き方改革の推進により、労働環境の改善を図るなど、労働者が生活しやすいまちづくりを進めていきます。

意見の概要	先生が働きやすくなるような取組にぜひ力を入れてほしい。
札幌市の考え方	働き方改革につながる様々な取組を進めているところですが、ICTを活用した業務負担の軽減等、引き続き、教員が働きやすい職場環境の整備に努めていきます。

意見の概要	先生たちが平日も休日もすごく大変そうにしているので、教員の残業代を上げてほしい。
札幌市の考え方	教員は、修学旅行等の学校外での活動や、家庭訪問等の個人での活動、夏休み等の長期休業期間などがあり、これらの働き方の特殊性から、一般的な勤務時間の管理になじまないため、時間外勤務手当(残業代)の代わりに給料月額4%に相当する額を手当として支給しています。現在国においてこの手当の見直しが始まったので、その見直し結果に応じて、必要な対応を行っていきます。

意見の概要	開かれた議会が市民の政治への興味と政治参加につながるよう、市長や市議と市民が語り合う機会の創設、市議会の Web 公開など市民が更に市政に参画できるような仕組みづくりをしてほしい。
札幌市の考え方	市長と市民が語り合う機会については、公募した市民と市長が意見交換を行う「市長と語ろう！サッポロスマイルトーク」及び市長と企業・団体の代表者等が札幌市と連携したいアイデアについて対話する「Meet for the Next」を実施するなどの取組を行っています。市議と市民が語り合う機会については、議員がそれぞれの立場で市政報告などを行い、市民の皆様からのご意見を聴取する取組を行っています。また、市議会の Web 公開は、本会議・特別委員会の中継映像と過去 2 年間分の録画映像をホームページで公開するとともに、本会議・委員会の会議録もホームページで公開しています。札幌市議会では、議員自らが定めた「札幌市議会基本条例」に「広報及び広聴の充実」を規定しており、引き続き広報・広聴の充実を検討していきます。

意見の概要	「市民意見の市政への反映に向けた仕組みづくり」について、市民参加条例の制定が先決である。
札幌市の考え方	市民意見をしっかりと市政に反映することは重要だと考えており、アクションプラン 2023 では、条例の検討を含む市民意向把握の仕組みの構築などを進めます。

意見の概要	市長との対話や、学校単位での市長・市議選挙等の模擬投票と投票結果の公表など市政へ次世代の声を届ける取組を行い、これからの札幌のために、次世代への政治教育を行ってほしい。
札幌市の考え方	市長との対話について、「市長と語ろう！サッポロスマイルトーク★キッズ」として、小学生を対象とした取組の実施を予定しています。学校では、学習指導要領に基づき、社会科等の学習において国や地方の政治の仕組みや進め方について学んでいます。また、市内小中学校では、選挙管理委員会と連携し、主に小学6年生と中学3年生を対象とした「せんきょ体験授業」を実施しています。高校では、「公共」の授業を中心に、政治や選挙について学んでいます。今後も、児童生徒が選挙の大切さを学ぶとともに、選挙を身近に感じられる取組を続けていきます。

意見の概要	市民の意見ボックスを設置してほしい。
札幌市の考え方	市役所本庁舎1階ロビー及び各区役所に「提案箱」を設置しています。

意見の概要	「福祉保健を支える職員、保健師の人材育成推進」について、保健所は高次脳機能障がい者の拠点機関になっているため、専門の知識が必要である。保健師も高次脳機能障がい者に特化した事業所などで研修されることが必要。また、福祉課の職員においても、現場での経験が重要であるため、専門グループなどで育成されることが望ましい。
札幌市の考え方	保健師は、赤ちゃんや高齢者、障がい者など、全ての市民の健康や生活の質(QOL)の維持・向上の取組を支援する専門職として、より質の高い保健活動を行うことができるよう、「札幌市保健師人材育成ガイドライン」に基づき、職場内外での実践的な研修を推進するなど、専門能力や技術の獲得・強化に努めていきます。また、「札幌市一般事務(福祉コース)育成方針」等に基づき、福祉職場の中核となる職員の育成を組織的・計画的に行い、専門性の向上に取り組んでいきます。

意見の概要	採用試験について受験者減、内定辞退者増を抑制し、若年職員を定着させると聞いたが、札幌市は他自治体よりは人気と言われている、倍率も道庁よりも高いため深刻な問題ではないという印象。どのような意図で施策として織り込んだのか教えてほしい。また、内定辞退者がどこの業界に流れているのか把握しているのか。
札幌市の考え方	人口減少や少子高齢化の急速な進行を始めとした社会情勢の変化等を背景に、民間企業・公務員を問わず、人材獲得競争が激化しています。札幌市においても例外ではなく、10年前と比較すると、採用試験の受験者数は半数程度まで減少しており、質の高い行政サービスを継続的に提供していくためには、有為かつ多様な人材を安定的に確保していくことが重要であると捉えています。また、内定辞退者に対しては可能な範囲で就職先を確認しており、主に国やその他の地方公共団体に就職する予定と聞いています。

意見の概要	市役所の仕事には、消防・救急、道路・公園整備、水道・下水道、ごみ収集、除雪、学校整備や地下鉄以外にはどのようなものがあるのか。
札幌市の考え方	札幌市では、そのほかにも、町内会など地域への支援、介護や障がい、子育て等の保健福祉に関する支援、市税の徴収、環境の保全、産業や観光振興、スポーツや文化振興、都市計画の決定など幅広い分野の仕事をしています。

意見の概要	市役所職員は現在2万人程度と聞いたが、最も多かったときはどの程度いたのか。
札幌市の考え方	2023年4月1日現在の札幌市の職員数は、行政職員等14,416人と小中学校の教職員8,615人を合わせた23,031人となっています。小中学校の教職員は、2017年度から札幌市の職員として計上されており、それ以降の職員数としては、現在の23,031人が一番多い人数となります。小中学校の教職員を除く行政職員等の人数だけみると、最も多かったときは1991年度で18,235人になります。

意見の概要	区役所と市税事務所はなぜ分かれているのか。
札幌市の考え方	札幌市では、区役所に来庁される市民の皆様のためのスペースの確保、市税関連業務の効率化等を目的に、10区の区役所から、市内5か所の市税事務所に統合しました。現在は、この5か所の市税事務所で、市民の皆様からの市税の申告・納付、市税証明の取得、相談等を受け付けています。

第3章 行財政運営の取組

財政運営の取組

意見の概要	少子高齢化で市役所に負担がかかることはあるか。
札幌市の考え方	少子高齢化が進展することにより、医療や介護などの社会保障費の増加や、人口減少に伴う市内経済規模の縮小とそれに伴う税収の減少が見込まれるほか、働く年代が減ることで様々な分野での人手不足が見込まれるなど、これまで当たり前提供できていたサービスを維持することが難しくなっていきます。このため、アクションプラン 2023では、市役所の業務を効率化し、財政の健全性を保つための「行財政運営の取組」についてもしっかりと取り組んでいきます。

意見の概要	水道料金や光熱費を少しでも下げてほしい。
札幌市の考え方	水道事業は、地方公営企業として、水道料金で事業費をまかなう「独立採算制」で運営しています。今後、人口減少による料金収入の減少や水道施設更新事業費の増加が見込まれており、水道料金を下げることは難しい状況にありますが、一層の経費節減に努め、健全経営を維持していきたいと考えています。光熱費等のエネルギー価格高騰への支援については、国や北海道と連携しながら、適切な役割分担のもとで対策を行えるよう、引き続き検討していきます。

意見の概要	現状、ふるさと納税の影響で多くの自治体では基金残高が増えているが、札幌ではふるさと納税の流入額より流出額が上回っている。基金を積み立てられない現状に、やや財政運営面での不安を感じる。
札幌市の考え方	基金は、特定の事業や、財源が不足したときに使うために積み立てられたものであり、条例の定めに基づいて設置された札幌市の財産となります。アクションプラン2023の財政運営の取組においては、将来世代に引き継ぐ貴重な財産として、基金の残高を適切な水準に保ち、財政規律の堅持に取り組むこととしています。

意見の概要	札幌市は年間どれくらいの税金を徴収しているのか。
札幌市の考え方	2022年度の市税決算額は3,476億円、2023年度の市税予算額は3,501億円です。

意見の概要	減税してほしい。(類似意見 2 件)
札幌市の考え方	納めていただいた市税は、例えば、公立の小中学校の授業料や教科書代、水道の整備、ごみの収集、除雪などに使われ、皆様の暮らしを支えるための貴重な財源となっています。

意見の概要	光熱費の費用が上がった場合、地方税はどのくらい増えるのか。
札幌市の考え方	光熱費の増額が、地方税額に直接影響するものではありません。

意見の概要	まちづくりを更に進めるために税金を上げてほしい。
札幌市の考え方	札幌市がまちづくりを進める上で貴重な財源となる市税収入を確保するために、公平・適正な課税に努めます。

意見の概要	国際スポーツ大会や国際会議の開催、現在以上の箱物建設は、厳に慎まなければならない。その分を義務教育期間の全ての経費(私立は除き、給食費、研修旅行費、制服費等々含む)の公費負担や医療費の全額公費負担、老朽化したインフラ整備、地域バス路線の拡充等々に回すべきである。オリパラ教育推進事業については、開催に莫大な費用負担が発生することなど、重要な部分についても隠さずに実施すべき。
札幌市の考え方	札幌市としては、安心して子どもを生み育てるための子育て支援や誰もが健康的に暮らし生涯活躍できる環境づくり、新しい時代にふさわしい未来への投資に積極的に資源を配分していきます。なお、オリパラ教育推進事業については、1972 年冬季大会を開催した札幌市の歴史と伝統を踏まえた「ふるさと札幌」への思いを心に持つ学びを充実するとともに、オリンピック・パラリンピックの理念を基盤として、他者との共生の思いを持ちながら生涯にわたって運動やスポーツに楽しむ態度の育成を図ることは教育上重要と考え、本事業を実施するものです。

意見の概要	エアコンの設置や新幹線の札幌延伸、市有施設の更新・修理などの多くの課題に対応するにはもっと財源が必要だと思うが、それはどうやって賄うのか。
札幌市の考え方	国庫支出金等の財源や、世代間の公平性という観点から市債を適切に活用していくほか、市税等の自主財源を中心とした財政基盤の強化により、様々な行政課題に対応していきます。

意見の概要	様々な取組を行うためには多くのお金が掛かるが、そのお金はどのように管理しているのか。
札幌市の考え方	市が扱うお金は、指定する金融機関の口座で基本的に管理しており、皆様からお預かりしたお金を安全に管理しています。

意見の概要	アクションプラン 2023 の事業規模はとても大きいため、札幌市が今後も経済成長していくには、財源をしっかりと確保していくことが必要である。
札幌市の考え方	将来世代に過度な負担を残さない、持続可能な財政運営を行うため、これからも引き続き、税込増につながる取組や財源の確保に努めていきます。

意見の概要	札幌市にとって非常に役に立つ政策が盛り込まれていると感じたが、とても多くの財源が必要である。そういう点を考慮すると、アクションプラン 2023 の全ての政策を実施することは不可能ではないか。
札幌市の考え方	本計画期間における計画事業費と財源を明示した中期財政フレームを策定し、これに基づき単年度の予算編成を行うことで、計画に掲げた政策を確実に実施していきます。

意見の概要	一気に建替えや改修をすると時期が重複するが、どのように行っていくのか。 多くの建物を整備していくことについて、市の予算は大丈夫なのか。
札幌市の考え方	札幌市には多くの公共施設があり、計画的な建替えを進める必要があります。将来の人口減少に対応するため、建物の更新時期が重ならないように、長寿命化・平準化を行いながら施設総量規模を適正化していきます。また、老朽化する公共施設等の更新や、都市基盤の再整備などを進めていくに当たっては、世代間の負担の公平性という観点から、市債を活用していくことが不可欠であり、将来にわたって安定した行政サービスを継続していくために、長期的な財政見通しの下、増加する公共施設の更新需要の平準化に努め、将来世代が負う市債残高の適切な管理や、将来世代に引き継ぐ基金の残高を、適切な水準に管理していきます。

意見の概要	学校や市役所、区役所の老朽化に伴い、改修や建替え等は期間ごとに必要で、大きな費用が掛かるため、どのように借金を返していくのか。例えば、市役所の規模の縮小や学校の統合、授業のオンライン化による教師の削減等に取り組むべき。
札幌市の考え方	老朽化する公共施設等の更新や、都市基盤の再整備などを進めていくに当たっては、世代間の負担の公平性という観点から、市債を活用していくことが不可欠です。市債の返済に当たっては、一度の返済でなく、30年間かけて計画的に返済していくことで、財政的な負担を平準化しています。また、施設規模や事業手法の見直しに当たっては、変化する市民ニーズを確実に捉えながら、必要性や事業効果が低下している既存事業の廃止など、事業の新陳代謝による大胆な政策シフトが今まで以上に強く求められており、市役所一丸となって、前例に捉われない本格的な「選択と集中」を実行し、抜本的な事業再編・再構築に取り組めます。

意見の概要	市外から来る人を増やすよりも、住んでいる人たちが減らないための取組に使う事業を生み出すために、必要な財源の見通しに力を入れてほしい。
札幌市の考え方	札幌市が担う行政分野は非常に幅広く、市外から人の呼び込みも、若い世代の地元定着も共に重要な市政課題であり、アクションプラン 2023 では、いずれも優先度が高いものと判断し、計画に計上しています。

意見の概要	公共施設の建替えについて、将来世代の人にも負担してもらおうとなっているが、そうになると借金が増え、利子もついてしまうため、一度にお金を集めた方が良いのではないか。
札幌市の考え方	老朽化する公共施設等の更新や、都市基盤の再整備などを進めていくに当たっては、世代間の負担の公平性という観点から、札幌市ではこれらの事業の財源として市債(借金)を活用しています。これは、必要な行政サービスが低下しないようにするため、限りある財源が公共施設の建替えのみに用いられることがないようにするためです。

その他

意見の概要	家賃・電気料金が、次の年になってから値上がりすることはあるか。
札幌市の考え方	家賃・電気料金については、札幌市が決定するものではなく、来年以降の値上がりについてお答えはできませんが、引き続き、物価高騰による市民生活への影響の把握に努め、国や北海道とも連携し、適切な対策ができるよう検討していきます。

意見の概要	工事をする際に使用する点字ブロックなどの材料費は値上がりしているのか。
札幌市の考え方	工事をする際に使用する主要な材料は、去年の同時期と比べて2%~30%程値上がりしています。点字ブロックについても10%値上がりしています。

意見の概要	石山東か常盤地区に美味しいラーメン屋や定食屋をつかってほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、まちづくりの観点から、飲食店が出店できる地域を定めていますが、どの地域に出店するかは、事業者が経営の判断の中で行うものと考えています。いただいたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。

意見の概要	動物と一緒に入れるようなカフェをつかってほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、産業振興の重点分野として食産業を引き続き支援していきますが、飲食店の業種や業態等については、事業者の判断によるものと考えています。いただいたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。

意見の概要	クレープ屋さんをつかってほしい。
札幌市の考え方	札幌市では、産業振興の重点分野として食産業を引き続き支援していきますが、飲食店の業種や業態等については、事業者の判断によるものと考えています。いただいたご意見は今後の取組の参考にさせていただきます。

意見の概要	札幌市の条例について詳しく知りたい。
札幌市の考え方	札幌市の条例については、札幌市公式ホームページ (https://www.city.sapporo.jp/ncms/reiki/d1w_reiki/reiki.html) において札幌市例規集として公開しているほか、各区役所及び中央図書館・各地区図書館においても冊子版の札幌市例規集を配架しており、自由に閲覧できます。なお、各条例の内容については、担当課に直接お問い合わせください。 (各条例の担当課一覧も札幌市公式ホームページ (https://www.city.sapporo.jp/reiki/tanto-list/tanto-list.html) に掲載しています)

意見の概要	食糧費以外の値上がり状況を教えてほしい。
札幌市の考え方	食糧費以外の値上がり状況について、消費者物価指数(2020年の家計支出を100として比較した数値)によりお答えします。「消費者物価指数」の各指標のうち「生鮮食品」は天候要因で値動きが激しいため「生鮮食品を除く総合」指数が用いられることがあります。2023年10月の札幌市の「生鮮食品を除く総合」指数は「106.2」となっており、様々な商品が値上がりしています。個別の指標では「エネルギー」「光熱・水道」「家具・家事用品」「教養娯楽」「被服及び履物」「食料」「住居」「教育」「保健医療」などが値上がりしており、「交通・通信」「情報通信関係費」などは値下がりしています。

分野横断プロジェクトに関連する主な意見について

今回いただいた意見については、主に8つのまちづくりの分野ごとに整理しましたが、第2次戦略ビジョンでは、「目指すべき都市像」の実現に向け、分野横断的に取り組む施策として、人口構造を始めとする様々な変化に大きな影響を受けず、その変化を積極的に生かし持続的に成長していくために取り組む4つのプロジェクト(ユニバーサル(共生)、ウェルネス(健康)、スマート(快適・先端)1、スマート(快適・先端)2)と、人口減少の緩和を進めていくために取り組むプロジェクトの計5つの分野横断プロジェクトを設定しています。これに関連する主な意見をご紹介します。

○ユニバーサル(共生)

- ・札幌のまちをバリアフリーにして、皆が安全安心に暮らせるまちにしてほしい。(P42に掲載)
- ・スムーズに使えるスロープや車椅子の人のためのスペースを作るなど、公共交通機関のバリアフリー化を進めてほしい。(P43に掲載)

○ウェルネス(健康)

- ・長い間、健康に働き続けることができれば、働き手が増えて、若者の負担を減らし、若者の流出を防いで、少子高齢化対策につながると思う。ウォーキングによって札幌市の健康寿命を延ばしてほしい。(健康長寿都市にしてほしい) (P46に掲載)
- ・現在よりも、働き盛りの世代が運動をしやすくなるような環境づくりを推進してほしい。
(P67に掲載)

○スマート(快適・先端)1【デジタル等】

- ・学校のGIGAスクール化も引き続き行ってほしい。(P19に掲載)

○スマート(快適・先端)2【ゼロカーボン等】

- ・効率的な除雪を行ってほしい。(P38に掲載)
- ・水素を燃料に使った除雪車両を考えてほしい。(P72に掲載)

○人口減少緩和

- ・人口減少の対策などを行って、札幌が魅力ある充実したまちになってほしい。また、北海道の豊かな自然のイメージが壊れないまま、より良いまちになってほしい。(P89に掲載)
- ・国外・国内から人が集まるまちにしてほしい。(P59に掲載)

○その他

- ・分野横断プロジェクトマークが付いていないものは、分野横断的には行わないものなのか。マークが付いていないものについても、分野横断的に取り組むべき。(P8に掲載)

今後、札幌市がまちづくりを進めていくに当たっては、より複雑化した課題が顕在化することも見込まれることから、いただいた意見(課題)も踏まえ、異なる分野間の連携を取りながら、分野横断プロジェクトの取組を推進していきます。また、分野横断プロジェクト以外の事業についても、分野をまたがる課題が生じた場合には、関係部局と連携し適切に対応していきます。

第 2 次札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン 2023
パブリックコメント意見集

令和 5 年(2023 年)12 月発行

企画・編集:札幌市まちづくり政策局政策企画部政策調整課

〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目

電話:011-211-2206

FAX:011-218-5109

ホームページ:<https://www.city.sapporo.jp/chosei/actionplan2023.html>

市政等資料番号:01-B01-23-2353